

令和6年度精神保健対策費補助金

摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

国立精神・神経医療研究センター

令和7年7月

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和6年度のあゆみ



April.2024 栃木県支援拠点病院が 獨協医科大学に設置されました

今年も新たな拠点病院が設置されました！令和6年4月、獨協医科大学 精神神経科 が支援拠点病院となりました。拠点病院は摂食障害の専門治療を提供し、地域の医療機関の連携の中心的役割を担う病院です。(P.71栃木県摂食障害支援拠点病院 参照)。
HP <https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/edsupport/index.html>

未来の自分へ

食べる事を怖がらない日々を取り戻していこう



July.2024 東京都支援拠点病院が 東京都立松沢病院に設置されました

令和6年7月、東京都立松沢病院が支援拠点病院となりました。関東圏には、千葉・栃木・東京の3つが設置となりました。2025年3月時点で全国でまだ8つしかない拠点病院ですが、令和4年からは毎年新たな拠点病院が設置されています。松沢病院ではたくさんの方の入院患者さんに治療を提供しています。

(P.101東京都摂食障害支援拠点病院 参照)。

HP

<https://www.tmhp.jp/matsuzawa/sesshoku/>



June.2024 摂食障害世界アクションデイを開催しました



アーカイブ動画
が公開されてい
ます!



世界摂食障害アクションデイは、2016年より世界的に始まった運動で、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。今年は「摂食障害とメディアの良い関係をめざして 第二弾 SNS動画を見て自信なくしていませんか?」をテーマに、リリースした啓発動画を紹介し、動画のポジティブな影響の促進を目指しました。総合討論では摂食障害の闘病経験を持つ世代の当事者と医師などの支援者が立場を超えて、摂食障害とメディアの良い関係について話し合いました。学生によるブースでは、Tシャツなどの販売を通じて啓発活動を行いました。摂食障害協会と共に内容を報告するNEWS LETTERを発行しました。(P24 普及啓発活動 参照)

Jun.2024-May2025 情報サイトに動画コンテンツを追加しました



痩せたいあなたに知って欲しい「痩せの罠」

情報ポータルサイト 一般の方に「動画で学ぼう摂食障害」のページを新設し、“やせ礼賛”の社会的風潮を見つめなおす「正確で共感できる」情報を動画で発信しました。

動画作成にあたっては、摂食障害協会と共同制作し、専門家監修による正確な情報提供と当事者目線を重視した共感的コンテンツを含むようにしました。全部で39本の充実した動画が掲載されています。また1分程度のショート動画を含めることで、若年層にも見てもらえるように工夫しました。患者さんやご家族への説明資料として、また若手治療者への導入教材としてもご活用いただける内容となっています。ぜひ現場での啓発や支援活動にお役立てください。

Center for Eating Disorder Research and Information

情報ポータルサイト 一般の方 <https://www.edportal.jp>

情報ポータルサイト 専門職の方 <https://www.edportal.jp/pro/>

摂食障害全国支援センター <https://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害相談「ほっとライン」 <https://sessyoku-hotline.jp>

目 次

1. 厚生労働省における摂食障害対策	1
2. 摂食障害全国支援センター活動報告書	9
1. 基本情報	10
2. 要旨	12
3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置	13
4. 支援拠点病院統括業務	15
5. 相談支援	16
6. 治療支援・研修	29
7. 普及啓発活動	46
8. 考察	54
3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書	55
1. 基本情報	56
2. 要旨	56
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	57
4. 相談支援	58
5. 治療支援	62
6. 研修	65
7. 普及啓発活動	66
8. 行政機関との連携	69
9. その他の活動	70
10. 考察	70
4. 栃木県摂食障害支援拠点病院活動報告書	71
1. 基本情報	72
2. 要旨	73
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	74
4. 相談支援	75
5. 治療支援	78
6. 研修	80
7. 普及啓発活動	82
8. 行政機関との連携	84
9. その他の活動	85
10. 考察	86
5. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書	87
1. 基本情報	88
2. 要旨	89
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	89

4.	相談支援	90
5.	治療支援	94
6.	研修	95
7.	普及啓発活動.....	97
8.	行政機関との連携	99
9.	その他の活動.....	99
10.	考察	100
6.	東京都摂食障害支援拠点病院活動報告書	101
1.	基本情報	102
2.	要旨	103
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	103
4.	相談支援	104
5.	治療支援	107
6.	研修	109
7.	普及啓発活動.....	110
8.	行政機関との連携	110
9.	その他の活動.....	110
10.	考察	111
7.	石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書	113
1.	基本情報	114
2.	要旨	114
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	115
4.	相談支援	115
5.	治療支援	117
6.	研修	118
7.	普及啓発活動.....	119
8.	行政機関との連携	122
9.	その他の活動.....	122
10.	考察	122
8.	福井県摂食障がい支援拠点病院活動報告書	125
1.	基本情報	126
2.	要旨	127
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	128
4.	相談支援	129
5.	治療支援	132
6.	研修	134
7.	普及啓発活動.....	134
8.	行政機関との連携	136

9.	その他の活動.....	137
10.	考察.....	138
9.	静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	139
1.	基本情報.....	140
2.	要旨.....	141
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	142
4.	相談支援.....	143
5.	治療支援.....	146
6.	研修.....	149
7.	普及啓発活動.....	151
8.	行政機関との連携.....	153
9.	その他の活動.....	154
10.	考察.....	155
10.	福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	157
1.	基本情報.....	158
2.	要旨.....	159
3.	摂食障害対策推進協議会の設置.....	160
4.	相談支援.....	161
5.	治療支援.....	163
6.	研修.....	167
7.	普及啓発活動.....	168
8.	行政機関との連携.....	170
9.	その他の活動.....	171
10.	考察.....	172
11.	令和6年度の活動成果と課題、提言	173
12.	全国摂食障害対策連絡協議会委員	177
13.	摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員	178
14.	摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧	181

1. 厚生労働省における摂食障害対策

～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

令和6年度

1. 厚生労働省における摂食障害対策 ～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

1. 事業概要

摂食障害は、患者に対する治療や支援方法の確立や生命の危険を伴う身体合併症の治療や栄養管理等を行うなど、適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進することが求められている。

これらを踏まえ、平成 26 年度より「摂食障害治療支援センター設置運営事業」を実施している。

具体的には、全国 8 カ所の医療機関を「摂食障害支援拠点病院（以下、「支援拠点病院」という。）」に指定し、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整等を行うとともに、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを全国 1 カ所の「摂食障害全国支援センター」に指定し、診療拠点機関による全国連絡協議会の開催や各支援拠点病院で得られた知見を集積し、支援拠点病院への技術的支援等を実施して、摂食障害患者の治療実績や患者・家族のQOLの向上、地域での多職種・他科連携や普及啓発等多くの実績を挙げてきている。

2. 第 8 次医療計画上の摂食障害の位置づけ

第 8 次医療計画において、「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について」（令和 5 年 3 月 31 日付け医政地発 0331 第 14 号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）の別紙「疾病・事業及び在宅医療に係る医療提供体制に係る指針」中「精神疾患の医療体制構築に係る指針」に基づき、地域の実情を踏まえて、摂食障害に対応できる医療機関を明確にすることが求められていることを踏まえ、これまで実施されてきた「摂食障害治療支援センター設置運営事業」での多職種・他科連携や研修、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発に係る取組み等を参考とし、全都道府県で摂食障害の医療連携体制が構築されるよう、本事業の活用による体制の整備について、全国障害者保健福祉関係主管課長会議や担当所管部署等をお願いしているところである。

3. 事業の成果

本事業は平成 26 年度の開始以降、8 カ所の支援拠点病院（東北大学病院、獨協医科大学病院、東京都立松沢病院、福井大学医学部附属病院、金沢大学附属病院、国立国際医療研究センター国府台病院、浜松医科大学附属病院、九州大学病院）を中心に摂食障害の患者・家族への治療機会の提供や相談支援、設置自治体内の他の医療機関への治療研修などの積極的な取組みの結果、未受診が多いと言われている摂食障害について、発症早期の患者の受診が増加したことに加え、設置自治体内の他の医療機関とも連携が進んだほか、事業に行政が関わっていることにより医療機関以外の他機関（保健所、学校、養護学校等）との連携や協力も進むなど医療提供以外にも一定の効果が出てきている状況である。

また、摂食障害全国支援センター（以下「全国支援センター」という。）（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）では、摂食障害情報ポータルサイトの運用により摂食障害に関する情報発信や普及啓発を行っており、一般の方向けのサイトには年間約 150 万件もアクセスがあり、若年層に多い摂食障害の患者本人や家族、支援者等に対する適切な情報提供に貢献している。

さらに、本事業で開催している全国摂食障害対策連絡協議会に、摂食障害者及びその家族の支援や治療者の育成支援、啓発・予防活動などを行っている一般社団法人日本摂食障害協会に参加いただいております。世界摂食障害アクションデイ 2024 を共催するなど、引き続き、本事業との連携について期待される。

4. 摂食障害支援拠点病院に係る事業実施に関するアンケート

【集計結果（数字は回答自治体数。内容は回答時点。）】

1. 現在、摂食障害治療支援センターを設置する予定があるか。

- ① すでに指定している 8
(宮城県、栃木県、千葉県、東京都、石川県、福井県、静岡県、福岡県)
- ② 指定予定がある 5
(富山県、長野県、奈良県、和歌山県、長崎県)
- ③ 指定予定がない 34

2. 指定予定がない理由（未指定の自治体：複数回答可）

- I. 財源を確保できない 16
- II. 国の実施要綱上の指定要件が厳しい 1
- III. 引き受けてくれる医療機関がない 14
- IV. 摂食障害について対応のノウハウがない 8
- V. 別の補助金を投入し、十分対応できている 0
- VI. 地域医療計画等の補助金以外の仕組みで十分対応できている 1
- VII. 精神保健福祉センター等で受診勧奨から普及啓発まで十分対応できている 1
- VIII. その他 20
 - ・実態把握が必要 4
 - ・拠点を設置するほどのニーズがない 1
 - ・検討段階にない 7
 - ・指定するメリットがない 1
 - ・本事業とは別の拠点機関を複数指定している 1
 - ・指定をせずとも、十分機能している 3
 - ・機能を十分に果たせる医療機関がない 1
 - ・医療機関と意見交換中 1
 - ・医療機関との調整や関係者からの意見聴取ができていない 1

3. 摂食障害対策についてのご意見等

- ・指定した場合は本補助金を活用し連携体制構築研修開催を委託する
- ・保健所や精神保健福祉センターにおいて相談対応を行っているが、摂食障害についての相談件数は少なく、対応できる医療機関も少ないのが現状である。
しかし、多くの患者が相談や受診、診断につながっていない状況があると思われ、拠点病院設置の必要性を感じているが、実態の把握、医療機関の選定に時間を要する。

4. 支援拠点病院設置準備研修会の管内での開催希望有り 11

5. 課題

摂食障害治療支援センター設置運営事業は平成 26 年度から開始し、支援拠点病院は、令和 4 年 10 月に石川県、令和 5 年 10 月に福井県、令和 6 年 4 月に栃木県、7 月に東京都で新設されているが、47 都道府県のうち 8 自治体での設置に止まっている。摂食障害全国支援センターが開設しているホームページへのアクセス数も非常に多いことから、摂食障害に関する医療・支援ニーズの高さがうかがわれるが、それと比較して、専門医療機関・専門医の少なさは引き続き課題となっている。

実際には、全国支援センターと 8 箇所の支援拠点病院に全国の患者本人や家族からの相談が集中しており、令和 3 年度に全国支援センターが国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して「相談ほっとライン」を開設し、支援拠点病院以外の地域からの相談に対応できる体制を整備した。

各自治体において支援拠点病院の設置が進まない主な理由については、そもそも摂食障害に対して効果的な治療方法の普及がなかなか進まず、医療機関において摂食障害の患者の治療に苦慮していることも課題となっていると考えられる。既に外来の予約が数ヶ月待ちという状況にある支援拠点病院のみで摂食障害の治療、回復支援を担うのは困難であり、摂食障害の診療に協力できる医療機関の確保も急務となっている。

アンケート結果からは摂食障害支援拠点病院の指定見込みは立っていないものの、管内での支援拠点病院設置準備研修の開催に意欲的な自治体が増加した。

摂食障害は長期間の治療を要する疾患のため、居住地に近い医療機関で相談・治療が受けられるよう治療支援ネットワークの充実が求められている。

そのため、厚生労働省においては、自治体担当者に対し、摂食障害の治療と支援に資する体制整備の説明を行うとともに関係資料を情報提供している。

6. 今後の方策

(1) 普及啓発の実施について

摂食障害の患者数については、精神保健福祉資料（2021 年 NDB データ）によると、約 22 万人と推計されているところであるが、摂食障害の現状について医療者や患者・家族以外にも広く一般国民に理解して頂き、未受診者を減らすためにも普及啓発活動は重要である。

また、当事者・家族支援の観点で、令和 2 年度から令和 4 年度の AMED 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）「摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発」において、摂食障害家族のピアサポーター養成のための研修プログラムを開発し、当事者・家族支援に活用している。

今後も引き続き、地方自治体、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会などの関係機関の協力もいただきながら、さらなる普及啓発活動の展開が望まれる。

(2) 治療研修の実施について

支援拠点病院を設置されている地域では、原則的には支援拠点病院が地域の医療機関を対象とした治療研修を実施することにより、これまで摂食障害の治療を積極的に実施してこなかった医療機関においても、初診患者や入院患者の受入が可能となる事例も報告されており、確実に摂食障害に対する診療の質の向上が図られている。また、支援拠点病院未設置地域での医療機関でも摂食障害について、現在も適切に対応されているところではあるものの、摂食障害に対応できる一部の医療機関に患者が集中してしまうなど、摂食障害患者が、

日本全国、どの地域でも安心して医療が受けられているとは言い難い状況となっており、治療方法の研修をどのように実施し、診療の質を向上させるかが課題となっている。

そのため、支援拠点病院未設置地域の医療機関への研修については、全国支援センターが中心となり、支援拠点病院の協力を得ながら地道に実施していくことが必要と考えている。

令和2年度の障害者総合福祉推進事業において、「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」を行い、摂食障害治療支援センターの利用による治療および連携支援の好事例を収集したことから、医療従事者向けの治療研修の実施にあたって活用している。

7. 令和7年度からの具体的な取組

厚生労働省としては、全国への支援拠点病院の整備の予算確保と合わせて、引き続き、効果的な治療方法の普及のための研修事業の実施経費等についても令和7年度予算案で計上したところであり、以下のとおり、令和7年度以降、様々な課題の改善に向けて自治体や関係団体との協力・連携体制の構築を進めていく予定である。

(1) 摂食障害全国支援センターの機能の拡充

支援拠点病院未設置の地域において、医療従事者向けの『摂食障害治療研修』を積極的に実施するとともに、自治体や摂食障害の治療を行っている医療機関を対象にした支援拠点病院の設置や地域医療連携の構築を目指す研修を実施することで、支援拠点病院も含む全国の医療機関をサポートする役割を強化する。

(2) 治療方法の開発・普及

令和2年度障害者総合福祉推進事業では治療の実態把握を行ったが、摂食障害の治療効果についてのエビデンスを収集し、効果的な治療を普及させるため、「摂食障害に対する標準的な治療方法（心理的アプローチと身体的アプローチ）とその研修方法の開発及び普及に資する研究」（厚生労働科学研究）を令和3年度から実施し、成人に対する心理療法及び認知行動療法とその研修方法の開発・効果検証、小児への早期介入方法の検討、身体治療マニュアルの効果検証及び普及方法の検討を行ってきた。令和6年度は、治療マニュアルを用いた他施設共同研究、摂食障害の標準的治療の実装等を目指して研究を行っている。

(3) 普及啓発の実施

全国支援センター、支援拠点病院、関係団体においては、オンライン実施など開催方法の工夫により継続して普及啓発の実施をお願いしたい。

また、厚生労働省では、令和3年度から、メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）の考え方をういた「心のサポーター養成事業」を開始しており、摂食障害治療支援センター設置運営事業と心のサポーター養成事業が有機的な相互連携を図ることで、摂食障害について地域住民への普及啓発がより充実するように取り組む。

摂食障害対策

厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部 精神・障害保健課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

摂食障害

患者数（推定）

- 摂食障害患者数： 約220,809人（精神保健福祉資料（2021年NDBデータ））
- 神経性やせ症： 12,674人
 （低体重でも食事量の制限や嘔吐等、痩せるための行動をとる）
- 神経性過食症： 4,612人
 （適正又は過体重であるが、頻繁に過食し、嘔吐等の痩せるための行動をとる）
- 過食性障害： 1,145人
 （過食するが、痩せるための行動をとらない）
- （平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）
- 女子中学生の100人に1～2人、男子中学生の1000人に2～5人
 （平成21年度 障害者総合対策研究事業 「児童・思春期摂食障害に関する基礎的研究」）

治療を受けていない患者が多い

- 保健所や学校、摂食障害治療支援センター相談事例の調査で約半数の患者が治療を受けていない。
- 保健所・保健センターの相談事例のうち治療中断は29.8%、未受診は19.2%であった。
- 神経性やせ症が疑われる生徒のうち1/3～1/2が医療機関を受診していない。

症状

- 精神症状として多いのは、肥満への恐怖・体重や体型へのこだわり、自己誘発性嘔吐、下剤・利尿剤などの乱用、むちゃ食いの反復など
- 身体症状として、脱水、お腹の張り、低血圧などがあり、病状によっては、生命の危険があるときもある

治療

- 規則正しい食事摂取、食事摂取に対する不安や葛藤の傾聴、カウンセリング、精神療法、薬物療法等の組み合わせ
- 身体症状もあるため、心療内科、内科との連携が必要である
- 症状の悪化があった場合には入院治療となる

課題

- 疫学
 - ・患者数の実態把握が困難
 - ・患者の低年齢化、及び高齢化が問題視されている
 - ・回復率が50～60%である一方、50%が回復するのに4～5年かかり、死亡率も10%と高いという報告もある
- 治療
 - ・精神症状のほか、身体症状も認めるため、他科横断的な治療が必要となる
 - ・治療方法としてガイドラインは策定されているが、エビデンスとしては不十分な面もあるといわれている
 - ・上記状況のため、専門医の数が不足している

摂食障害治療ガイドラインより

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和7年度当初予算案（令和6年度予算額）：23百万円（23百万円）

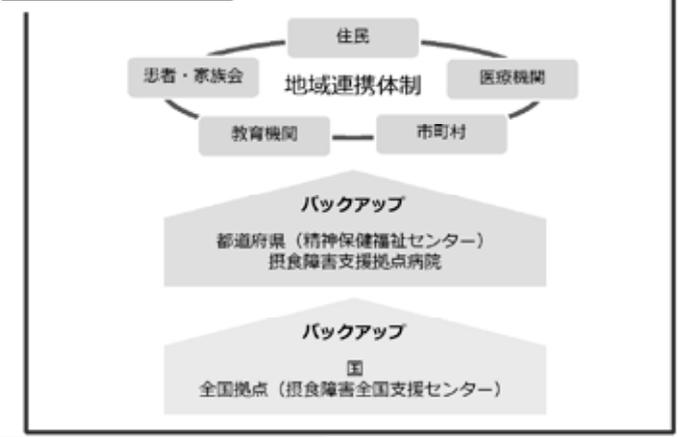
1 事業の目的

平成30年度からの第7次医療計障害全国支援センターとして国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを、摂食障害支援拠点病院画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することとされており、令和6年度からの第8次医療計画においても当該方針を継続することとしている。摂食を各都道府県で指定し、摂食障害の治療支援体制の構築に向けて、知見の集積、還元、診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。

2 事業の概要・スキーム

<p>地域</p> <p>摂食障害の特性や支援方法に関する知識・技術が浸透するように取り組むとともに、摂食障害を発症した患者に関わる機会が多くなると見込まれる機関をはじめとした関係者と医療機関との連携を深化し、患者・家族への相談支援や啓発のための体制を充実すること等により、早期発見・早期支援につながる地域の実現を目指す。</p>
<p>都道府県（精神保健福祉センター、保健所）・摂食障害支援拠点病院</p> <p>第7次医療計画に基づいて、「都道府県拠点機能」「地域連携拠点機能」「地域精神科医療提供機能」を有する医療機関を指定し、都道府県との協働によって、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整を行う。</p>
<p>国・全国拠点（摂食障害全国支援センター）</p> <p>各摂食障害支援拠点病院で得られた知見を集積し、共通した有効な摂食障害支援プログラム、地域支援モデルガイドラインの開発等を行うと共に、医療従事者への治療研修など技術的支援を行う。</p>

3 実施主体等



期待される成果

1. 摂食障害への早期発見・早期支援の実現
2. 適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備の推進

摂食障害全国支援センター及び摂食障害支援拠点病院（令和6年7月現在）

- ・ 摂食障害全国支援センター：全国1か所
- ・ 摂食障害支援拠点病院：全国8か所



令和6年度新規設置機関

摂食障害治療支援センター設置運営事業の目的等

(目的)

- 摂食障害は10代～40代の女性に多い疾患といわれているが、専門の医療機関・専門医が全国的に少ないことが課題の一つ。
- 本事業は、摂食障害の専門医療機関の力所数増、まずは3次医療圏（都道府県）の設置を目指し、摂食障害支援拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（1/2）する。

(事業実績)

- 令和6年度現在、摂食障害支援拠点病院は**8医療機関**。全国支援センターが1カ所。
 - *全国支援センター（1カ所）：国立精神・神経医療研究センター
 - *摂食障害支援拠点病院（8カ所）：宮城（東北大学病院）、栃木（獨協医科大学病院）、千葉（国立国際医療研究センター国府台病院）、東京（東京都立松沢病院）、石川（金沢大学附属病院）、福井（福井大学医学部附属病院）、静岡（浜松医科大学医学部附属病院）、福岡（九州大学病院）
- 主な事業内容は、以下のとおり
 - ① 摂食障害患者・家族の治療及び相談支援、
 - ② 摂食障害治療医療連携協議会の設置・運営、
 - ③ 摂食障害支援コーディネーターの配置、
 - ④ 医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、
 - ⑤ 市民向けの普及啓発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）

(第8次医療計画との関係)

- 第8次医療計画において、「多様な精神疾患等に対応できる医療連携対策の構築に向けた医療機能の明確化」として、都道府県ごとに摂食障害の専門医療機関を配置することが定められている。
- 同計画中に、「摂食障害治療支援センターを参考に」とあることから、今後、未整備自治体は同事業をモデルに整備し、本事業実施自治体は同機関を指定することで整備が図られることを想定している。

4

課題に向けた取組（摂食障害全国支援センター）

学校と医療のより良い連携のための対応指針

摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針（小学校版・中学校版・高等学校版・大学等）

（平成26年度～平成28年度にわたり厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）

⇒ 養護教諭などの教育関係者を対象にした研修によるゲートキーパーの養成。早期発見、早期治療へ。

摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き

摂食障害支援拠点病院において相談支援を担当するコーディネーターが、摂食障害の患者、家族、関係者等から相談を受ける際の手引き

（平成30年度摂食障害治療支援センター設置運営事業）

⇒ コーディネーター研修の実施、摂食障害支援拠点病院未設置自治体への設立支援

摂食障害に対する標準的な治療方法とその研修方法の開発及び普及に資する研究

本研究開発の目標・ねらい

1. 標準的治療法の有効性の実証。
2. 多職種支援者を対象とした治療マニュアルを用いた研修システムの構築。
3. 神経性やせ症に対するエビデンスに基づく身体治療マニュアルを開発、治療効果と安全性を検証。
4. 小児期摂食障害の治療マニュアルを用いた効果検証、多職種を対象に研修会を開催。
5. 神経性やせ症を抱えた患者を対象とした治療マニュアル等の多職種を対象の研修の開催（オンライン研修会を含む）。

期待される効果

1. 標準的治療法のエビデンスを確立や普及。
2. すべての医療機関で連続的、包括的な標準的治療に対応可能な医療連携体制の構築の推進。
3. 多職種を対象とした「小児摂食障害の治療と対応マニュアル」を作成、多職種研修会を開催
4. 心理療法、身体治療等の連続的、地域包括的なケアモデルの構築の推進。
5. 本研究の成果の治療プログラム、指針を国内外の関連学会、研修会を通じての普及。

（令和3年度～5年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

5

2. 摂食障害全国支援センター活動報告書

令和6年度

摂食障害全国支援センター

Center for Eating Disorder Research and Information



令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援拠点病院設置事業報告書

1. 基本情報

拠点機関名	摂食障害全国支援センター
設置施設	国立精神・神経医療研究センター
郵便番号	187-8553
所在地	東京都小平市小川東町 4-1-1
電話番号	042-341-2711(代)

URL

摂食障害全国支援センター:<https://edcenter.ncnp.go.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方):

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/index.html

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方):https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/

摂食障害全国支援センター職員

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施担当者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
小原 千郷 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
井上 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	リサーチフェロー
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 (委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 相談ほっとラ イン (委託)	看護師・保健師

藤野沙織 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 相談ほっとラ イン (委託)	看護師
----------------------	---	-----

2. 要旨

令和6年も引き続き、摂食障害治療支援体制の強化に向けた取り組みを推進した。令和6年4月に栃木県、7月に東京都に新たに摂食障害支援拠点病院が指定され、これにより全国の支援拠点病院数は8施設となった。これまでの支援拠点病院の設置支援の経験を踏まえ、拠点病院未設置地域の医療機関や自治体と連携しながら、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」の充実を図った。特に、新規支援拠点病院の設置プロセスにおける課題の抽出と改善に努め、今後も新規拠点病院の指定が見込まれている。

また、摂食障害の入院医療管理加算の要件緩和が継続する中、全国の医療機関を対象とした摂食障害入院治療研修会を引き続き開催し、入院治療の質の向上と均てん化に努めた。さらに、コロナ禍を経て10代の摂食障害患者の急増の報告が相次ぎ、小児科領域における摂食障害支援の必要性が高まりを見せる中、令和5年度に準備を進めていた小児科診療従事者向け研修会を実施し、小児科医を中心として600名を超える参加者を得た。

上記活動を含めた令和6年度の主要な活動と成果の概要を以下に示す。

支援拠点病院統括業務

支援拠点病院との連携ミーティングをオンラインで2回開催し、情報共有と課題についての討議を行った。全国支援センターが開催する摂食障害治療研修のあり方などが話し合われた。

全国協議会は、第1回、第2回共にメール審議+ウェブ会議で開催された。第1回全国協議会では年度の事業計画の策定と、新規拠点病院の進捗と必要な支援の確認、既存拠点病院における運営ノウハウの提供の必要性を共有した。第2回全国協議会では全国支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、拠点病院間の連絡体制の強化、次年度に各種研修会の日本摂食障害学会後援の獲得について承認を得た。

相談支援

8支援拠点病院と、全国を対象とした電話相談『摂食障害「相談ほっとライン」』（国府台病院に委託）への相談件数は、2425件（内、新規2045件）、Web公開している摂食障害診療施設リストを、診療実態に沿って更新した。東京都の拠点病院の電話相談開始に伴い、「相談ほっとライン」への東京都からの相談は減少に転じた。また、栃木県、東京都の新規指定に合わせて、摂食障害治療支援コーディネーターを対象とした研修会を開催した。

治療支援・研修

摂食障害の治療の初心者を対象にした「外来治療研修」を2回および「入院治療研修」を2回、「小児治療研修」を1回オンラインで開催した。新規の支援拠点病院候補となる自治体や医療機関を対象に、支援拠点病院設置準備研修会のビデオリンクを希望施設に配布した。更に、支援拠点病院設置の意向を表明している医療機関に対して個別に手厚くサポートを行った。

普及啓発活動

情報ウェブサイトを運営・記事の更新や各種メディア対応を継続的に行っている。NCNPおよび日本摂食障害協会で作成した摂食障害の啓発動画をポータルサイトで紹介するコーナーを新設した。また、世界摂食障害アクションデイ2024において、当該事業について講演を行った。

3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置

全国摂食障害対策連絡協議会・計画

1. 全国協議会を1回目令和6年7-8月と2回目令和7年2-3月頃の2回開催する。
会議内容(議題等)は第1回全国協議会では年度の事業計画の策定を行う。摂食障害対策の方向性全般について討議する。第2回全国協議会では支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、事業の効果の検証、問題点の抽出等を行う。

全国摂食障害対策連絡協議会・結果

- 第1回: 支援拠点病院の進捗や課題の報告を受け、拠点病院同士の連携、肥満症やむちゃ食い症対策の知見の集積、新規拠点候補の自治体把握のため厚労省アンケートを活用する方法論について検討した。厚労省の中里班で作成している小児治療指針(仮)を活用した小児治療研修を実施する方針とした。協議会委員により今年度の全国支援センター事業が承認された。
- 第2回: 令和6年度実施事業報告として、拠点病院設置準備サポートの展開、栃木県、東京都摂食障害支援拠点病院の新規指定、動画による啓発活動の記事追加、を報告した。次年度に予定している、世界摂食障害アクションデイ2025の企画、摂食障害治療研修会(4種)の運営を令和8年度より日本摂食障害学会へ移行することを見据えた学会後援、次年度の全国支援センターの体制変更について検討・報告をした。

全国摂食障害対策連絡協議会

第1回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R6/07/8-07/22 メール審議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国支援センターにおける令和6年度の事業計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会(各種研修の開催様式・内容決定) <ol style="list-style-type: none"> ① コーディネーター研修: 新規支援拠点病院候補の支援(東京と栃木) ② 入院治療研修会(定期開催: 年2回) ③ 初学者外来研修会(定期開催: 年2回) ④ 支援拠点病院設置準備研修会(オンデマンド開催) ⑤ 地域向け研修会: 支援者支援ニーズの掘り起こし(オンデマンド開催) ⑥ 3日間の治療研修会と学術集会との連携 ⑦ 小児期治療研修会の開催(厚労中里班: 小児治療指針と連携) 2) 摂食障害ポータルサイトの改訂 YouTube 動画のリンク掲載 3) 研究事業との連携(相談データ解析を第2回協議会で報告予定) 4) 支援拠点病院設置準備サポート <ol style="list-style-type: none"> ① 診療連携モデル(静岡モデル)の提示: ② 医療機関へのサポート: ③ 自治体へのサポート: ④ 拠点病院の声 2. 支援拠点病院の令和6年度の事業計画について各拠点病院への質問と回答、アドバイス等
参加人数	47

第2回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R7/01/24-02/04 メール審議 R6/02/07 ウェブ会議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	I.報告事項 1) 令和6年度実施事業 1. 各種研修会、イベントなど 2. 拠点病院設置準備サポート 3. HP改訂(ポータルサイト/全国支援センター) 2) 各支援拠点病院からの質問への回答/報告 II.審議事項 1. 研修会の日本摂食障害学会の後援(R8年度からの学会移行を見据える) 2. アクションデイ企画:令和7年6月1日(日) 3. 全国支援センター運営体制について
参加人数	54

4. 支援拠点病院統括業務

支援拠点病院統括業務・計画

- 支援拠点病院と密接に連携を図り、情報を共有し、必要に応じ、支援拠点病院への助言および連携調整を行う。そのために全国支援センターと支援拠点病院との摂食障害支援拠点病院連携ミーティングを2回開催する(開催日:1回目令和6年7-8月、2回目令和7年1-2月頃、開催形式:ウェブ会議)。

支援拠点病院統括業務・結果

- 摂食障害支援拠点病院連携ミーティングは、ウェブ会議形式で7月と1月の2回開催した。**
 - 第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、支援拠点病院設置準備サポートの定式化、47都道府県の拠点病院設置準備状況の共有、小児例の診療を行っている医療関係者をターゲットとした小児治療研修会を開催する方針とした。
 - 第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、日本摂食障害協会との共催する世界アクションデイ2025企画のテーマについて周知した。次年度の全国支援センターの体制変更および2年後の運営主体の移行を見据えて、各種研修会の日本摂食障害学会による後援獲得について報告を行った。

摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R6/07/5
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 摂食障害全国支援センターのR6年度計画 拠点病院設置準備:47都道府県の進捗状況の共有 全国支援センター主催の研修会 6件 各支援拠点病院のR6年度計画 今後の連絡協議会運営方針の相談
参加人数	35

第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R7/01/20
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 令和6年度実施事業報告 各拠点病院からの報告 次年度事業について <ul style="list-style-type: none"> (ア) 研修会の摂食障害学会後援 (イ) アクションデイ企画 (ウ) 拠点病院での心理境域実施体制 (エ) 全国支援センター運営体制について
参加人数	46

相談支援

相談支援・計画

1. 支援拠点病院に対し、連携ミーティング等で相談業務に関する連携調整を行う。
2. 各拠点病院で相談業務を担当するコーディネーターの研鑽と情報交換を目的として、コーディネーター研修を開催する。
3. 全国を対象とした摂食障害に関する相談業務の継続体制について実施可能性を検討する。
4. 支援拠点病院より収集したデータ分析結果とそれに基づく患者・家族への対応方法をフィードバックする。
5. 情報ウェブサイトにて、患者・家族・支援者向けの摂食障害の医療、研究、支援に関する情報を提供する。

相談支援・結果

1. 支援拠点病院との連携ミーティングを2回ウェブ会議で実施した。
2. コーディネーター研修会を開催した。新規設置された、福井県のコーディネーターを主対象にコーディネーターの基本的な業務と年間スケジュールについての講義をビデオ録画し、オンデマンドで提供した。コーディネーターが業務内容について質疑応答する機会をウェブ会議で設けた。
3. 令和4年1月に国府台病院に開設された摂食障害相談「ほっとライン」は、週4日(火曜～金曜、9時～15時)の相談体制を維持した。支援拠点病院が設置されていない都道府県からの相談を受け付けている。この相談業務は摂食障害全国支援センターから、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して運営されている。同診療科にて摂食障害「相談ほっとライン」HPも運営している。(7.普及啓発後述)
4. 令和6年度摂食障害治療支援センター相談支援事例の分析結果は以下に詳細を記す。
5. 情報ウェブサイト(摂食障害ポータルサイト)の記事を更新した(詳細は7.普及啓発活動を参照)。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
670	688

居住地域(新規件数) n= 670

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
0	0	0	630	630

相談者の患者との関係(新規件数) n= 670

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
345	32	235	12	26	1	1	2	14	2	670

相談対象患者の年齢(新規件数) n= 670 平均年齢: 27.4 SD= 13.8 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
9	186	214	75	65	29	13	8	0	0	71	670

相談対象患者の性別(新規件数) n= 670

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
601	62	0	7	0	670

相談対象患者の性別（新規件数） n= 670

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
601	62	0	7	0	670

相談対象患者状態（新規件数） n= 670

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
243	228	364	214	31	22	43	0	0	115	6	2	10	0

相談対象患者属性（新規件数） n= 670

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
34	49	68	83	179	61	37	7	150	2	670

摂食障害での受診状況（新規件数） 670

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
147	23	73	168	213	32	12	668

相談経路（延べ件数） n= 688

電話	メール	面談	その他	計
688	0	0	0	688

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	0

0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 670

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
462	7	12	1	32	21	9	0	0	2	2	122	670

相談内容（延べ件数） n= 688

疾患相談	対応相談				受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
266	122	127	0	62	310	34	58	18

対応内容（延べ件数） n= 688

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
254	35	276	8	289	100	32	103	0	4	454	112	8

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
31	1	0	0	11	0	27

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害治療支援コーディネーター研修	
開催日	R6/10/31
対象者	摂食障害治療支援コーディネーター
研修内容	1.オンデマンド講義「摂食障害治療支援コーディネーター業務に関して」 2.ウェブ会議 情報交換・総合討論
講師	竹林 淳和(外部講師・アドバイザー)、小原千郷(講師・アドバイザー)、北島智子(外部講師・アドバイザー)、関口敦(総合司会)、井野敬子(司会)、井上智子(事務局)
実施場所	オンデマンド配信+ウェブ会議
参加団体	各拠点病院(宮城、栃木、千葉、東京、石川、福井、静岡、福岡)、全国支援センター

摂食障害全国支援センター：相談ほっとライン に関するアンケート調査報告



この度はアンケートにご回答いただきありがとうございます。

2023年11月24日から2024年7月31日までにご回答いただいたアンケート結果について報告をいたします。

- ▶ 総回答者数328名(当事者 73%)
- ▶ 回答者の年代(10代:16%、20代:25%、30代:15%、40代:23%、50代:19%、60代:2%)
- ▶ 今までに電話相談したことの有無(ある12%、ない88%)

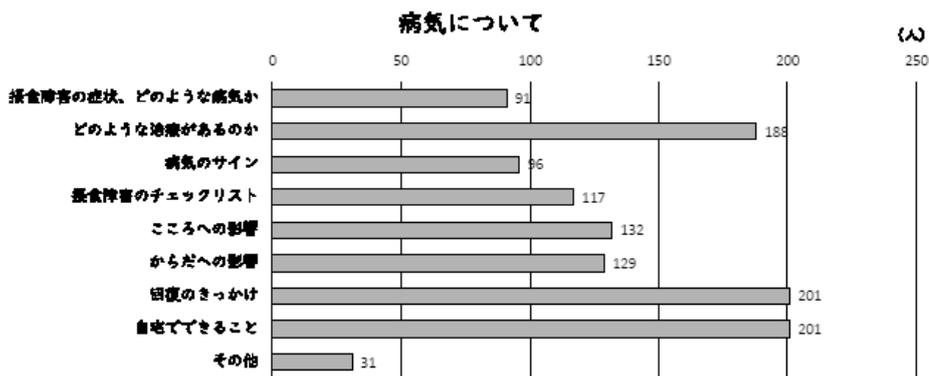
皆様のご希望として以下の4点が多く寄せられました。
次ページ以降に詳しいデータも記載しておりますのでご参照ください。

- ◆ 治療法・回復のきっかけ・自宅で出来ることについての情報
- ◆ 回復までの過程、支援制度、身体の危険度についての情報
- ◆ 電話以外のツールによる相談手段
- ◆ イラスト・漫画での情報発信

このアンケート結果は著作権で保護されております。著作権上、無断での転写・転載はできません。
本結果の引用、転載、複製をされる際は適宜出典を明記してください。

2024年11月 国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

- ▶ ホームページに載せてほしいことや電話相談で聞きたいことを教えてください。



治療法・回復のきっかけ・自宅で出来ることについての情報発信を準備します。

国立国際医療研究センター国府台病院心療内科



▶ ホームページに載せてほしいことや電話相談で聞きたいことを教えて下さい。

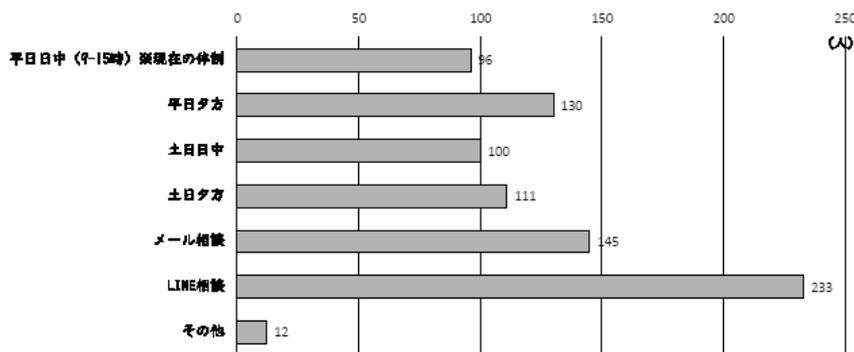


回復までの過程、支援制度、身体の危険度についての情報発信を検討中です。

国立国際医療研究センター国府台病院心療内科



▶ 電話相談の時間や他の相談手段の希望があれば教えて下さい。

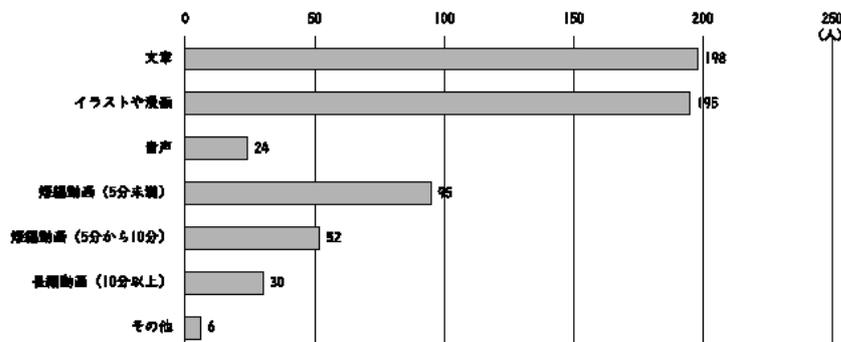


電話以外のツールによる相談手段のご希望がありました。現在、検討中です。

心内科



▶ どのような形式だと情報を見たいと思いますか。



文章に加えて、イラスト・漫画での情報発信を検討中です。

国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

ほっとライン活動報告

日付	内容
3月29日	AERAKids 小学生で拒食症を発症するケースも 医師が指摘する、低年齢の「摂食障害」がもたらす将来のリスクとは(河合)
3月30日	AERAKids 小学生の「摂食障害」 医師に聞く、親が異変に気づく“サイン”とは?(河合)
5月2日	千葉県摂食障害研究会準備委員会(河合・田村)
5月16日	習志野市教育委員会「学齢期の子どもに対する摂食障害の予防・早期発見や対応について」(田村)
6月20-22日	第120回 日本精神神経学会(札幌)シンポジウム:摂食障害支援拠点病院の広がり課題(河合)
6月20-22日	第120回 日本精神神経学会(札幌)シンポジウム:嗜癖性障害への内観療法(河合)
6月29-30日	第65回 日本心身医学会総会(東京)シンポジウム:我が国における CBT-E の適応と実際(河合)
7月5日	令和6年度 第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング(田村・河合)
7月6日	第46回日本内観学会会長講演 こころの傷つきからの回復と内観法・内観療法(河合)
7月16日	ちば県民保健予防財団 サマーセミナー講師(田村)
7月22日	令和6年度 第1回全国摂食障害対策連絡協議会(河合・田村・廣方)
7月25日	都立松沢病院より9名視察(河合・田村・廣方)
8月13日	日本経済新聞「美を求めて、食べては吐いて…20年 摂食障害の支援後手」(河合)
9月7日	第27回日本摂食障害学会 神経性やせ症の Enhanced Cognitive Behaviour Therapy(CBT-E)研修会(河合)
9月12日	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター会議 厚労省より4名来室(河合・田村)
9月20日	第27回世界心身医学会 Symposium 14: Enhanced cognitive behavior therapy(河合)
9月20日	第27回世界心身医学会 Symposium 16: Oriental treatment methods used in Psychosomatic Medicine(河合)
11月7日	市川市自治体会連合協議会 大会講演 2024 依存の裏に潜む健康リスク—ネットや食べ物依存は私たちの心と体にどう作用するか(河合)
11月24日	第11回 神経性過食症への認知行動療法(CBT-E)研修会(河合)
12月7日	第28回日本心療内科学会総会・学術大会 シンポジウム 摂食障害治療の現状と課題(河合)
12月8日	第28回日本心療内科学会総会・学術大会 日独交流シンポジウム(河合)
12月8日	第28回日本心療内科学会総会・学術大会 バリントグループワークショップ(河合)
12月15日	第8回千葉県摂食障害研究会(河合・田村・長谷川)
12月15日	身心関連研究会(河合)
1月20日	令和6年度 第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング(河合・田村・廣方)
1月26日	摂食障害外来治療研修～初心者が知っておくべき外来治療～「症例提示」(田村)
2月7日	令和6年度 第2回全国摂食障害対策連絡協議会(河合・田村・廣方)
2月23日	第5回千葉県摂食障害支援拠点病院県民公開講座(河合・田村・廣方)
3月4日	千葉県摂食障害小研究会(オンライン)神経発達症を併存した神経性やせ症の治療(田村)
3月12-14日	ドイツ心身医学会 2025 シンポジウム(ベルリン) Perspectives on Psychosomatic Medicine Utilizing the Wisdom of Eastern Culture(河合)
3月12-14日	ドイツ心身医学会 2025 シンポジウムワークショップ(ベルリン) German/Japanese & International Balint Group(河合)

令和6年度

摂食障害支援拠点病院 相談支援記録の集計と分析

摂食障害全国支援センター

調査目的：平成30（2018年） - 令和6年度（2024年）の8拠点病院における相談データを集計し、実態を明らかにする。

集計方法：各拠点病院から報告されたH30年（2018年）4月から、令和6年（2024年）3月の「相談記録入力フォーム」を全施設分合算し、調査項目毎に集計した。

尚、データの解析にあたって、1名から複数回の相談があった場合、1名からの相談を1件（1名）としてカウントしている施設と、同一相談であってもアクション毎に1件（1名）とカウントしている施設が混在しているため、他県との詳細な比較は参考程度にとどめる。

拠点病院数の経緯：

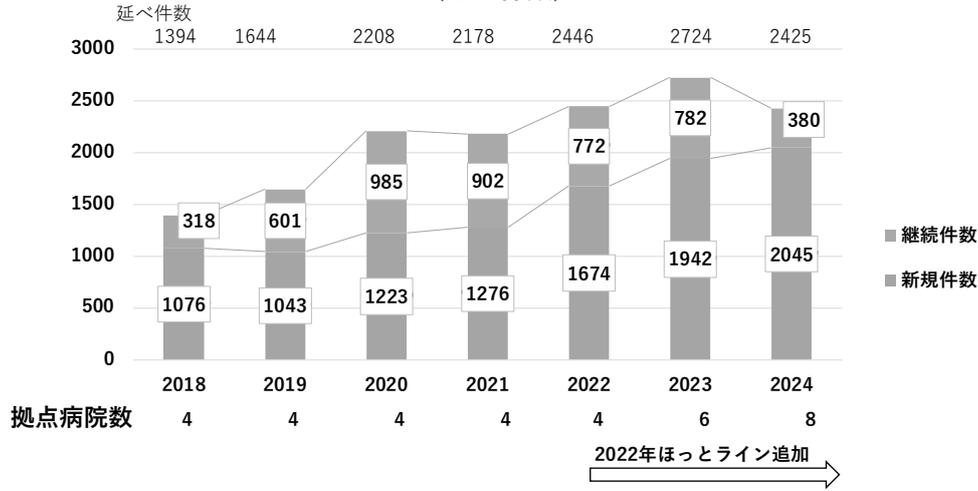
H30-R4 4施設： 東北大学病院（宮城県） 国立国府台医療センター（千葉県）
浜松医科大学医学部附属病院（静岡県） 九州大学病院（福岡県）

R4 5施設： 相談ほっとライン追加

R5 6施設： 金沢大学附属病院（石川県） 福井大学医学部附属病院（福井県）追加

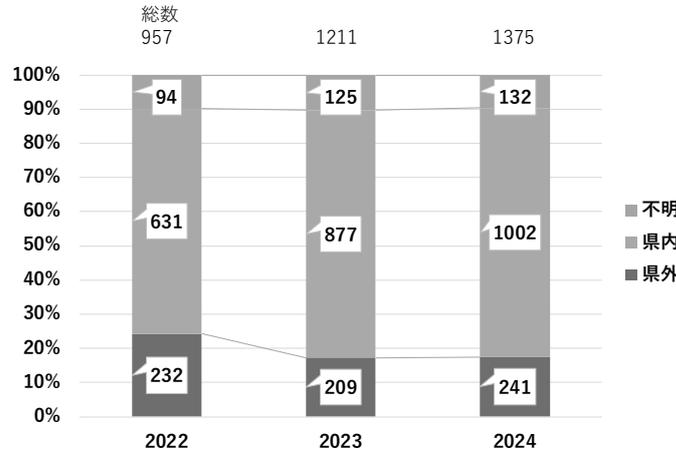
R6：9施設： 獨協医科大学病院（栃木県） 都立松沢病院（東京都）追加

拠点病院&ほっとライン 相談件数 (延べ件数)



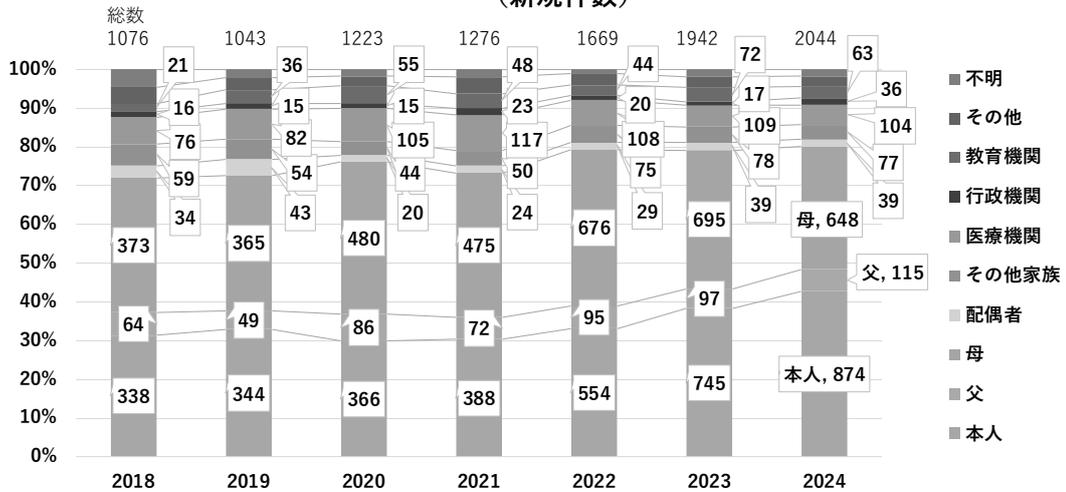
2024年の延べ相談件数は2424件であり、そのうち新規相談件数は2045件（84%）であった。前年は延べ相談件数2724件、新規相談件数1942件であり、各前年比は88%、105%であり、延べ相談件数は、減少し、新規相談件数は増加した。2024年は、2022年の水準に戻ったが、拠点病院が新規で2件登録されており、ほとんどの施設で、相談件数は減少した。

相談者居住地 県内/県外の割合 (新規件数)



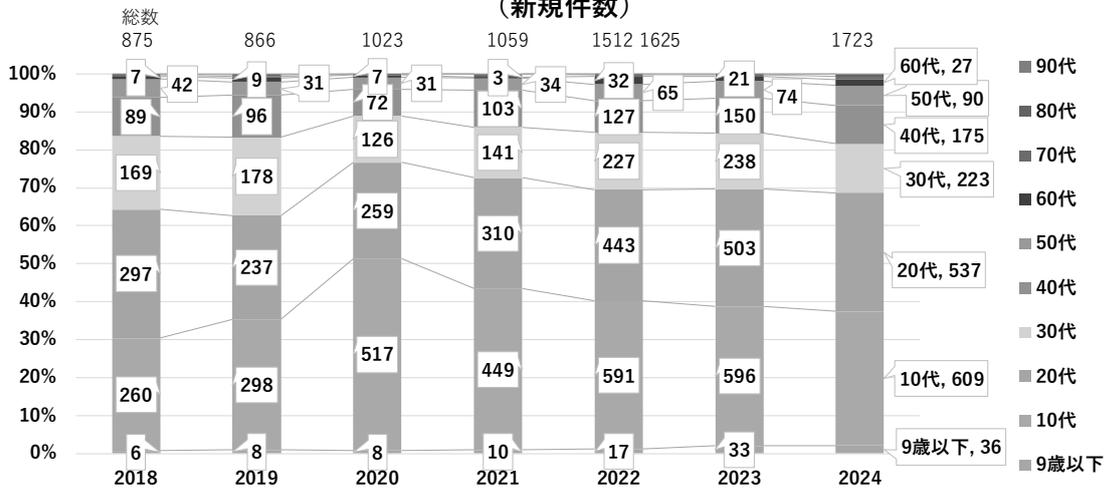
2022年度と比較すると、県外からの相談割合が減少した。

相談者の割合 (新規件数)



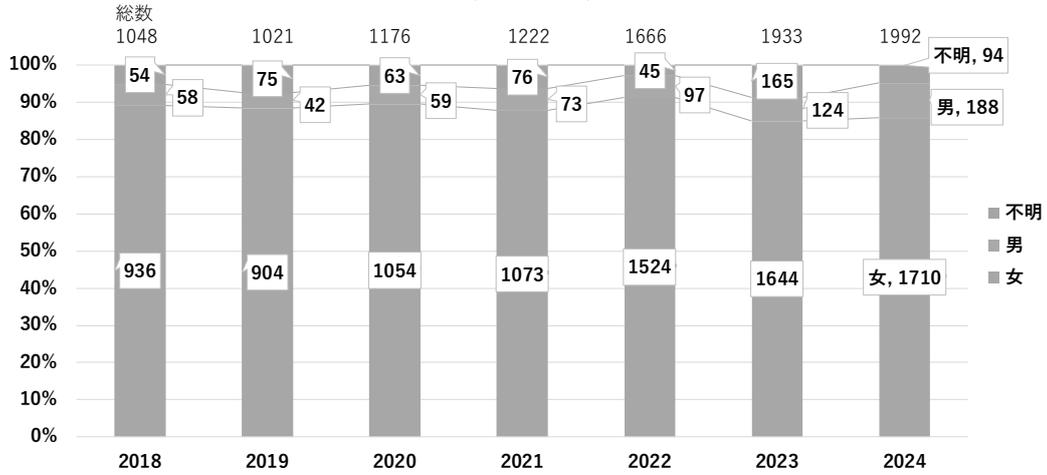
2024年は、患者本人と患者家族からの相談が最も多く（各約40%）、次いで医療・行政・教育等の機関の職員であった（10%）。家族の中では母親が最も多く（31%）、機関職員の中では医療機関職員（5%）からの相談が最も多かった。2021年以降、本人からの相談割合が増え続け、母親からの割合が低くなる傾向が認められた。

相談対象者年齢の割合 (新規件数)



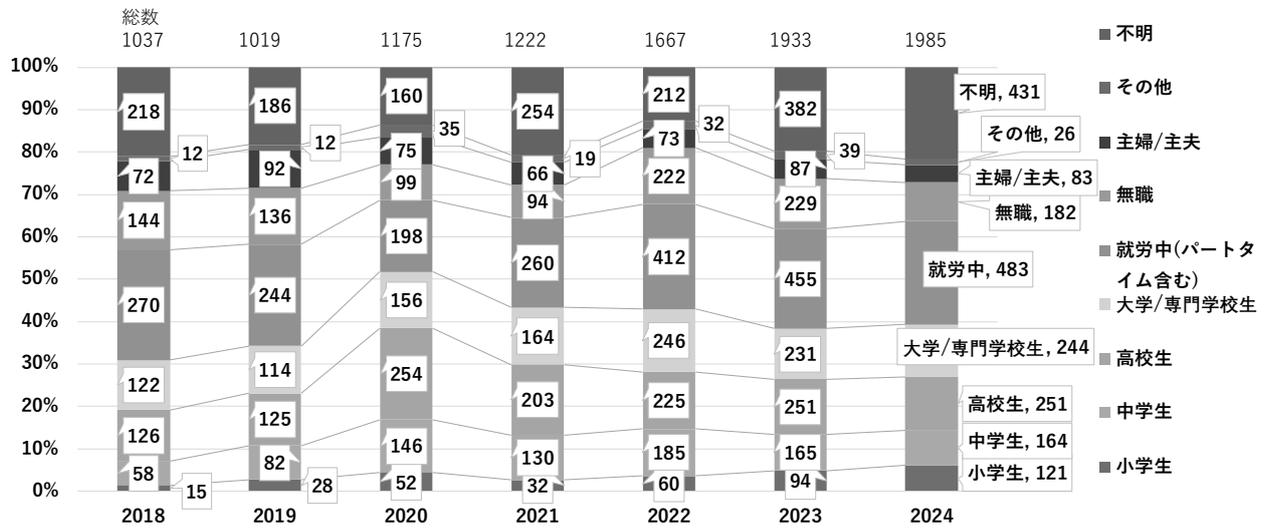
2020年のコロナ禍で、10代の割合が急増した（50%）。2021年以降は、コロナ以前の割合にもどつつあるが、以前として、若年層の割合は、高いまま維持されている。2024年は、前年と変わらず、10代以下が約40%、20代以下が約70%と若年層からの相談割合が高かった。9歳以下は、年々、増加している。

相談対象者性別の割合 (新規件数)



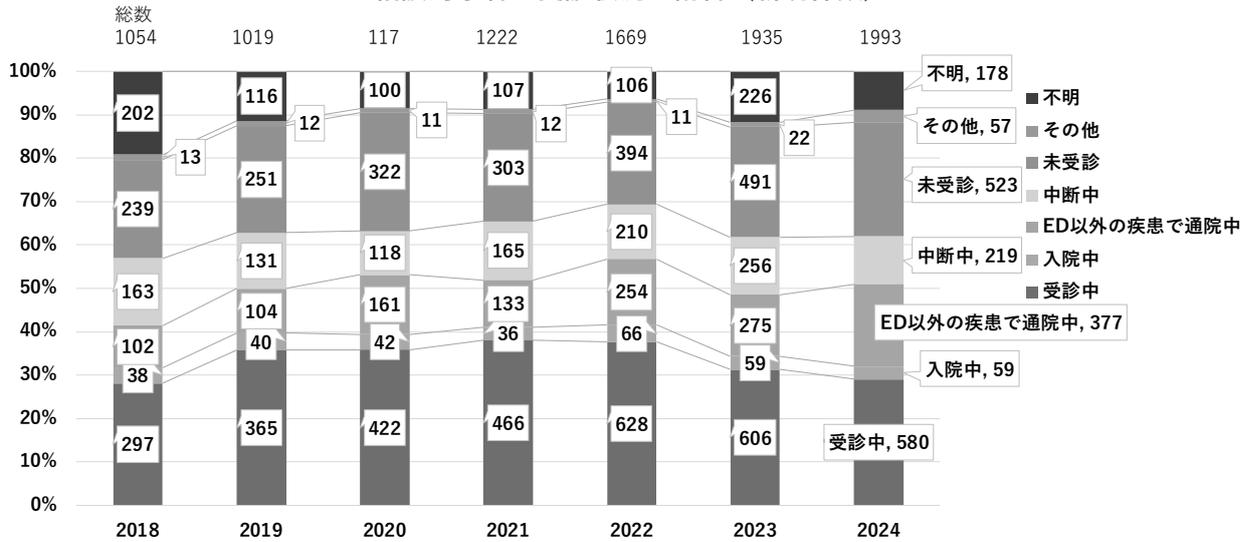
2024年は、性別は女性が85%、男性が9%であり、前年から大きな変化は認められない。

相談対象者属性の割合 (新規件数)



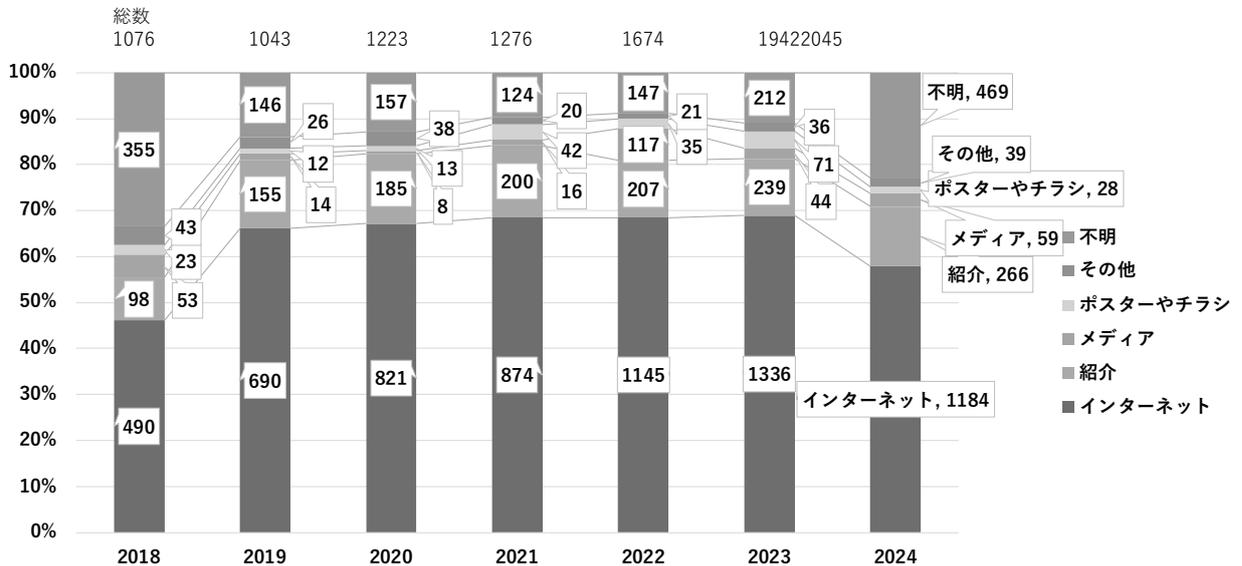
コロナ禍の2020年に、小・中・高校生の若年層の割合が急増したが(38%)、2021年以降、コロナ以前の割合に戻りつつある。2024年は、前年同様に、小～大学/専門学校の学生の割合が最も高く(40%)、次いで、就労中の者の者が高かった(24%)。

相談対象者 受診状況の割合（新規件数）



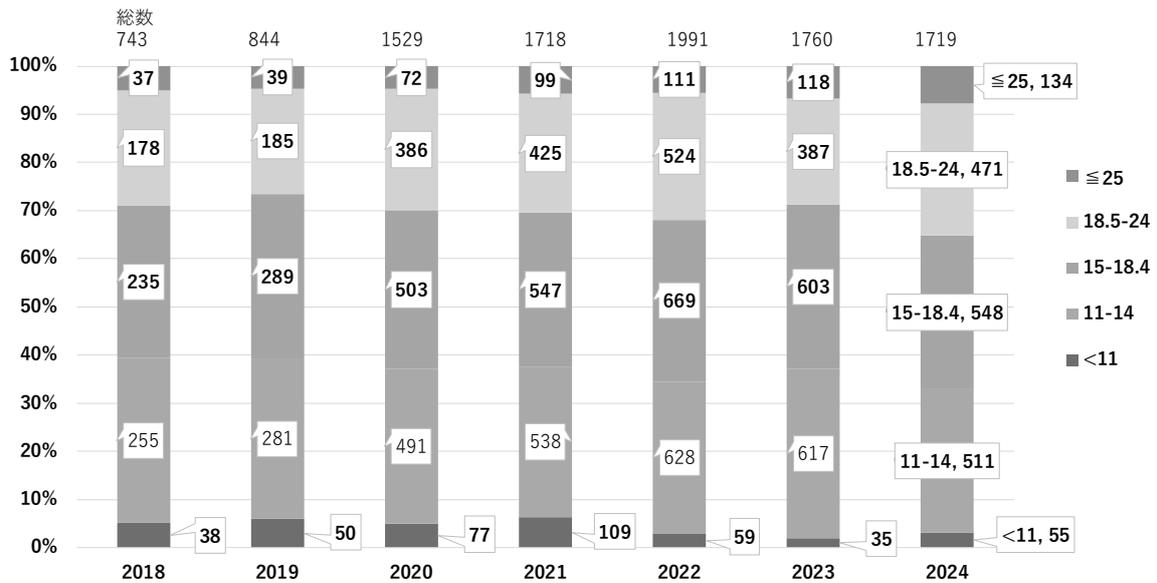
2024年は、未受診者と中断者を合わせると、約40%が医療につがっていない方からの相談だった。

知るきっかけとなった媒体 割合（新規件数）



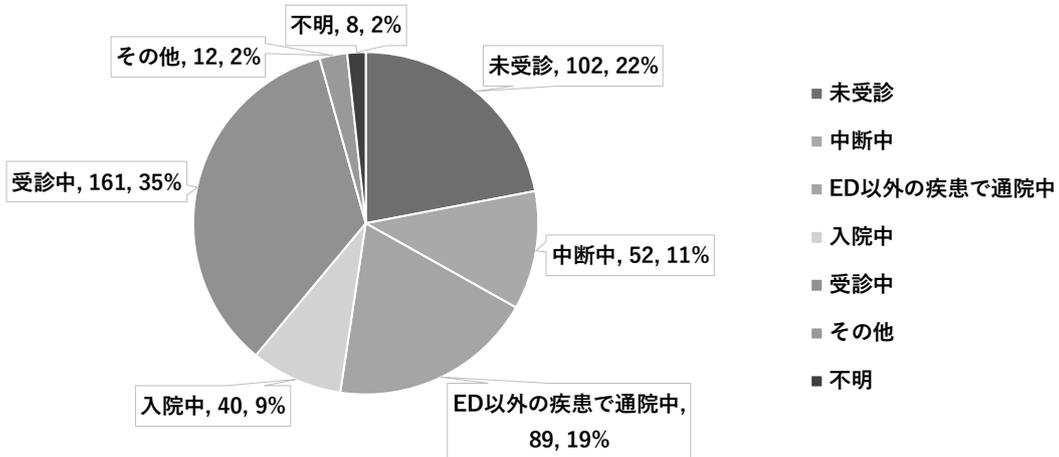
2024年は、インターネットの割合が、前年より、約10%減少した。

相談対象者BMI（新規件数）



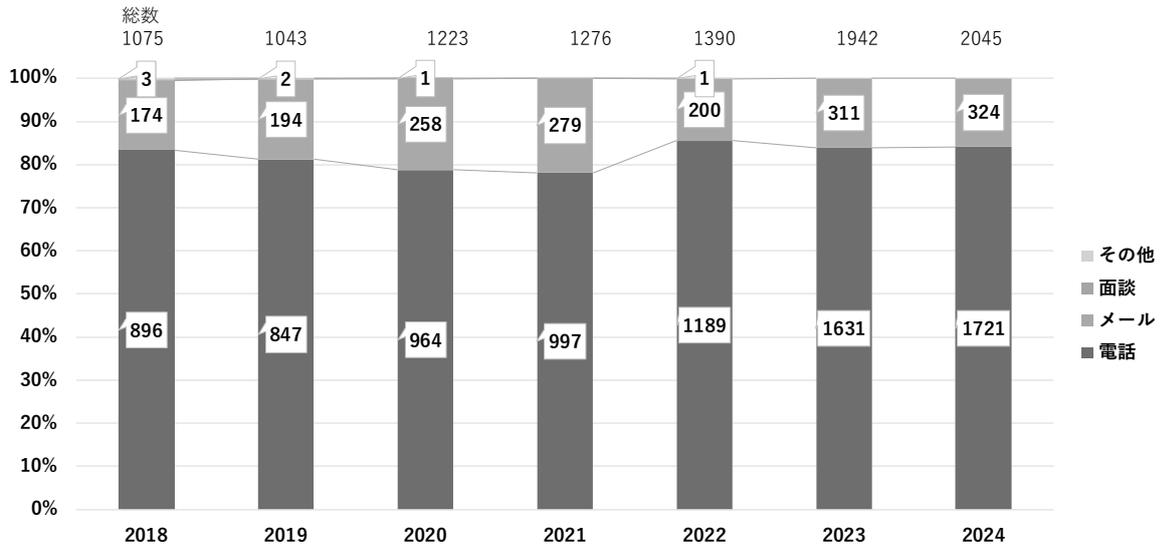
2024年は、BMI14以下が32%であった。一方、BMI18.5以上は、35%であった。前年より、大きな変化は認められなかった。

R6(2024)年度 BMI14未満の相談対象者 受診状況（総数464）



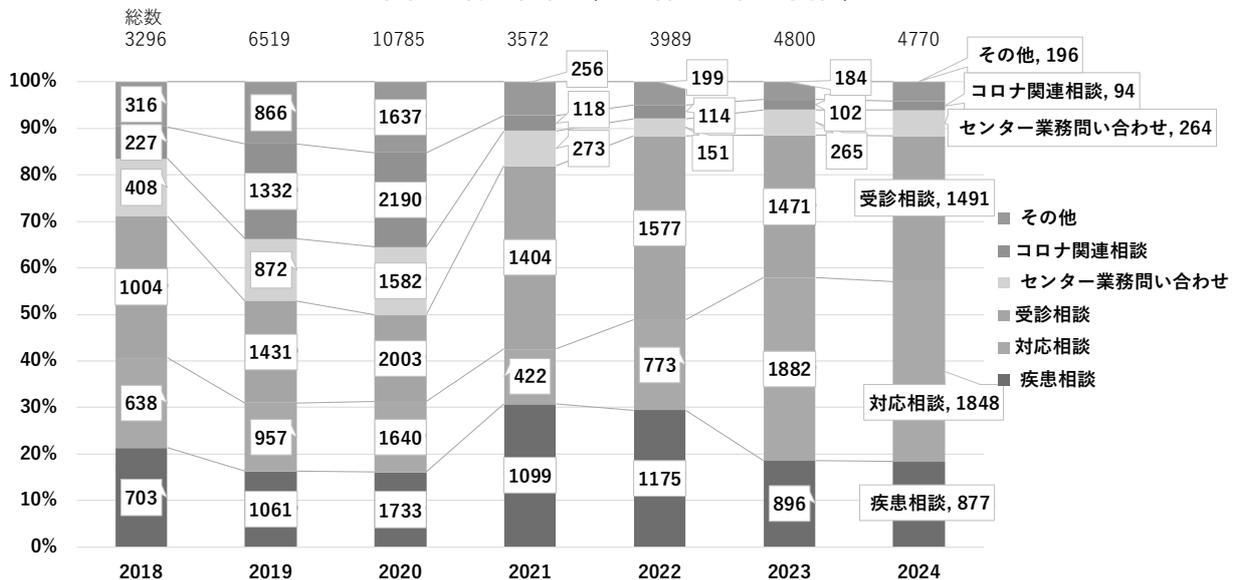
2024年の相談対象者は、BMI14以下が464名で、そのうち、未受診が102名、22%、中断が52名、11%であった。身体的に重症であるにもかかわらず、33%の相談対象者が、医療とつながれていない状況であった。

相談経路の割合（新規件数）



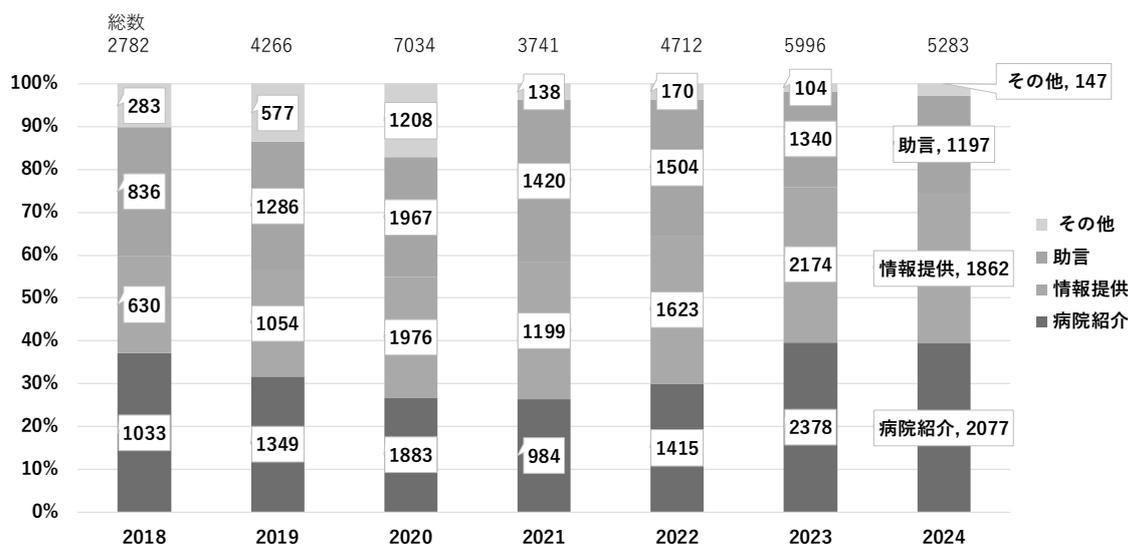
2024年は、84%が電話、15%がメールであったが、メール相談に応じている拠点病院と応じていない拠点病院があり、条件の違いが結果に反映している可能性があった。

相談内容の割合（延べ件数 複数回答）



2024年度は、対応相談（38%）と受診相談（31%）の割合が最も多く、前年と大きな変化は認められなかった。

相談対応内容の割合（延べ件数 複数回答）



2024年は病院紹介が39%と最も多く、次いで情報提供が35%であり、前年と大きな変化は認められなかった。

令和6年度 摂食障害支援拠点病院 相談支援記録のまとめ

- 相談件数は、前年比で延べ件数は88%、新規件数は105%であり、ほとんどの施設で、延べ、新規件数共に減少した。コロナ前の水準に戻りつつあるが、以前として、年間約2500件ほどの相談を受けており、高いニーズがある。
- 県外からの相談割合が約20%あり、非設置県からも高い相談ニーズがある。一方、2022年度と比較すると、県外からの相談割合が減少し、ほっとライン開設（2022年）の効果とも受け取れる。今後、拠点病院のない非設置県の行政及び医療機関に、本課題をフィードバックし、支援拠点病院設置の機運の向上につなげる方略を確立していく。
- 相談対象者は、前年と変わらず、10代以下が約40%、20代以下が約70%と若年層からの相談割合が高かった。9歳以下が、年々増加している。若年者の予防や、早期治療への対策が急がれる。
- 相談対象者は、小学生～大学/専門学校生の割合が最も高く、早期受診につなげる役割を担っていた。次いで、就労中が高く、社会生活を維持しながらも、相談ニーズが高いことが明らかとなった。
- BMI14以下は、30%を占めており、その内102名、22%が未受診、52名、11%が中断中であった。電話（メール）相談には、深刻な身体状態の患者も含まれており、医療に繋げるための重要な役割を担っていた。

治療支援・研修

治療支援・研修・計画

1. 昨年度までに開発した摂食障害治療研修プログラム(初心者向けの外来研修、入院治療研修)を活用しオンライン研修会を開催し、全国に摂食障害治療者の裾野を広げ、入院治療の質の担保を図る。
2. コロナ禍を経て摂食障害の小児例が急増、高校の学習指導要綱に摂食障害教育の追加、小児例の診察施設の慢性的な不足を背景に、小児科診療施設の摂食障害治療支援者が摂食障害の診療に自信をもって関わることを目指して、「摂食障害小児治療研修」を立ち上げた。
3. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」のビデオリンクの配布体制を確立する。
4. 今年度より新たに摂食障害支援拠点病院で摂食障害患者の入院データを収集、集積する。拠点病院における入院治療実態と診療連携を検証する。

治療支援・研修・結果

1. 全国の病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター、教育機関等に勤務し摂食障害に関心を有する医療従事者を対象に、「初心者が知っておくべき外来治療」をテーマに研修会をオンラインにて実施した。専門機関から逆紹介された患者の外来診療を行うための講義として「摂食障害の外来治療 初心者の心得・経験者へのヒント」の講義を新たに追加した。
2. 摂食障害の入院加算に関わる施設基準が緩和されたことを受け、入院診療のノウハウを提供するために、医療施設の医療者を対象として『摂食障害入院診療研修会』をオンライン開催した。
3. 小児科診療施設の摂食障害治療支援者が摂食障害の診療に自信をもって関わることを目指して、「摂食障害小児治療研修」をオンライン開催した。小児科医を中心に600名を超える参加者を得た。
4. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」のビデオリンクの配布体制を確立し、累計で7つの自治体及び医療関係者に配布した。
5. 各拠点病院で記入する個票とデータ集計シートを作成・配布した。8拠点病院における入院患者数は、600人であった。70%が未治療期間1年未満であり、早期治療を担えている状況であった。10代以下が32%と患者数が多く、10代の患者に対する入院環境の整備求められている。

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害入院治療『入院治療の留意点とコツー(第3回)』	
開催日	R6/04/22～05/31、R5/05/17
対象者	摂食障害の入院治療を実施している施設の医療従事者
講師	竹林淳和、野林美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 152 ライブ87
第21回摂食障害治療研修	
開催日	R6/7/10～7/12
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	安藤哲也、高倉修、山内常生、小原千郷、宇佐美政英、西園マーハ文、鈴木眞理、中里道子、森野百合子、武田綾、佐藤康弘
開催場所	オンライン配信
参加人数	90

摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第8回	
開催日	R6/7/11～8/2 R6/8/3
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、永田利彦、作田亮一 小川真里子、田村奈穂 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 206 ライブ 166
摂食障害小児治療研修 第1回	
開催日	R6/10/7～R6/11/15、 R6/11/4
対象者	摂食障害の小児外来、入院治療を行っている医療従事者
講師	講師:作田亮一、井上建、大谷良子、宇佐美政英、山田理江 質疑応答:全講師、森野百合子
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込人数(個人598、団体43) ライブ166
摂食障害入院治療研修『入院治療の留意点とコツ』第4回	
開催日	R6/10/15～R6/11/23 R6/11/10
対象者	摂食障害の入院治療を実施している施設の医療従事者
講師	講師:竹林淳和、磯部 智代、野林美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド235 ライブ140
医療再生講演会(高知県 令和6年度第1回摂食障害に関する勉強会)	
開催日	R6/11/1
対象者	精神科の専攻医をはじめとする高知大学精神科医局のスタッフ,高知県内の関係機関
講師	講師:高倉 修、竹林 淳和 質疑応答:関口 敦
開催場所	オンライン
摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第9回	
開催日	R6/1/6～1/25 R7/1/26
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、永田利彦、作田亮一 小川真里子、田村奈穂 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 207 ライブ 156

第九回 摂食障害治療研修

— 初心者が知っておくべき外来治療 —

第1部 オンデマンド配信
令和7年1月6日(月)10:00
~1月25日(土)23:00

1. 摂食障害の今 | 安藤啓也 [筑波大学大学院]
2. 一般医でもできる初期治療 | 高倉祥 [九州大学]
3. 摂食障害の隠病 - 患者、家族にどう伝えるか - | 佐藤康弘 [東北大学]
4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 | 吉内一浩 [熊本大学]
5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法 | 山内崇生 [大阪公立大学]
6. 摂食障害の外来治療、初心者の心得・経験者へのヒント | 永田利彦 [札幌・マダモメンタルクリニック]
7. 小児科医が診る摂食障害 | 作田亮一 [筑波大学大学院]
8. 産婦人科領域における摂食障害への対応 | 小川真菜子 [埼玉医科大学]

第2部 ライブ配信
令和7年1月26日(日)
9:30~12:00

9. 症例からみる摂食障害の治療の迷いとコツ | 田村英樹 [東京大学]
10. 質疑応答 全講師
※講師のご質問に対し、電話講師から回答ももたらせる時間です。
※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
後日配信は行いません。

対象 | 摂食障害に関心を有する医療従事者等
第1部・2部どちらも参加できる方。

会場 | オンライン開催

参加費 | 3,000円

定員 | 300名

申込 | 下記URLからお申込みください。
[詳細はこちらをご覧ください]
https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R6.html

申込期間 | 令和6年10月21日(月)~11月22日(金)

申込多数の際は、早期締め切ります。

詳細内容は変わることがあります。



こちらから申し込みいただけます。

摂食障害入院治療研修

— 入院治療の留意点とコツ — 第四回

対象 | 摂食障害入院治療を実施している施設の医療関係者

会場 | オンライン開催

参加費 | 3,000円

定員 | 400名

申込 | 下記URLからお申込みください。[詳細はこちらをご覧ください]
https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R6.html

申込期間 | 令和6年8月13日(火)~9月13日(金) 選考あり
募集内容は変わることがあります。



こちらから申し込みいただけます。

第1部 オンデマンド配信
令和6年10月15日(火)10:00~
11月23日(土)23:00

1. 摂食障害診療概論 | 竹村淳和 [筑波大学大学院]
2. 入院治療プログラムの構築 | 竹村淳和 [筑波大学大学院]
3. 看護士の関わり方: 業務手順や患者説明 | 野村英樹、鈴木麻衣子 [筑波大学大学院]
4. 心理療の関わり方: 心理教育、食感教育、家族指導、家族療育の運営 | 深月洋介 [筑波大学大学院]
5. 栄養士の関わり方: デイケアでの患者指導、医師との連携 | 佐田大吾 [筑波大学大学院]
6. 地域医療連携の構築 | 竹村淳和 [筑波大学大学院]

第2部 ライブ配信
令和6年11月10日(日)
10:00~11:30

7. 質疑応答 | 全講師
※講師のご質問に対し、電話講師から回答ももたらせる時間です。
※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
後日配信は行いません。

第21回 摂食障害治療研修

*研修は摂食障害の病態と治療に関する最新の知見を提供し、摂食障害に関する専門的知識及び技術の習得を目的とします。

研修期間
令和6年
7月10日(水) 9:20~16:45
11日(木) 9:30~16:45
12日(金) 9:30~15:45

対象 | 摂食障害に関心を有する医療従事者

会場 | オンライン開催

参加費 | 20,000円

定員 | 100名

申込 | NCNP研修会HPをご登録ください。
所属長の承認書が必要です。

申込期間 | 令和6年4月22日(月)~5月15日(水)

NCNP研修会HP ▶ https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R6.html

詳細と募集内容は変わることがあります。
敬請: 日本摂食障害学会



1. 疫学・病態・治療概論 | 安藤啓也
2. 初期対応と外来診療 | 高倉祥
3. 入院治療 | 山内崇生
4. 心理教育 | 小原千寿
5. 小児期の初期対応と診療 | 宇佐美 敦英
6. 精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害 | 西田マハ文
7. 身体合併症・身体的管理 | 鈴木 真理
8. 過食症に対するガイドド・セルフヘルプ | 中里 遼子
9. 児童・思春期摂食障害患者さんとそのご家族への家族療法的アプローチ | 森野 百合子
10. 当事者の話を聞く | 武田 敏
11. 症例検討 | 佐藤 康弘
12. 質疑応答

第一回 摂食障害小児治療研修

第1部 オンデマンド配信
令和6年
10月7日(月)~11月15日(金)

1. 小児科領域で対応する摂食症: 概論 | 作田亮一 [筑波大学大学院]
2. 摂食障害の小児科外来診療: 治療契約から入院の同意まで | 村上 遼 [筑波大学大学院]
3. 小児科病棟における入院治療の実践 | 大谷 真子 [筑波大学大学院]
4. 児童精神科における治療 - 小児科からの紹介状 - | 宇佐美 敦英 [筑波大学大学院]
5. 日々の看護 | 山田 穂江 [東京医科歯科大学]

第2部 ライブ配信
令和6年
11月4日(月・祝) 10:00~12:00

質疑応答
全講師、森野百合子 [筑波大学大学院]

※講師のご質問に対し、電話講師から回答ももたらせる時間です。
※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
後日配信は行いません。

申込 | URLまたは右のQRコードよりお申込み下さい。
詳細もご登録いただけます。

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/investigation.html

申込期間 | 令和6年8月25日(月)~9月29日(日)

申込多数の際は、早期締め切ります。
募集内容は変わることがあります。

定員 | 400名

お問合せ先!



対象
摂食障害の小児の外来
入院治療を行っている
医療従事者

参加費
無料

研修会アンケート結果(2021 年度-2023 年度:初心者が知っておくべき外来治療)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第 1 回 (2021.1.24)	351	326	305	
第 2 回 (2021.12.5)	446	227	241	オンデマンドで閲覧可能にした
第 3 回 (2022.2.27)	227	121	126	身体管理・専門家連携を追加
第 4 回 (2022.8.28)	217	170	176	産婦人科・小児科を追加
第 5 回 (2022.12.4)	149	122	120	
第 6 回 (2023.5.13)	225	191	178	
第 7 回 (2023.12.3)	270	223	232	
第 8 回 (2024.8.3)	206	166	176	「摂食障害の外来治療、初心者の方へ経験者へのヒント」を追加
第 9 回 (2025.1.26)	207	156	137	
合計	1,885	1,380	1,378	

研修会アンケート結果(2022 年度-2024 年度:入院治療研修)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第 1 回(2023.1.17)	210	-	66	
第 2 回(2024.1.19)	364	138	147	
第 3 回(2024.5.17)	152	87	98	
第 4 回(2024.11.10)	235	140	150	
合計				

研修会アンケート結果(2024 年度-2024 年度:専門研修)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第 21 回(2024.7.10-12)	90	89	88	90 名(個人)

研修会アンケート結果(2024年度-2024年度:小児治療研修)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第1回(2024.11.4)	641	166	239	641名(個人598,団体43)

1. 研修参加者の属性

研修直後に実施したアンケート調査結果より、次の考察をした。

入院治療研修(入院研修)は、他の研修よりも、看護師の参加が約25%と高く、看護師のニーズが高かった(図1)。小児治療研修(小児研修)は、他の研修よりも、医師の参加が約60%と高く、その内80%以上が小児科と児童精神科が占めており、小児・児童領域での問題意識の高さが、影響していると考えられた(図2)。初心者外来治療研修(初心者研修)は、精神科以外の診療科の参加者が、約40%と高く、プライマリー診療を担う様々な診療科の医師のニーズがあったことも推察された。3日間治療研修(3日間研修)は、他の研修よりも、PSWや管理栄養士、保健師等コメディカルの参加が、約20%と高く、専門的な対応の必要性を感じている職種であることも推察された。一方、医師の参加が30%と低く、3日間のライブ配信であり、職務上、医師が参加しにくいと捉えることもできた。

2. 研修参加者による研修内容の評価

いずれの研修においても、大変満足と、満足と回答した者が90%以上であり、研修内容は、参加者のニーズを満たす内容であったと推察される(図3)(外来研修では、当該アンケート調査を未実施)。一方で配信方法や質疑応答への要望や看護師やコメディカルの役割及びチーム連携の講義の要望もあったため、今後の参考としていく。

3. 研修における長期的な効果

外来研修では、研修における長期的な効果を検証するために、研修終了から約1年後のアンケート調査を実施した。令和5年度に開催した外来研修(第6回、7回)の研修直後のアンケートの回答者数は、合計411名であった。令和6年に実施した1年後アンケートは、394人に配信し、回答者数は171名であり、回答率は約43%であった。回答者の職種の割合は、心理職が36%と最も高く、次いで、医師/歯科医師は29%であった(図4)。医師の診療科は、精神科が60%と最も高く、次いで、小児科が24%と高かった(図5)。

1年後のアンケート調査は、①医療機関の連携が推進されたか、②摂食障害患者を担当する治療・支援者が増えたか、③指針やマニュアルに沿った支援が可能になったか、に対する効果を検証することを目的とした。

①については「この1年間で摂食障害の患者さんを他施設へ「紹介する」または「紹介をうける」ことはありましたか」という設問に対して、研修直後アンケート(pre)は、紹介・逆紹介が、「あった」回答者は48名、「なかった」は97名であった。1年後アンケート(post)は、「あった」が29名、「なかった」が21名であった(表1)。preとpostの独立した2群において、紹介・逆紹介の「あった」「なかった」回答者数に対する有意差をカイ二乗検定した。 $\chi^2=9.6$, $p=0.002$ で、紹介・逆紹介の有無に有意差があり(表2)、postではpreと比較して、「あった」の割合が増加した(図6)。

②については「この1年間で、あなたは摂食障害患者さんを担当しましたか」という設問に対して、研修直後アンケート(pre)は、「担当した」回答者は64名、「担当しなかった」は100名であった。1年後アンケート(post)は、「担当した」が108名、「担当しなかった」が63名であった(表3)。preとpostの独立した2群において、「担当した」

「担当しなかった」回答者数に対する有意差をカイ二乗検定した。 $\chi^2=19.5$, $p<.001$ で、患者の担当の有無に有意差があり(表 4)、post では per と比較して、「担当した」の割合が大幅に増加した(図 7)。

③については「現在、摂食障害の指針やマニュアルに沿った診療・支援ができるようになって感じますか」という設問に対して、研修直後アンケート(pre)は、「感じる」の回答者は 94 名、「感じない」は 105 名、「どちらともいえない」は 212 名であった。1 年後アンケート(post)は、「感じる」の回答者は 48 名、「感じない」は 27 名、「どちらともいえない」は 96 名であった(表 5)。pre と post の独立した 2 群において、「感じる」「感じない」「どちらともいえない」の回答者数に対する有意差をカイ二乗検定した。 $\chi^2=6.88$, $p=0.032$ で、指針やマニュアルに沿った診療・支援の可否に有意差が認められた(表 6)。pre と post において「感じる」「感じない」「どちらともいえない」のどの選択肢に有意差があるのか、残差分析による検定を行った。標準化残差の値が、約 1.96 を超えると 5%水準で有意と判断される。post の「感じない」は、標準化残差が-1.89 であり、有意傾向が認められた(表 7)。post では per と比較して、「感じない」の割合が減少した(図 8)。

摂食障害治療研修の外来研修における 1 年後アンケートの調査結果から、1 年経過後に、紹介・逆紹介をした回答者の割合が有意に増加し、医療連携が推進したことが考えられた。また、摂食障害患者の治療・支援の担当した回答者の割合が増加し、摂食障害患者を担当する治療・支援者が増えたことも推察された。さらに、摂食障害の指針やマニュアルに沿った診療・支援ができると感じない回答者の割合が減少し、治療・支援へ不安が軽減した者が増えたと考えられた。

一方で、1 年後のアンケートの回答率は、約 35%と低く、1 年後のアンケートは、摂食障害治療に課題や関心をもつ者が回答していることも考えられ、バイアスが生じていることを考慮する必要がある。②は「この 1 年間で摂食障害の患者さんを担当した」という質問に対する回答を集計・解析したが、研修直後の pre は自由回答であり、1 年後の post は必須回答と回答者の設定が異なっていたため、pre と post における「担当した」と「担当しなかった」の比率の違いに、影響を及ぼした可能性がある。

摂食障害治療研修は、研修直後の満足度が高く、長期的な効果として、医療連携や治療・支援者、治療への自信にも影響を及ぼすことが示唆された。

R6年度研修受講者概要

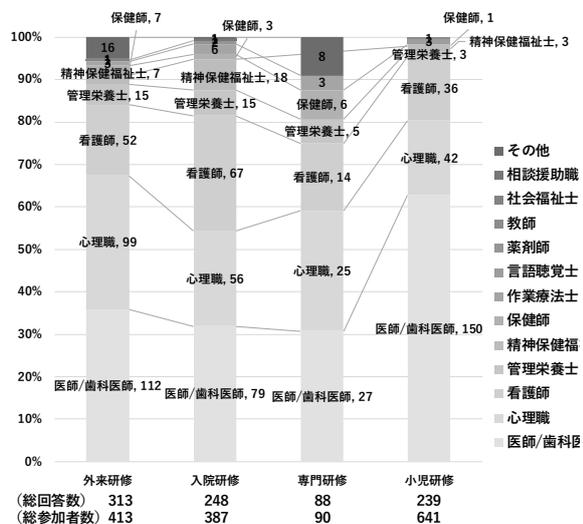


図1 参加者の職種の割合

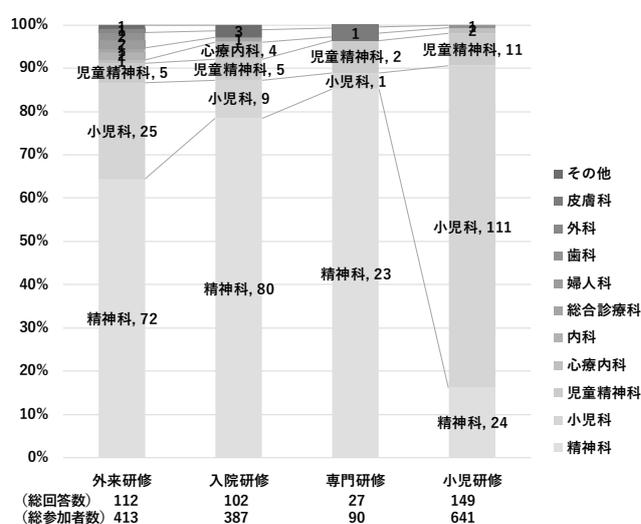


図2 参加医師の診療科の割合

R6年度研修受講者による研修評価

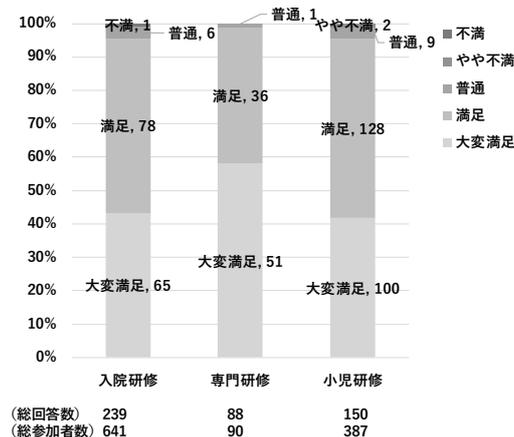


図3 参加者による研修内容の評価

外来研修1年後アンケート回答者概要

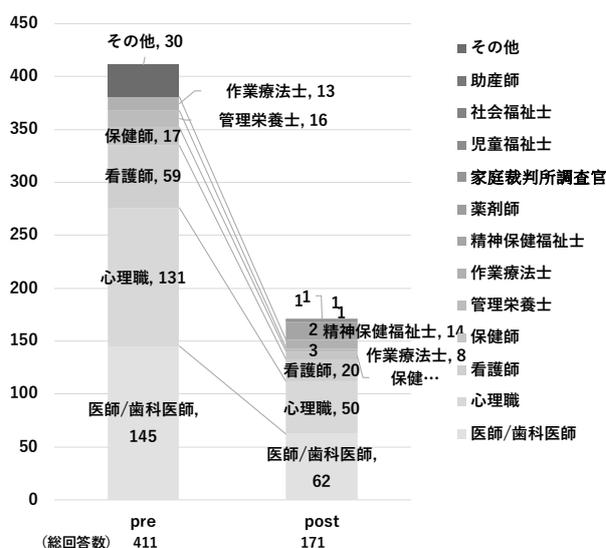


図4 外来研修1年後アンケート pre/post回答者の職種

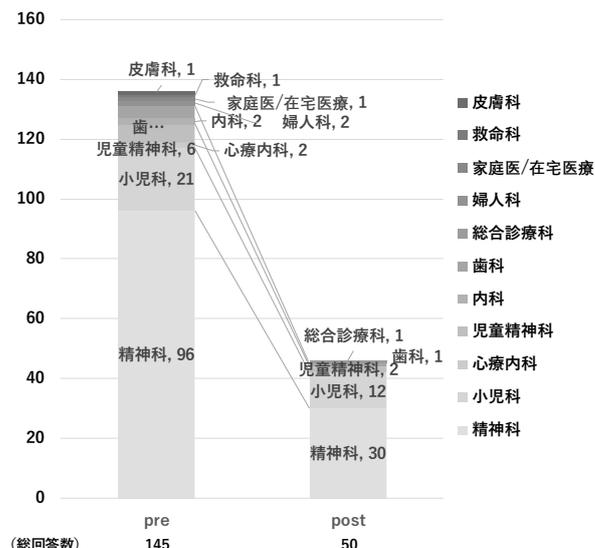


図5 外来研修1年後アンケート pre/post回答者の診療科 (医師のみ回答)

外来研修1年後アンケート解析結果

Q.この1年間で摂食障害の患者さんを他施設へ「紹介する」または「紹介を受ける」ことはありましたか

表1 紹介・逆紹介の有無

pre/post		紹介・逆紹介の有無		全体
		あった	なかった	
pre	観測度数	48	97	145
	全体%	24.6%	49.7%	74.4%
post	観測度数	29	21	50
	全体%	14.9%	10.8%	25.6%
全体	観測度数	77	118	195
	全体%	39.5%	60.5%	100.0%

表2 紹介・逆紹介の有無 χ^2 検定

	値	自由度	p
χ^2	9.64	1	0.002
N	195		

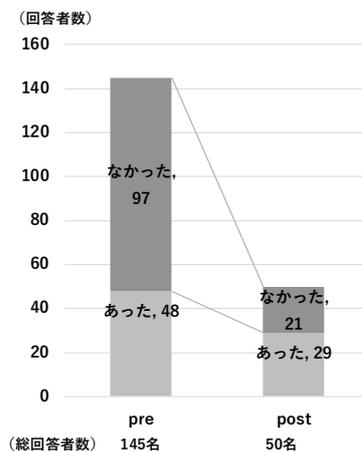


図6 紹介・逆紹介の有無 1年後の比較 (医師のみ回答)

外来研修1年後アンケート解析結果

Q.この1年間で、あなたは摂食障害患者さんを担当しましたか

表3 摂食障害患者の担当の有無

pre/post		担当の有無		全体
		担当した	担当しなかった	
pre	観測度数	64	100	163
	全体%	19.1%	29.9%	49.0%
post	観測度数	108	63	171
	全体%	32.2%	18.8%	51.0%
全体	観測度数	164	171	335
	全体%	51.3%	48.7%	100.0%

表4 摂食障害患者の担当の有無 χ^2 検定

	値	自由度	p
χ^2	19.5	1	<.001
N	335		

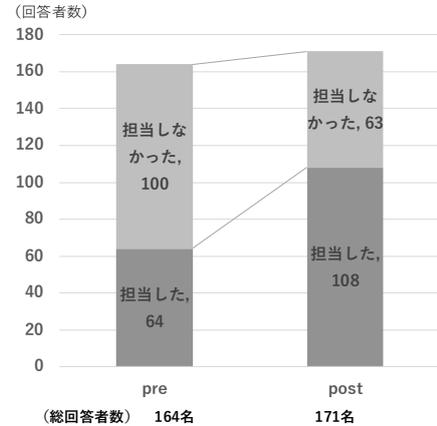


図7 摂食障害患者の担当の有無

1年後の比較

注) 本項目についてpreは自由回答, postは必須回答

外来研修1年後アンケート解析結果

Q.現在、摂食障害の指針やマニュアルに沿った診療・支援ができるようになってきていると感じますか

表5 指針やマニュアルに沿った診療・支援の可否

マニュアル pre/post		マニュアルに沿った支援 区分			全体
		感じる	感じない	どちらともいえない	
pre	観測度数	94	105	212	411
	全体%	16.2%	18.0%	36.4%	70.6%
post	観測度数	48	27	96	171
	全体%	8.2%	4.6%	16.5%	29.4%
全体	観測度数	142	132	308	582
	全体%	24.4%	22.7%	52.9%	100.0%

表6 指針やマニュアルに沿った診療・支援の可否 χ^2 検定

	値	自由度	p
χ^2	6.88	2	0.032
N	582		

表7 標準化残差

	感じる	感じない	どちらともいえない	標準化残差	解釈
Pre	-0.63	1.22	-0.37		
Post	0.97	-1.89	0.58		

±1.96以上 p < 0.05 → 有意な差あり
±2.58以上 p < 0.01 → より強い有意差

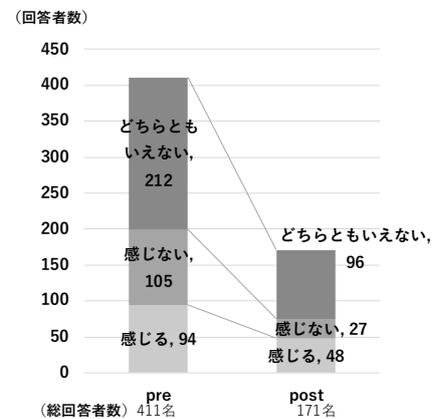


図8 指針やマニュアルに沿った

診療・支援の可否

令和6年度

摂食障害支援拠点病院 入院時患者データの集計と分析集計と分析

摂食障害全国支援センター

調査目的：令和6年度（2024年）の8拠点病院における入院患者の患者数と内訳を報告し、実態を明らかにする。

集計方法：各拠点病院から報告された令和6年（2024年）4月から令和7年（2025年）3月の「入院時患者データ入力フォーム」を全施設分合算し、調査項目毎に集計した。但し、東京都は令和6年7月設置されたためそれ以降のデータを収集した。

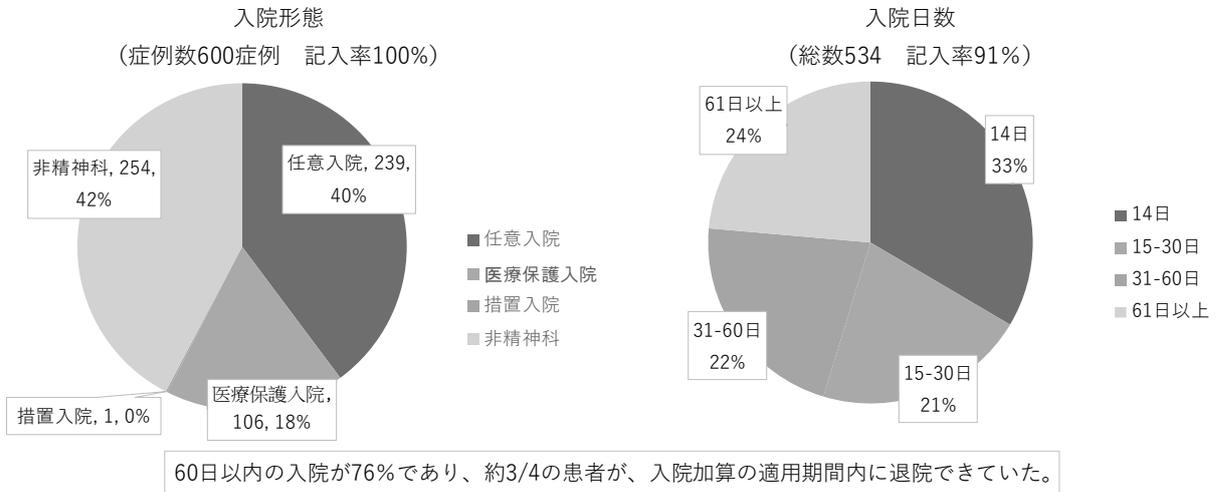
また、調査初年度であり、調査票の見直しを検討するため、記入率を算出した。

集計対象の拠点病院：

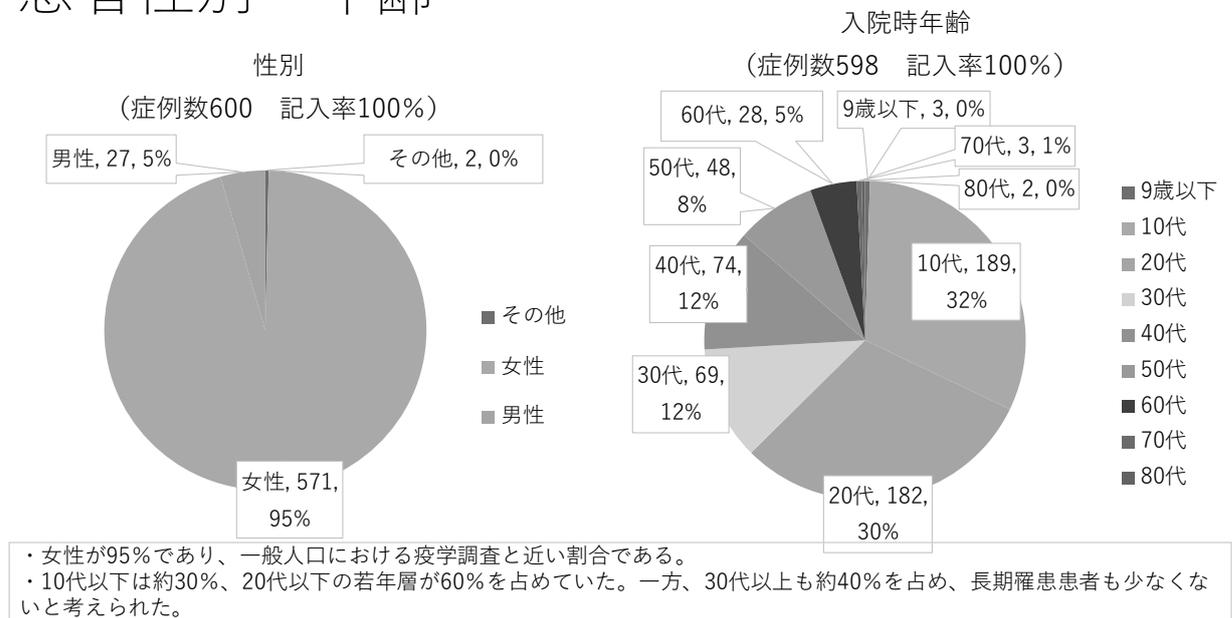
東北大学病院（宮城県）獨協医科大学病院（栃木県）国立国府台医療センター（千葉県）
都立松沢病院（東京都）浜松医科大学医学部附属病院（静岡県）金沢大学附属病院（石川県）
福井大学医学部附属病院（福井県）九州大学病院（福岡県）

入院患者数

都道府県名	宮城県	栃木県	千葉県	東京都	静岡県	石川県	福井県	福岡県	総計
入院患者数	47	30	129	214	42	42	17	79	600

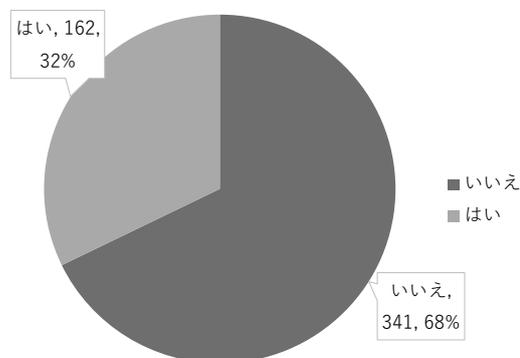


患者性別・年齢

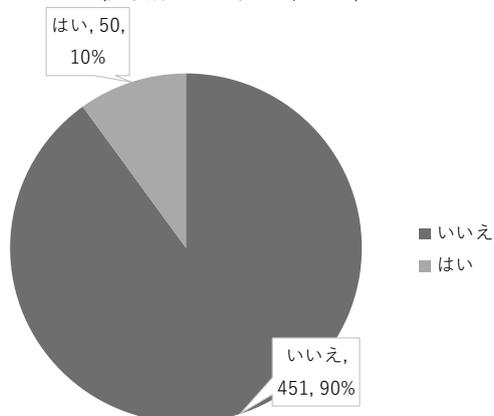


他施設への紹介・逆紹介の有無

他施設からの紹介の有無
(症例数503 記入率84%)



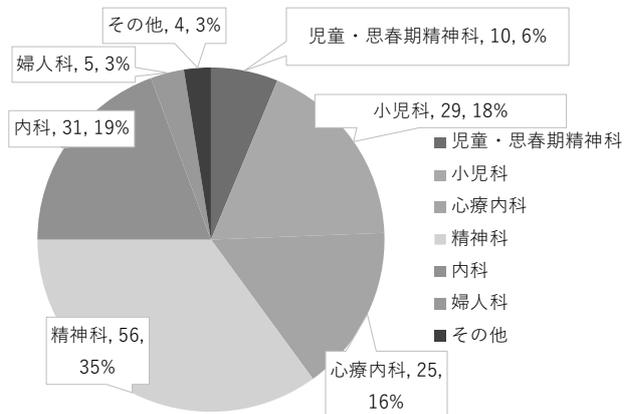
他施設への紹介の有無
(症例数501 記入率84%)



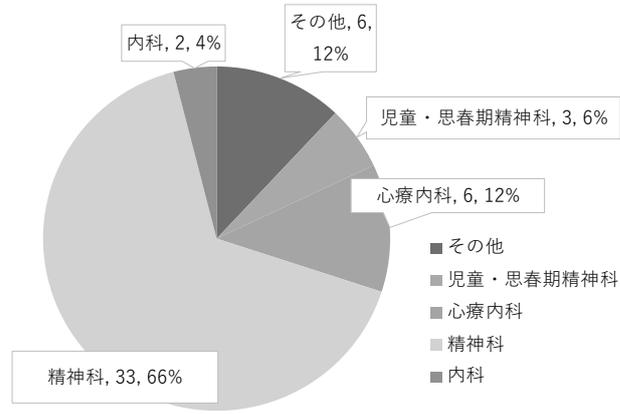
162例の他施設からの紹介に対して、入院直後は、50例が他施設へ逆紹介されていた。

他施設への紹介元・紹介先の診療科

他施設からの紹介元診療科
(症例数162 記入率100%)

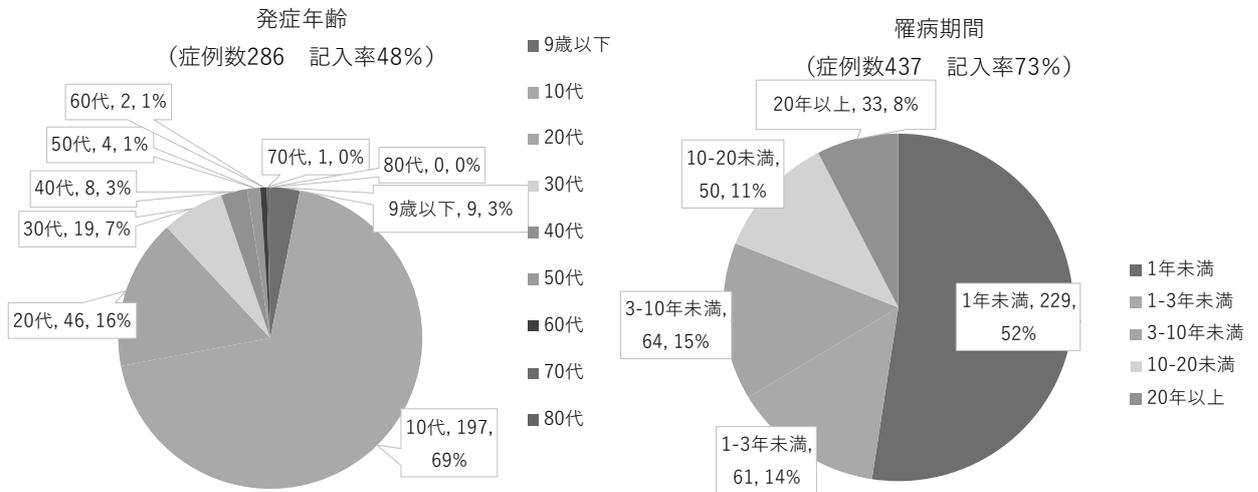


他施設への紹介先診療科
(症例数50 記入率100%)



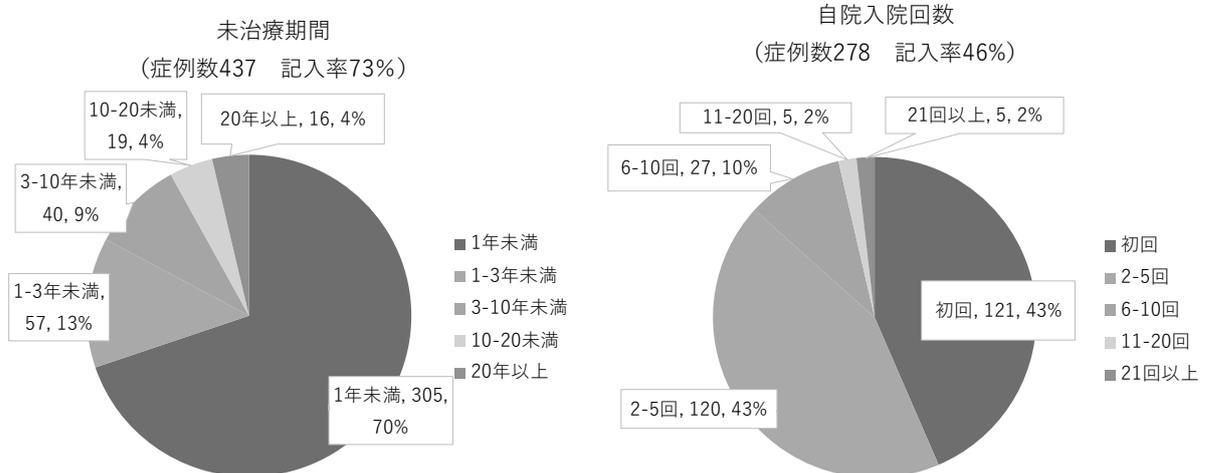
- ・入院前の紹介元診療科は、精神科が35%と最も多く、次いで内科、小児科、心療内科が、各々20%弱であった。
- ・退院後の紹介先診療科は、精神科が66%と多数であった。

発症年齢・罹病期間



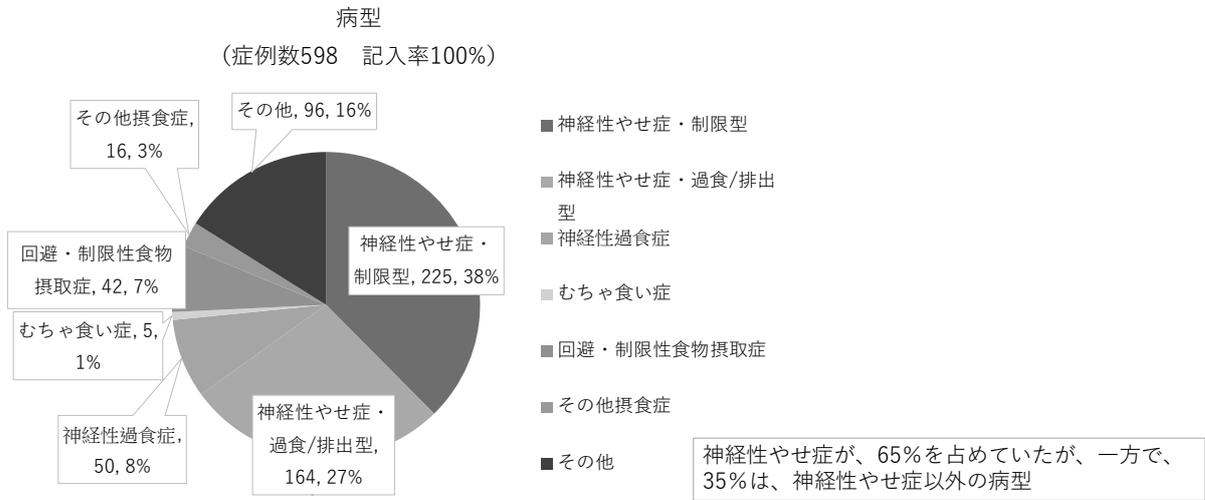
罹病期間は、1年未満が52%であった。発症早期（1年未満）の患者が半数を占めており、早期治療につながっていると捉えられた。一方で、10年以上が約20%であった。

未治療期間・自院入院回数

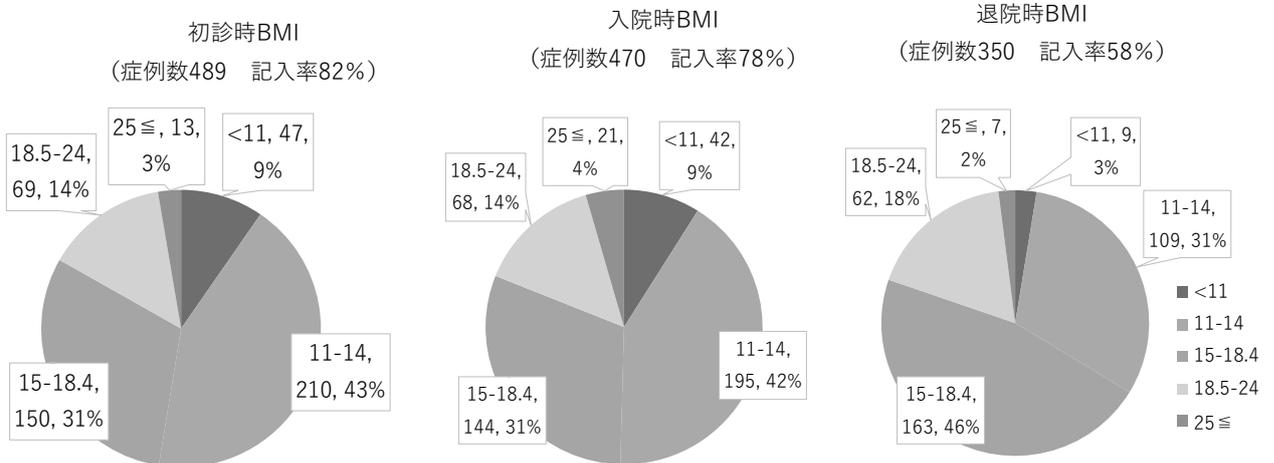


・未治療期間は、1年未満は70%と最も多かった。1-10年は30%、10年以上は、10%であった。
・自院入院回数は、初回が43%で、2-5回も43%と同じ割合であった。

病型



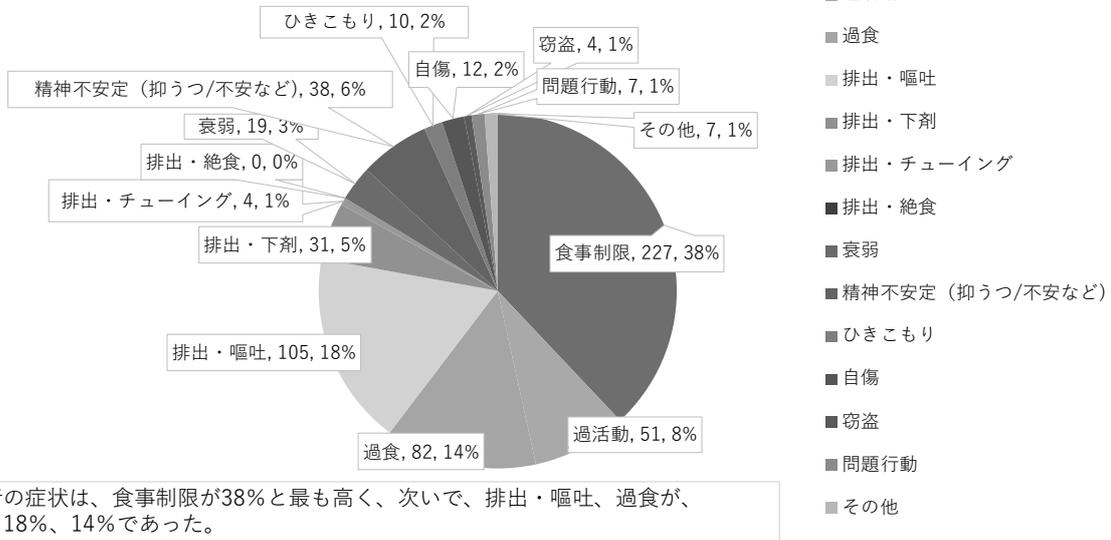
初診・入院・退院時BMI



・初診時と入院時のBMIは、15未満が約50%である一方、15以上も半数を占めていた。
 ・退院時のBMIは、15-18.4が46%と最も多かったが、11-14は31%であった。

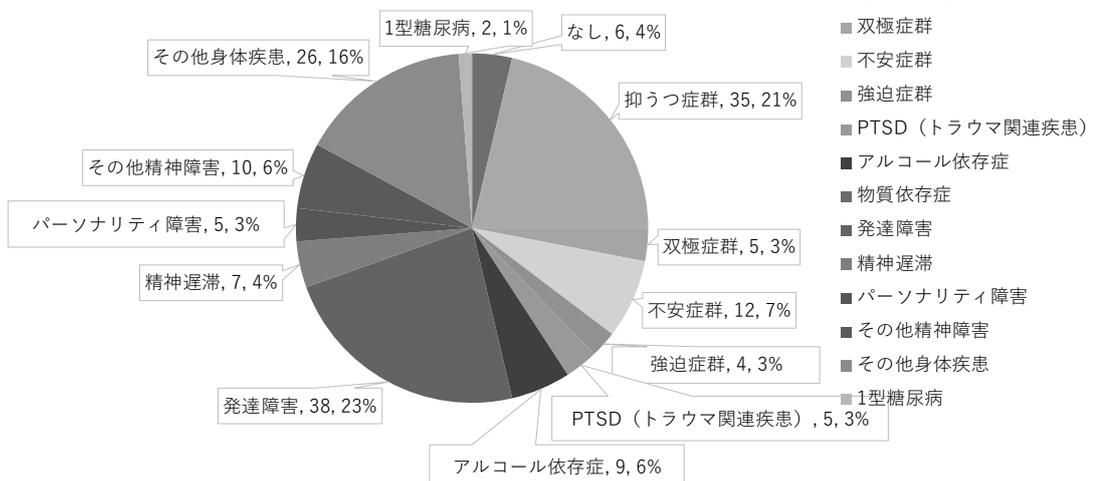
患者の症状

患者の症状 複数回答
(症例数287 記入率48%)

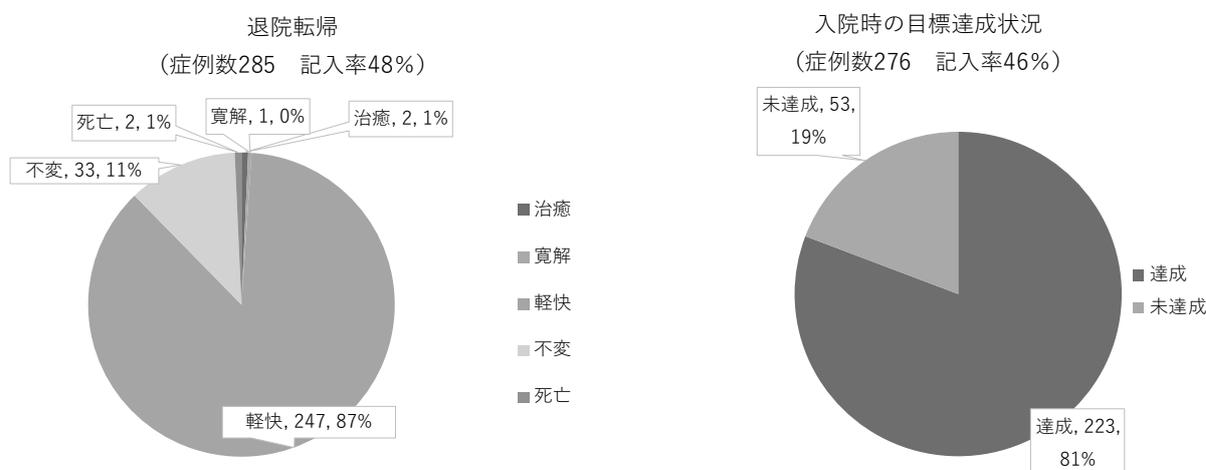


患者の合併症

合併症 複数回答
(症例数128 記入率21%)



退院転帰・退院時の目標達成状況



- ・退院転帰は、軽快が87%と大部分を占めた。次いで不変が11%であった。
- ・退院時の入院時の目標達成状況は、81%が達成が大部分をしめたが、19%は未達成であった。

令和6年度 摂食障害支援拠点病院入院時患者データのまとめ

- ・60日以内の入院が76%であり、約3/4の患者が、急性期入院の期間内に退院できていた。
- ・10代以下は約30%、20代以下は約60%で、若年層が過半数を占めていた。10代の入院環境の整備が求められている。
- ・未治療期間は、1年未満が70%と最も多く、拠点病院が、早期治療を担えてると捉えられた。
- ・初診時と入院時のBMIは、15未満が約50%と半数を占めていたが、一方、15以上が約50%であり、重篤な低体重になる前の適切なタイミングでの入院治療を行っていたと考えられる。今後、地域の摂食障害診療体制が整うことで、協力病院との連携が可能となり、重症度に応じた分担が可能になると考える。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動・計画

1. 情報ウェブサイトコンテンツの更新・拡充を実施する。令和7年の3月頃までに実施する。
2. 日本摂食障害協会と共催し、世界摂食障害アクションデイ2024にて当事者向け企画を開催する。SNSなどのソーシャルメディアで広まっている動画の功罪について議論を行い、新たな啓発動画の作成の試みについて紹介を行う。

普及啓発活動・結果

1. 摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営

- ・ 摂食障害情報ポータルサイト(一般向け、専門職向け)運営委員を実施団体5名で構成した。
- ・ ポータルサイトにおいて、記事の配置と構成を修正し、随時イベント、研修案内、摂食障害に関する情報を掲載した。全国支援センターHPのコンテンツを更新した。
- ・ NCNP および日本摂食障害協会が作成した摂食障害の啓発動画を紹介するサイトを新設した。
- ・ 国府台病院にて摂食障害「相談ほっとライン」のホームページを更新し、SNS(Twitter)においても情報を発信し啓蒙に努めた。
- ・ 今年度は、技術的な問題のために全国支援センターのホームページおよびポータルサイトのアクセス解析を行うことができなかった。令和6年5月にドメインを変更し、その際にアクセスデータの集積の手続きが漏れていたためである。12月に判明し、令和7年1月より新たにデータ収集を再開している。

2. 世界摂食障害アクションデイ2024

- ・ 2024年6月2日『世界摂食障害アクションデイ2024』の市民公開講座を、日本摂食障害協会との共催で、跡見学園女子大学で開催した。今年のテーマは「摂食障害とメディアの良い関係を目指して～SNS動画を見て自信なくしていませんか?～」であり、摂食障害専門家、摂食障害患者に登壇いただき、啓蒙動画の視聴などの取り組みを公表した。若い当事者にも加わっていただき総合討論を行った。当日は90名にご参加いただき、後日配信でも当日の様子を公開した。

3. メディア関連対応

- ・ メディアの取材に応じ、摂食障害という疾患について、摂食障害にまつわる医療体制の課題、本事業の活動などについて情報提供をした。
- ・ 高校生からの取材やメールでの問い合わせ対応が数件続いた。高校指導要綱に摂食障害教育が加わったことによる効果であると推察している。

ウェブサイトへのアクセス状況

2025年2月のセッション数、ページビュー数、ユーザー数（新規・リピーターユーザー数）を表1に示す。なお、本年度は、ドメイン変更を実施したため、2025年2月1日から28日のみのデータを掲載する。また2018年度から2023年度までのアクセス数の経過を図1,2に示す。

集計は、Google アナリティクスを用いて下記の定義で実施した。

- ・ページビュー数：ユーザーが表示したウェブページの数、
- ・セッション数：ユーザーが訪問した数
- ・ユーザー数：アクセスした個別ユーザー
- ・アクティブユーザー：アクセスしたユーザーの延べ数

摂食障害情報ポータルサイトは、前年の1ヶ月当たりのページビュー数、セッション数、ユーザー数と比較していずれの項目も大幅に減少した。2019年以降ユーザー数、セッション数共に年々減少している。摂食障害全国支援センターHPも同様に、前年の1ヶ月当たりのページビュー数、セッション数、ユーザー数と比較していずれの項目も減少した。

各サイトの都道府県別のアクティブユーザー数を図3,4に示す。支援センターも、ポータルサイトも上位10県は、東京や神奈川、千葉、埼玉などの首都圏と、北海道、関西、中部、九州の主要都市であり、人口に比例した可能性があった。

表1 2025年2月インターネット閲覧回数

	ページビュー数	セッション数	ユーザー数	新規	リピーター
摂食障害情報ポータルサイト	38,011 (42%)	20,625 (36%)	17,257 (36%)	16,446 (36%)	2,292 (123%)
摂食障害全国支援センターHP	4,620 (75%)	2,354 (78%)	1,754 (72%)	2,354 (77%)	310 (111%)

() 内は前年月平均比

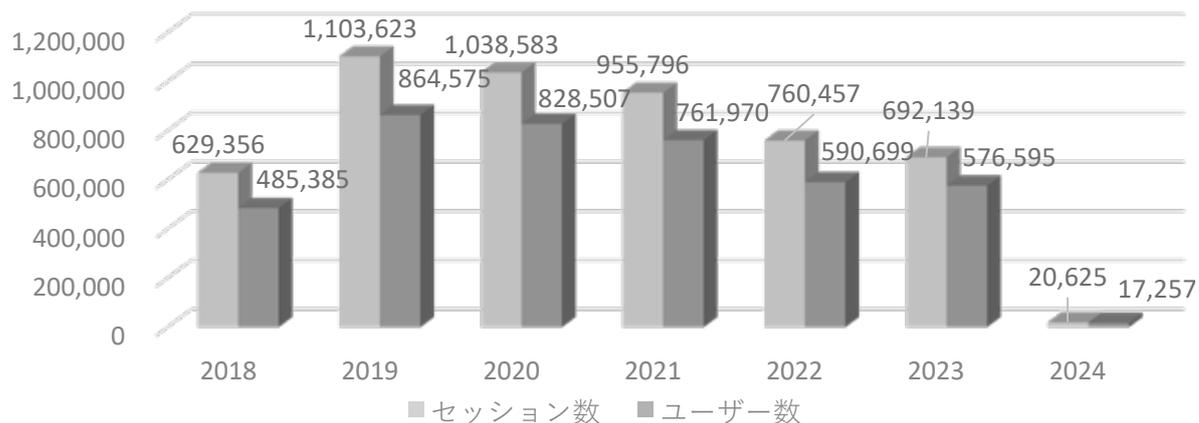


図1 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方・専門の方）の年度毎アクセス数

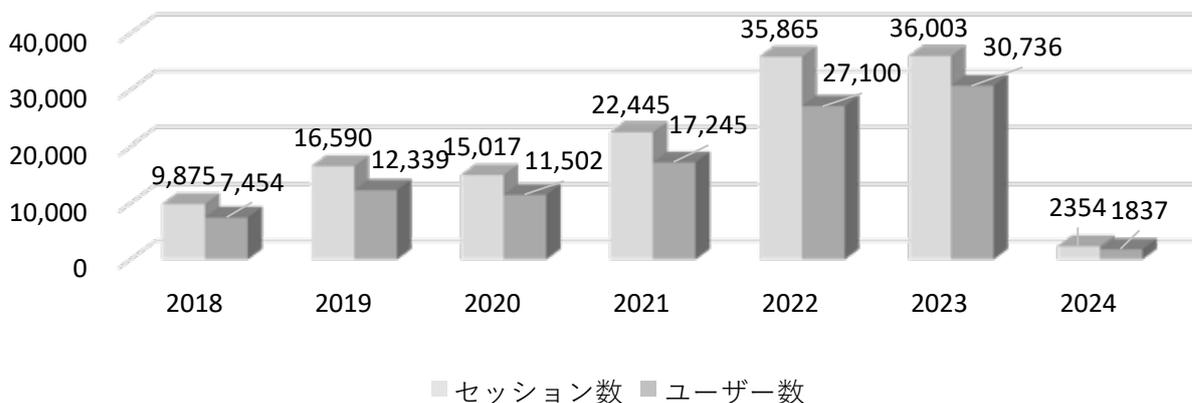


図2 摂食障害全国支援センターHPの年度毎アクセス数

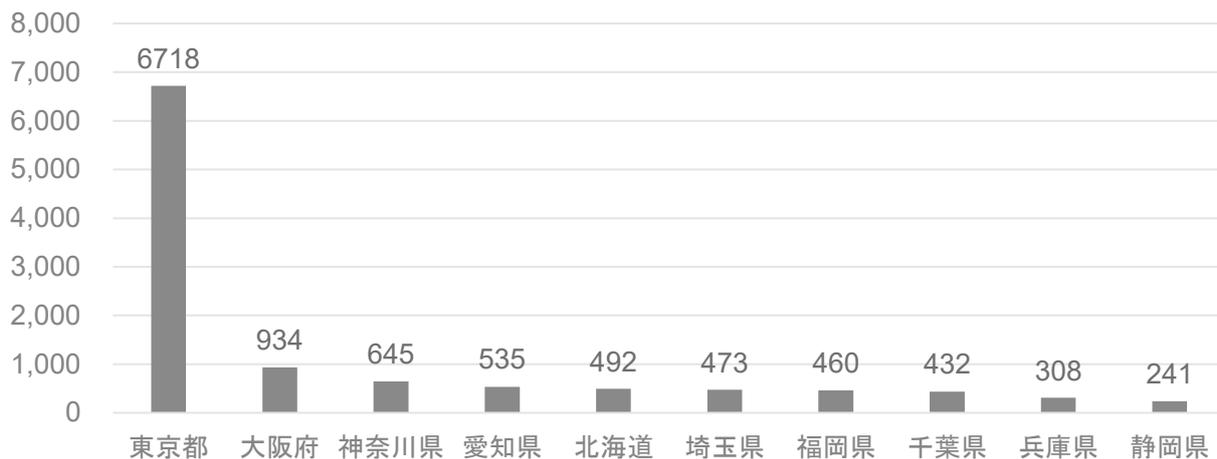


図3 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方）
都道府県別アクティブユーザー数一覧（2025/2/1-28）

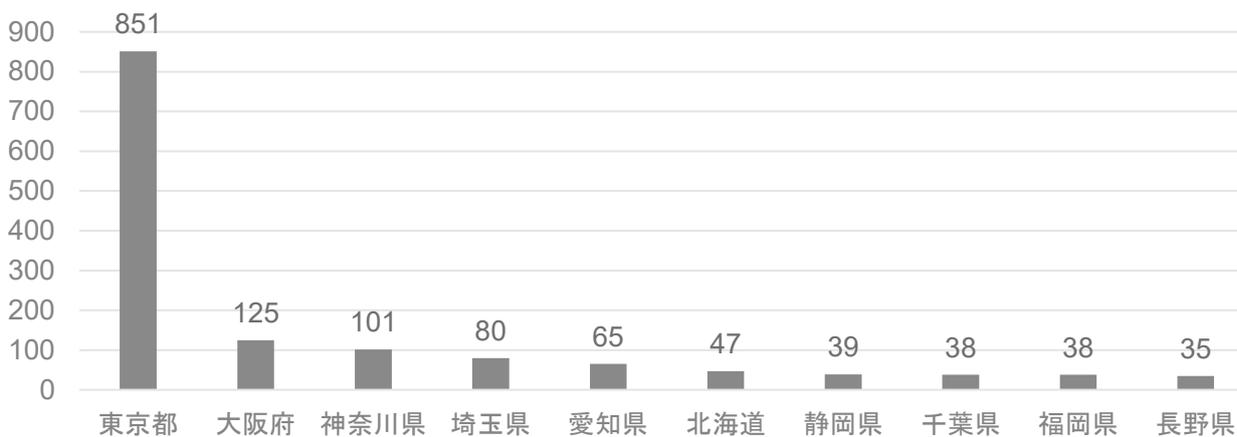


図4 摂食障害全国支援センター
都道府県別アクティブユーザー数一覧（2025/2/1-28）

各コンテンツへのアクセス状況

ポータルサイト（一般の方向け）のコンテンツでは、「摂食障害はどんな病気？」への訪問者が最も多かった（図5）。次いで「摂食障害のサイン」「子どもの摂食障害」への訪問者も多く、症状の特徴やサインについて情報を求めている様子が認められた。「摂食障害からの回復」「診療連携・相談窓口」「よくある相談」への訪問者数も多かった。回復の仕方や相談窓口、相談への情報を求めている状況も見受けられた。

ポータルサイト（専門の方向け）のコンテンツでは「診療の手引き・ガイドライン等」が最も多く、次いで「摂食障害の治療」「摂食障害の概説と疫学」への訪問者が多かった。治療方法やガイドラインの情報、摂食障害の学術的な情報を求めている可能性があった（図6）。

摂食障害全国支援センターウェブサイトにおいてはホームページの「摂食障害全国支援センター」への訪問者は多いが、下位の層への訪問者は、少なかった。下位の層は、「拠点病院設置サポート」、「相談窓口」の訪問者数が多かった。「相談窓口」のページには、摂食障害相談ほっとラインのURLやリーフレットのリンクが埋め込まれている。訪問者は相談先を求めて本サイトを訪問したと推察された（図7）。

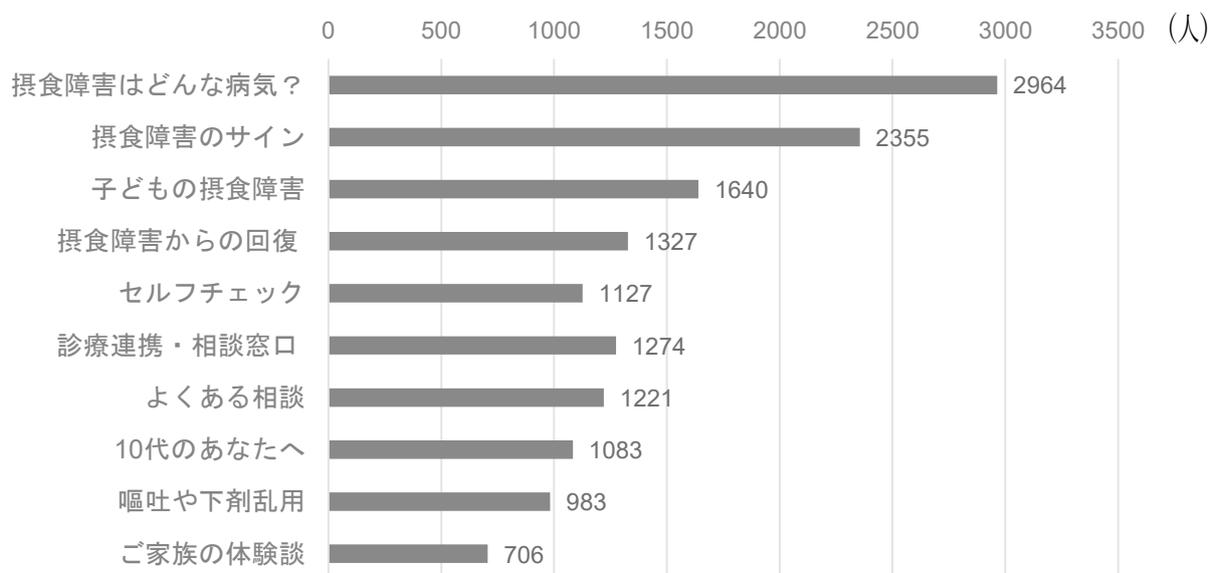


図5 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方向け） 各ページのアクティブユーザー数
(2025/2/1-28)

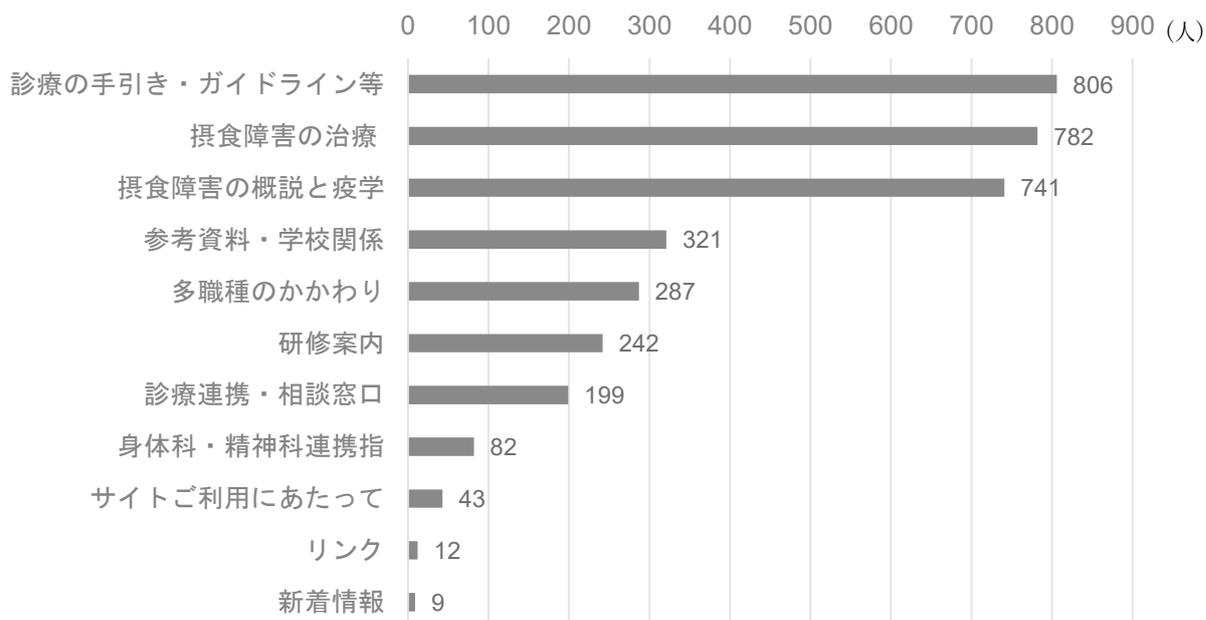


図6 摂食障害情報ポータルサイト（専門の方向け） 各ページのアクティブユーザー数
(2025/2/1-28)

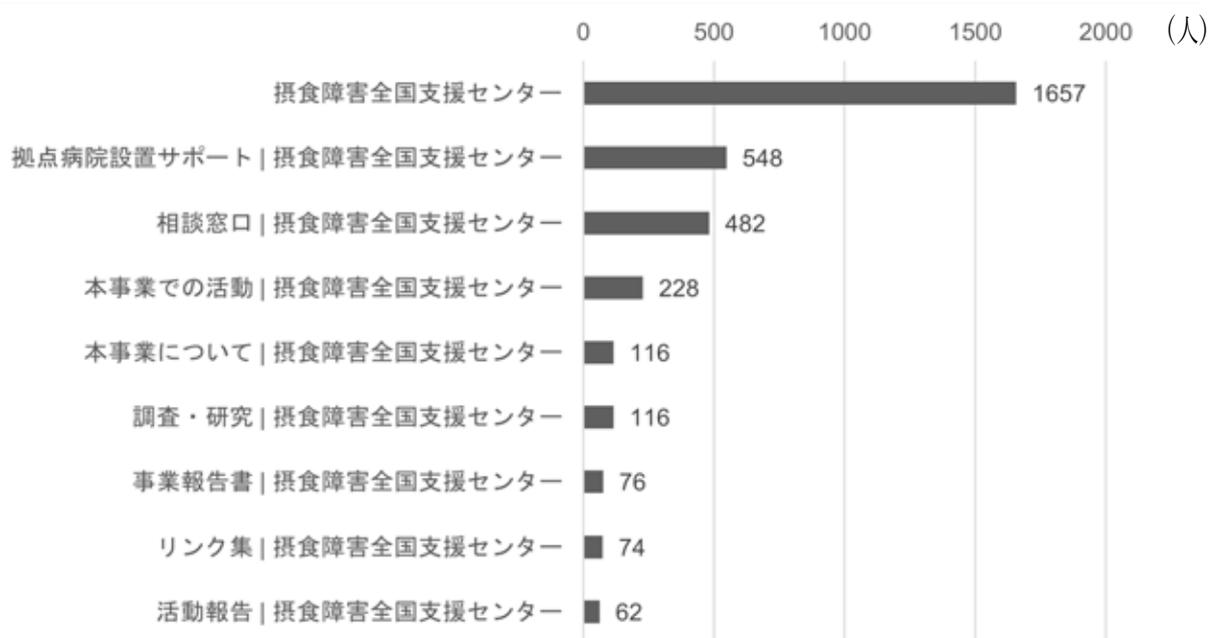


図7 摂食障害全国支援センターHP 各ページのアクティブユーザー数
(2025/2/1-28)

メディア対応（取材に応じかつ記事がリリースされたもののみ掲載）

「かんさい熱視線」 “むちゃ食い”してませんか？ それ摂食障害かもしれません！	
リンク	
メディア媒体	NHK 大阪放送局
公表日	2024年7月27日（金）19：30～関西地域で放送している「かんさい熱視線」
取材対応	関口敦 井野敬子
オトナと子ども 痩せたい気持ちとどう行き合う？	
リンク	なし
メディア媒体	共同印刷 美的 GRAND 夏号 p122-125 び・い・く 親と子の美容英才教育プロジェクト
発行日	2023年6月12日
取材対応	取材対応はなし 記事に摂食障害情報ポータルサイトの情報が掲載された

世界摂食障害アクションデイ 2024

動画配信 <https://www.youtube.com/watch?v=effvh4kPJ5I>



世界摂食障害アクションデイ 2024

—World Eating Disorders Action Day 2024—

摂食障害とメディアの 第2弾 良い関係を目指して

SNS動画を見て自信なくしていませんか？

今年の世界摂食障害アクションデイでは、昨年に引き続き
摂食障害とソーシャルメディアの関係について考えます。

この企画が目指すこと

- 摂食障害に関する誤解の解消
- ソーシャルメディアや動画における功罪の理解
- 動画のポジティブな影響の促進
- 健全なメディア利用の推進



摂食障害の啓発動画をご覧ください

日本摂食障害協会と国立精神・神経医療センターが共同で作成しました。
摂食障害の正しい知識を伝えるとともに、こころの問題への向き合い方や、
摂食障害を抱えながら頑張っている当事者家族をサポートする内容です。
ご視聴いただいた方々にはアンケートにご協力いただき、
今後の活動に反映させたいと考えております。

参加方法や世界摂食障害アクションデイについての詳細は裏面をご覧ください。

参加費
無料

2024年

6月2日(日)

13:30~15:30

参加条件
なし

定員 **150名**

会場 跡見学園女子大学
文京キャンパス 2号館
3階 大講義室

👉 後日 動画配信あり

*動画視聴の場合は登録は必要ありません

制作 / さのふうか : イラストレーター

8. 考察

令和6年度は、全国的な摂食障害支援体制の強化に向けた取り組みがさらに進展した1年であった。特に、栃木県(4月)、東京都(7月)に新たに摂食障害支援拠点病院が指定され、全国の支援拠点病院数が8施設に拡充されたことは大きな成果の一つである。支援拠点病院の設置準備サポートの定式化による新規支援拠点病院の指定に向けた動きは継続的に拡大している。これにより、地域ごとの支援ネットワークが強化され、拠点病院のない地域に対する支援の在り方についても新たな展望が開かれた。支援拠点病院の設置を促進するために、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」をさらに充実させ、拠点未設置地域の自治体や医療機関への働きかけを継続したことも、本年度の重要な取り組みである。

また、診療体制の強化に向けて、外来治療研修2回、入院治療研修2回、小児治療研修1回をオンラインで実施し、幅広い医療従事者への支援を行った。特に、小児科診療従事者向け研修会には600名を超える参加があり、10代の摂食障害患者の増加が指摘される中で、小児科領域における診療体制の充実が求められていることを改めて確認する機会となった。

しかし、新規支援拠点病院の指定や研修会の開催にもかかわらず、摂食障害治療に対する認識の低さや診療体制の不足が依然として課題として残っている。特に、医療機関や自治体が摂食障害支援のニーズを十分に把握していない、摂食障害対策の優先度を上げられない、現状の診療体制に問題を感じていないといった声は、前年度からの課題として引き続き多くの地域から聞かれる。これらの課題を克服し、より多くの支援拠点病院の設置を促進するためには、全国支援センターとしてのさらなる取り組みが求められる。

特に、支援拠点病院の新規指定を進めるにあたり、各自治体や医療機関における摂食障害対策の優先度が依然として低いこと、専門医不足や診療報酬の課題が支援体制の拡充を阻む要因となっていることが改めて浮き彫りとなった。拠点病院設置を進めるためには、自治体や医療機関の意識向上が不可欠であり、「摂食障害診療連携モデル」や「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」を活用しながら、各地域の実情に応じた働きかけを強化する必要がある。

普及啓発活動では、摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営を継続し、NCNP および日本摂食障害協会が作成した啓発動画の紹介コーナーを新設するなど、オンラインコンテンツの充実を図った。また、世界摂食障害アクションデイ2024では、「摂食障害とメディアの良い関係を目指して～SNS動画を見て自信なくしていませんか?～」をテーマに、市民公開講座を開催し、約90名が参加した。このような取り組みを通じて、摂食障害に関する正しい知識の普及とスティグマの軽減に貢献していきたい。

令和6年度の活動を通じて、摂食障害支援の体制強化が進められたが、引き続き取り組むべき課題も多い。今後も、学会、協会、医療機関、自治体、関係省庁、教育機関、マスメディア、企業など、多様な関係機関との連携をさらに深め、全国的な摂食障害支援ネットワークの強化を推進することが不可欠である。特に、拠点病院指定が進む中で各地域の支援ニーズを的確に把握し、各拠点病院での好事例や課題を迅速に共有し、それぞれの課題に応じた柔軟な支援を提供することで、より多くの摂食障害患者が適切な治療とサポートを受けられる体制の整備を目指す。

今後も、摂食障害に関する認識を高め、より多くの人々が適切な治療と支援を受けられるよう、全国的な支援体制の拡充に向けた取り組みを継続していく。

3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

宮城県摂食障害支援拠点病院

Miyagi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院心療 内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区 星陵町 1-1	022-717-7328

URL 宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
金澤 素	東北大学病院心療内科／東北大学大学院医学系研究科心療内科学	特命教授・科長／准教授
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	副科長・講師
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	医員
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

2. 要旨

摂食障害支援拠点病院では、摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

相談支援では 相談体制を専用回線、専用メールアドレスにて週3日相談を受付。コーディネーターが相談内容を聞きとり、医師と相談し回答。例年同様、多くの相談が寄せられており、今年度も低年齢層の相談が一定数としてある。

治療支援にては 摂食障害の新規患者数は依然多く、院内の各専門領域の診療科との連携、協力医療機関との連携をおこなう。

研修において 院内での症例検討会の継続、連携ミーティングを専門領域の診療科とおこなった。また低年齢患者の増加もあり、小児科病棟看護師へも講義をおこなう。

啓発普及活動 継続して市民公開講座、家族教室を開催する。市民公開講座では、回復者の方々に講演いただくと、参加申込み、事前質問も多くよせられ、反響は大きい。

行政とは 摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

その他の活動 ホームページや SNS を活用して啓蒙活動を継続。

考察 相談支援、治療支援においても、対象患者となる若年層の割合は高い状況と考えられる。今後も摂食障害についての相談、早期治療につながる継続的支援が不可欠である。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	金澤 素	医師（東北大学病院心療内科 特命教授・科長、医学系研究科心療内科学 准教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	富田 博秋	医師（東北大学病院精神科、医学系研究科精神神経学分野 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	佐藤 康弘	医師（東北大学病院心療内科 講師）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	村上 靖	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 室長）	県保健福祉部精神保健推進室
同上	鶴若 美亜	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 精神保健推進班 技術主幹（班長））	県保健福祉部精神保健推進室
同上	小原 聡子	医師（精神保健福祉センター 所長）	県精神保健福祉センター
同上	石川 達	医師（東北会病院 理事長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	野村 泰輔	医師（のむら内科・心療内科クリニック 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	舩越 俊一	医師（宮城県立精神医療センター 副院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	遠藤 由香	医師（広瀬病院）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	町田 知美	医師（東北労災病院心療内科 副部長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	川端 美樹	宮城県仙台保健福祉事務所（宮城県塩釜保健所） 地域保健福祉部 総括技術次長	保健所
同上	〇〇〇〇〇	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	〇〇〇〇	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和6年5月27日	令和6年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について
第2回	令和7年1月27日	令和6年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告について

4. 相談支援

相談体制

専用回線、専用メールアドレスにて、火～木曜日の週3日にて相談を受付。

コーディネーターが相談内容（相談者の属性、相談対象者の困っている症状や状態、性別、年齢、身長、体重、医療機関受診の有無、お住まいの地域）を聞きとり、医師と相談後、対応について回答。

対応相談

摂食障害の症状、状態に応じ、医師と相談し、対応を回答する。摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引きの使用や、摂食障害ポータルサイト、「学校と医療のより良い連携のための対応指針」、EAT119、書籍、自助グループ等を紹介。

受診相談

県内対象者の場合

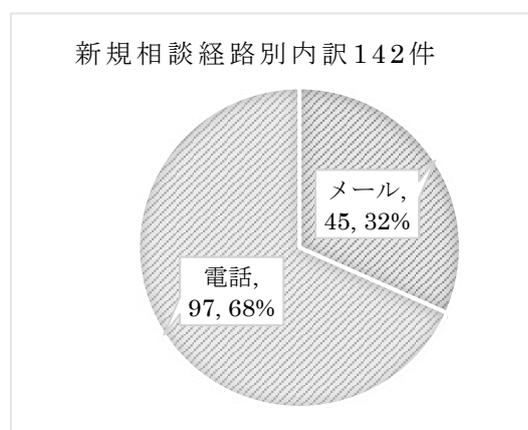
対象者の状態に応じて拠点病院の連携医療機関やカウンセリングを希望の場合には相談機関を案内。

県外対象者の場合

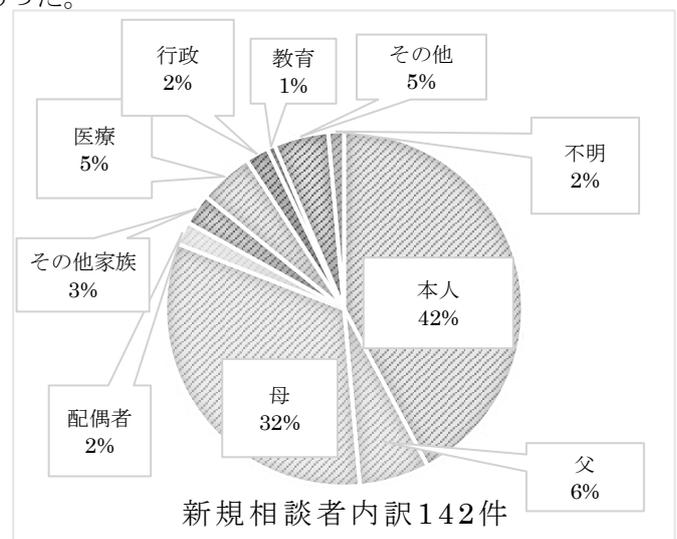
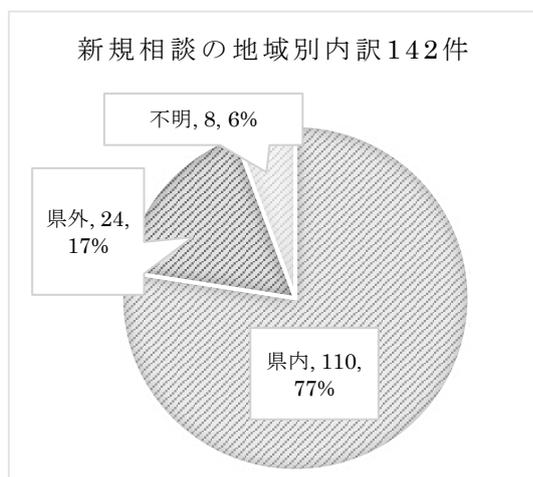
摂食障害ポータルサイト上の「摂食障害相談施設リスト」に掲載されている対象者の住まい地域の自治体にある医療機関や、各都道府県の子ども精神保健福祉センターの連絡先を案内。

相談支援結果

令和6年度の相談延べ件数は253件で、電話相談が延べ156件（60.1%）、メール相談は延べ97件（39.9%）と、6割が電話相談であった。新規相談件数142件の内訳は、電話相談が97件（68%）、メール相談が45件（32%）で、7割が電話による相談であった。



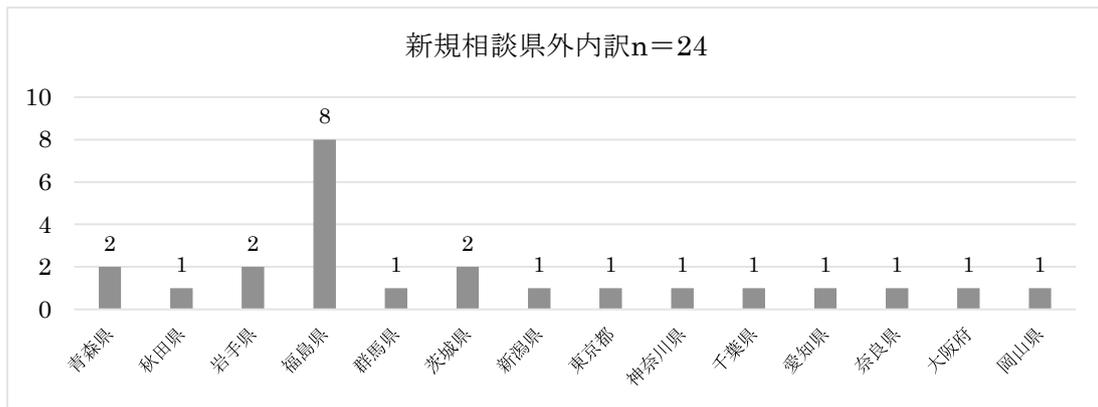
新規相談の7割が電話相談



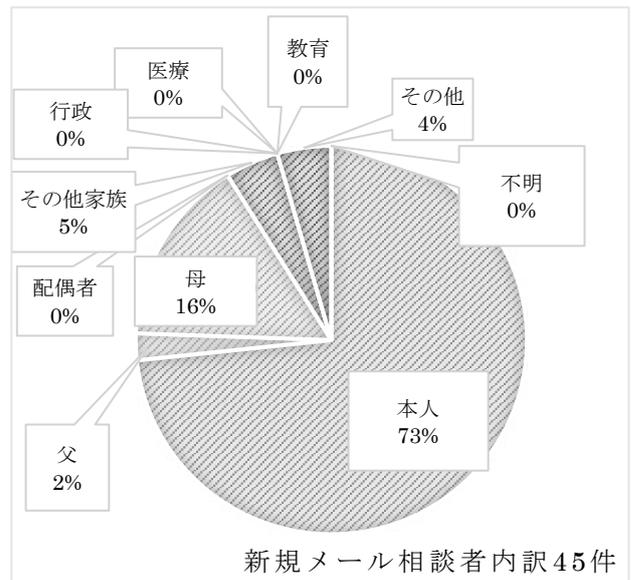
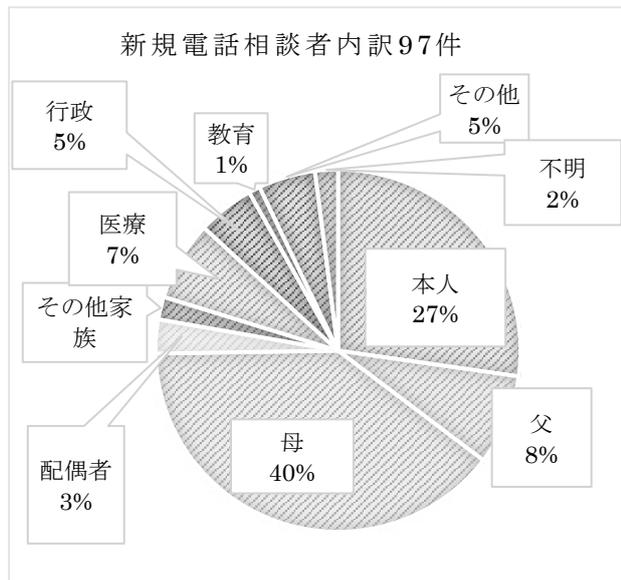
新規相談の4割が本人、次いで3割が母親である

新規相談142件の内訳は、本人からの相談が60件（42%）、次いで、母からの相談が46件（32%）であった。その母、父、配偶者、その他家族からの相談を合わせると62件（44%）で、本人と同数に近い相談件数であった。また、医療機関からは7件（5%）の相談が寄せられ、若年層のケースが多い。

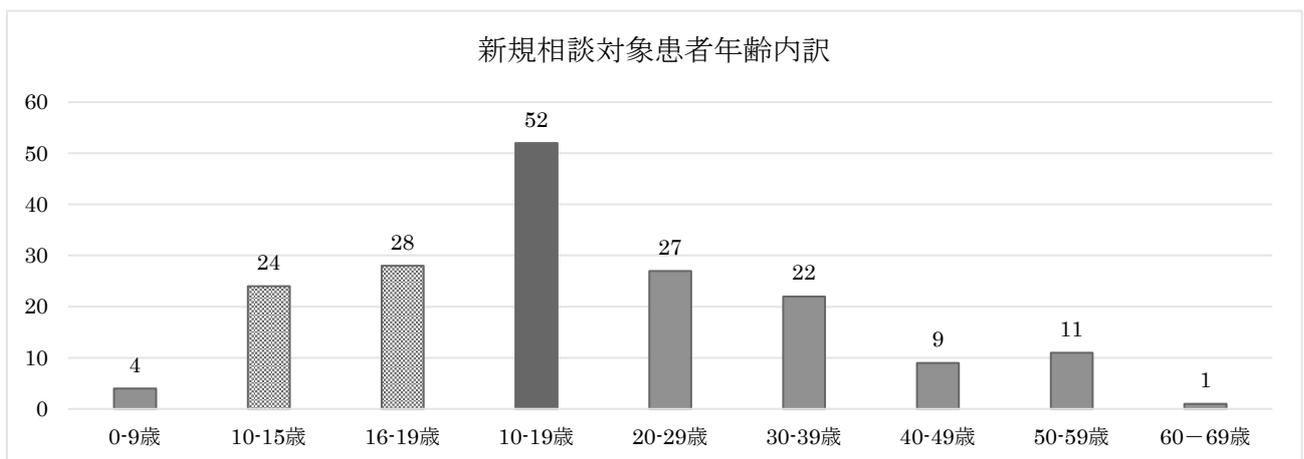
地域別の新規相談内訳では、県内が8割近くを占め、県外が2割近くであった。



県外からの相談 24 件の内訳は、福島県からの相談が 8 件（33.3%）と県外全体の 3 割を占め、その福島県を含めた 5 割が、近隣県の東北地方からの相談であった。

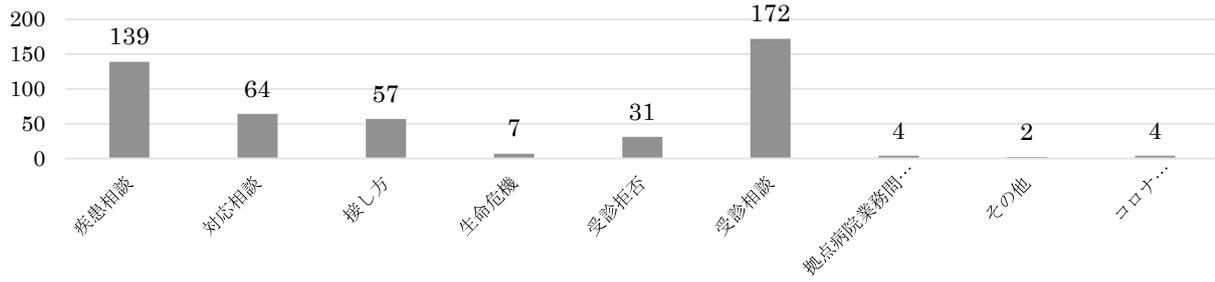


電話相談は、母からの相談 39 件（40%）と 4 割、本人からの相談が 27 件（27%）と 3 割を占め、メール相談は、本人からの相談が 33 件（73%）で 7 割を超えていた。



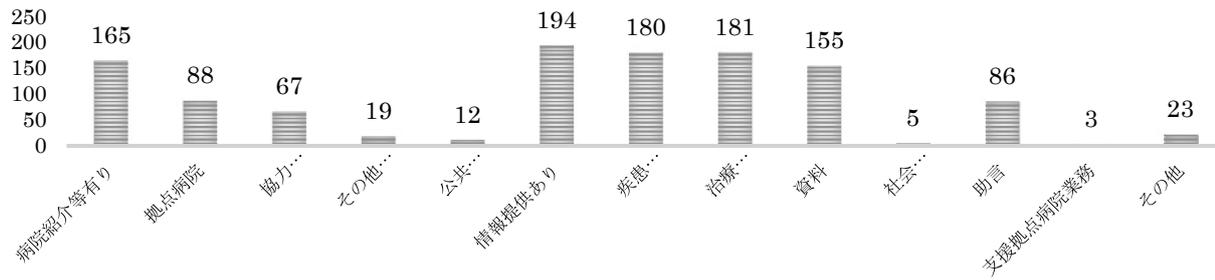
新規相談対象患者の年齢は、当事業開始から一貫して、0-20 代の若年層の割合が多い状況であった。内訳では、今年度も 10 歳以下の相談が 4 件（2.8%）寄せられ、0-10 代が 56 件（39.4%）、20 代が 27 件（19.0%）で合わせて 10~20 代の割合が 83 件（58.5%）と、新規相談件数の 6 割が若年層であった。また、摂食障害で長年悩む 40-60 代から 21 件（14.7%）の相談が寄せられた。相談対象患者の性別では、女性が 121 件（83.1%）の 8 割、男性が 17 件（12.0%）の 1 割を占めていた。

相談内容（延べ件数）



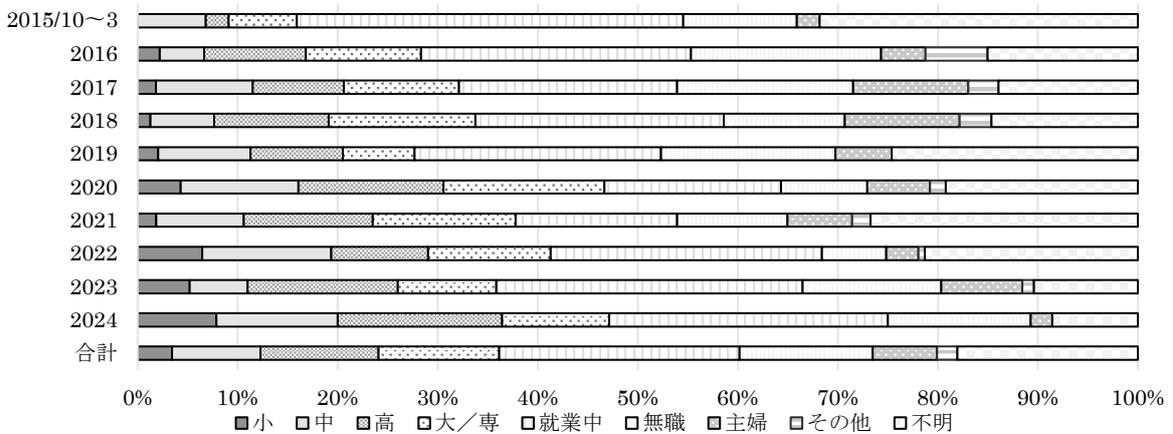
摂食障害についての相談内容は疾患や受診についての相談が多い。

対応内容（延べ件数）



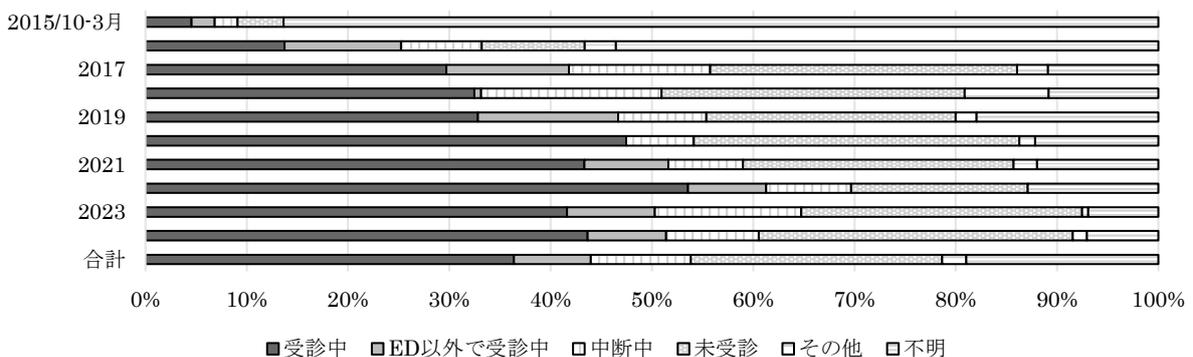
対応内容では、医療機関の紹介、疾患知識や治療受診について情報提供をおこなった。

新規相談対象患者属性（経年推移）



学生の割合のなかでも、小学生の割合が2022-2024年度にかけて増加傾向である。

受診状況の経年推移



受診中もしくは未受診での相談が多く、専門の医療機関での受診希望や治療内容についての相談が寄せられた。

対象集計期間: R6.4-R7.3
 支援拠点病院名: 宮城県摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
142	253

居住地域（新規件数）n= 142

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほつとライン	計
110	24	8	0	142

相談者の患者との関係（新規件数）n= 142

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
60	9	46	3	4	7	3	1	7	2	142

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 142 平均年齢: 26.1 SD= 13.1 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
4	52	27	22	9	11	1	0	15	1	0	142

相談対象患者の性別（新規件数）n= 142

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
121	17	0	4	0	142

相談対象患者状態（新規件数）n= 142

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
72	84	74	52	5	2	15	1	2	89	0	1	7	0

相談対象患者属性（新規件数）n= 142

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
11	17	23	15	39	20	3	0	12	2	142

摂食障害での受診状況（新規件数）142

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
61	1	13	44	11	2	10	142

相談経路（延べ件数）n= 253

電話	メール	面談	その他	計
156	97	0	0	253

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
5	0

#REF!

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 142

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
116	4	1	6	2	0	0	0	0	3	0	10	142

相談内容（延べ件数）n= 253

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
139	64	57	7	31	172	4	2	4

対応内容（延べ件数）n= 253

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
165	88	67	19	12	194	180	181	155	5	86	3	23

家族支援

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R7.1.25	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	55	「摂食障害-回復者の声-」 講師：摂食障害回復者の皆様 (一般社団法人日本摂食障害協会 個人 サポーター)	Web
R7.3.13	摂食障害患者の家族	13	摂食障害の家族教室 「摂食障害のこと 最新版」 講師：東北大学病院心療内科講師 佐藤 康弘 「家族にできるサポート」 講師：帝京大学文学部心理学科 准教授 小原 千郷	Web

5.治療支援

治療体制・計画

治療体制は、医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、地域医療連携室等による多職種連携にて対応。拠点病院への相談や、医療機関からの相談による受診について対応。
相談対象患者、患者の状況や状態によって、連携医療機関と連携構築。
院内に摂食障害治療支援センター運営委員会を設置し、運営委員が所属する専門領域における摂食障害診療の望ましい運用とコンサルテーションに対応する。

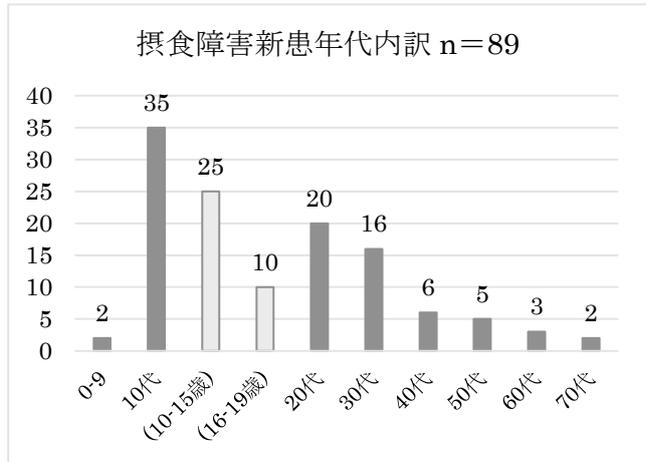
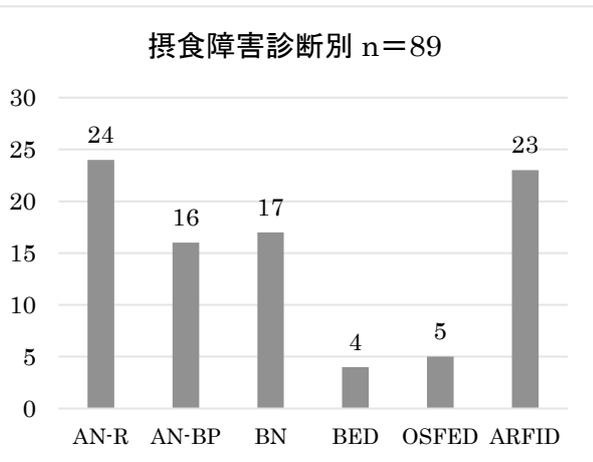
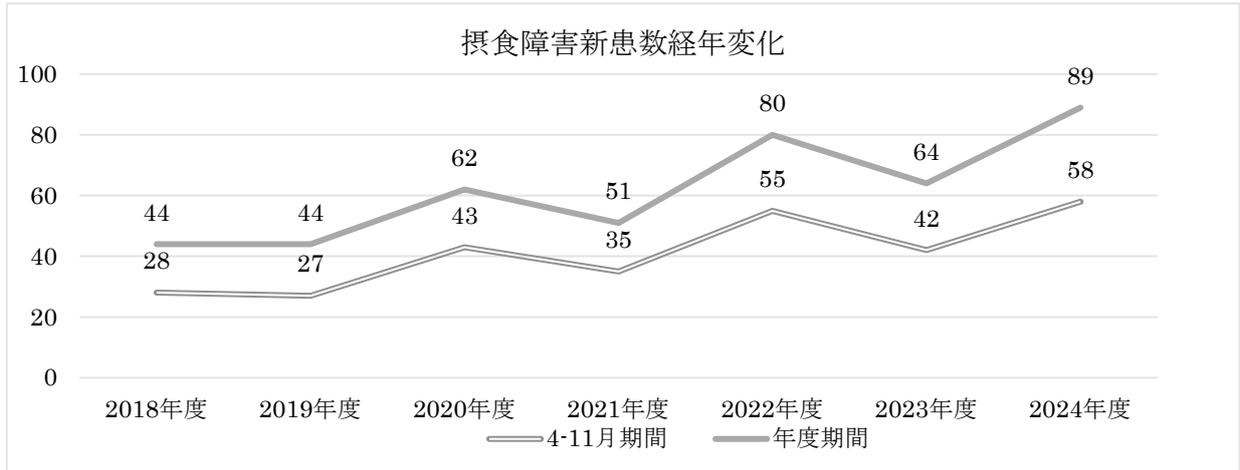
治療支援実施結果

摂食障害治療にあたって、主に精神科、救急科等と診療連携に努めた。低年齢層の治療支援においては、小児科と協力し、小児の治療環境調整として小児科病棟での入院治療をおこなった。

支援拠点病院設置病院 初診患者数 (R6 年度) 89 人 内、拠点病院経由での受診 33 人
(心療内科 76 人、精神科 12 人、小児科 1 人)

初診患者数	89 人	性別	女性	84 人	男性	5 人		
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	2 人	35 人	20 人	16 人	6 人	5 人	3 人	2 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	24 人	16 人	17 人	4 人	5 人	23 人		
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	64 人	4 人	20 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	5 人	10 人	29 人	10 人	7 人	4 人	18 人	6 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	69	3	4	13				

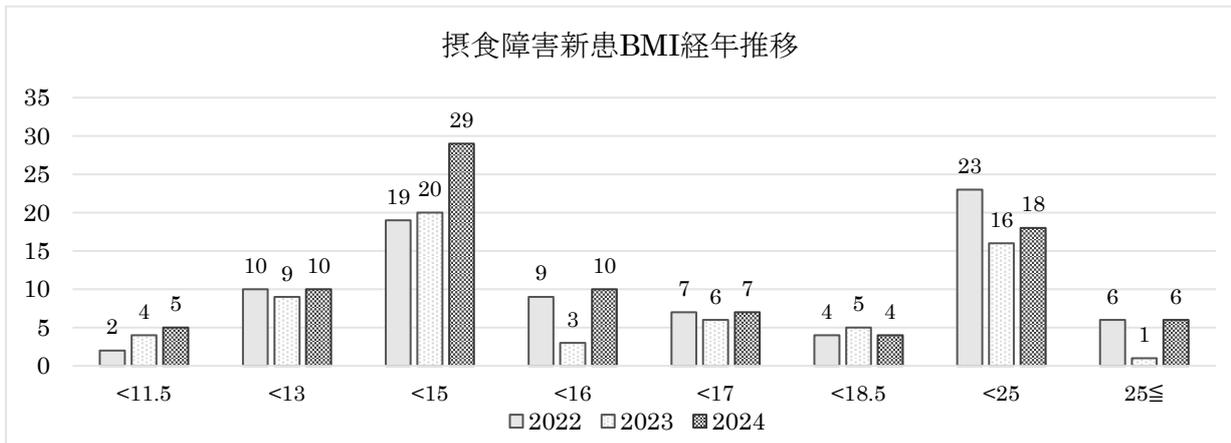
令和6年度に東北大学病院を受診した摂食障害の新規外来患者数は89名と昨年度より増加していた。



摂食障害の内訳は、神経性やせ症患者(AN)が40名(44.9%)で5割近くを占め、うち制限型(AN-R)24名(27.0%)、過食排出型(AN-BP)が16名(18%)。神経性過食症患者(BN)は17名(19.1%)、過食性障害患者(BED)4名(4.5%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者は23名(25.8%)、他の特定される食行動障害または摂食障害(OSFED)が5名(5.6%)であった。回避制限性食物摂取症(ARFID)患者が今年度も3割近くを占めていた。

摂食障害の新患を年代別にみると、0-9歳が2名(2.2%)、10代が35名(39.3%)、20代が20名(22.5%)で合わせて57名(64.0%)と、若年層(0~20代)が6割を超え、40-70代が2割を占めていた。

また、摂食障害0~20代の新患57名のうち、6割が拠点病院経由での受診33名(57.9%)であった。



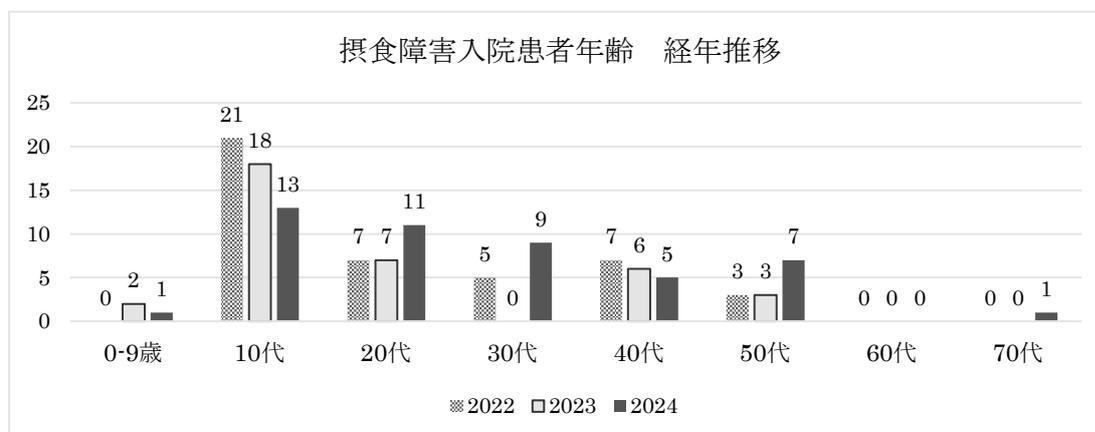
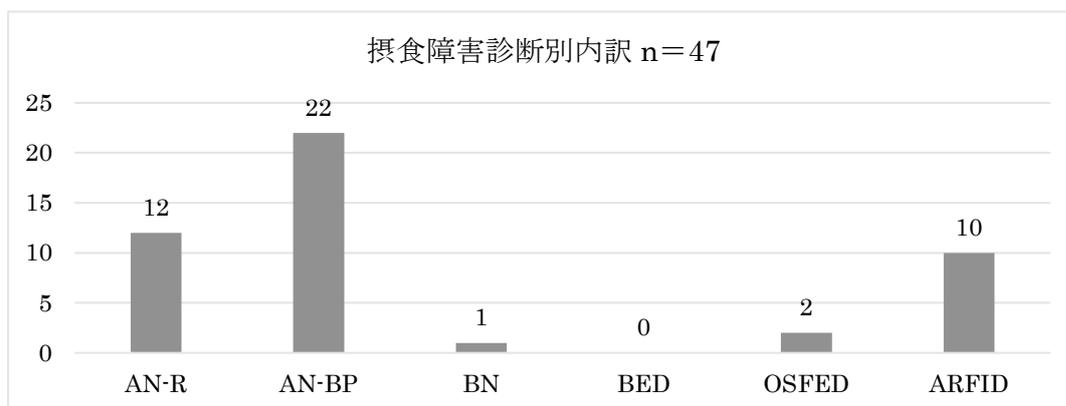
BMI15未満の群と、BMI25未満の群の割合がそれぞれ3割程度を占めている。

支援拠点病院設置病院 入院患者数 47人 (R6年度)

(心療内科 30人、精神科 16人、小児科 1人)

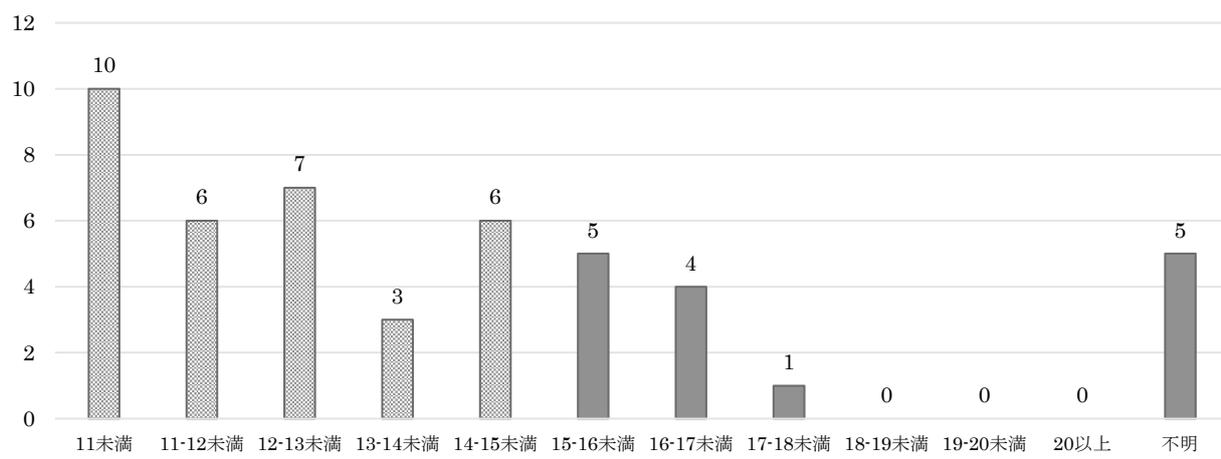
入院患者性別	女性	44人	男性	3人				
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
	1人	13人	11人	9人	5人	7人	0人	1人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	12人	22人	1人	0人	2人	10人		
BMI	11未満	11-12未満	12-13未満	13-14未満	14-15未満	15-16未満	16-17未満	17-18未満
	10人	6人	7人	3人	6人	5人	4人	1人
	18-19未満	19-20未満	20以上	不明				
	0人	0人	0人	5人				

東北大学病院の令和6年4月から令和7年3月の間における摂食障害入院患者数は47名であった。神経性やせ症(AN)患者が34名(72.3%)、うち制限型(AN-R)12名(25.5%)、過食排出型(AN-BP)22名(46.8%)、神経性過食症患者(BN)は1名(2.1%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者10名(21.3%)、他の特定される食行動障害または摂食障害(OSFED)が2名(4.3%)となっていた。入院患者において、ARFIDの割合が昨年度(4名)より増えていた。



年代別にみると、0-9歳が1名(2.1%)、10代が13名(27.7%)、20代が11名(23.4%)合わせて0-20代の若年層が25名(53.2%)と摂食障害の入院患者において半数を占め、40代以降の入院は13名(27.6%)と3割近くを占めており、2022-2024年度の経年推移においても同様の割合である。

入院患者BMI内訳 n=47



入院患者において、BMI11未満が10名(21.3%)と2割をこえ、BMI11-15未満を合わせてみると32名(68.1%)で、最重症と診断される患者の割合が7割を占めている。

6.研修

研修体制・計画

院内職員（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士、心理士ほか）ならびに関連機関において研修会をおこなう。院内および病院同士の連携を深めていくため、拠点病院職員が講義を行い、摂食障害の知識や連携を深める。

研修実施結果

昨年度から開始した院内 Web 連携ミーティングを定期的に継続し、低年齢の患者が増加していることから院内小児科、リハビリテーションについては、リハビリテーション科との連携ミーティングを開催する。講義を通して、関係機関や多職種連携、摂食障害へのサポート体制構築に努めた。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法
R6/7/1	院内精神科、心療内科 職員	21	第12回摂食障害合同症例検討会	Web
R6/8/29	院内心療内科・小児科 看護師	20	摂食障害の基礎知識と治療・看護	対面
R6/10/31	コーディネーター		摂食障害治療支援コーディネーター研修会	Web
R6/11/6	院内小児科、心療内科 職員	7	小児摂食障害患者の治療連携ミーティング	対面
R6/11/11	院内精神科、心療内科 職員	15	第13回摂食障害合同症例検討会	Web
R7/1/31	院内リハビリテーション科、心療内科職員	7	味覚リハビリテーションミーティング	対面
R7/3/3	院内精神科、心療内科職員	15	第14回摂食障害合同症例検討会	Web

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

一般の人々に摂食障害の病態・治療および早期治療の重要性に関する知識を浸透させるため、摂食障害治療についての市民公開講座を開催する。さらに、令和7年3月には摂食障害治療の専門家を招き家族教室を開催する。また、拠点病院のホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連するイベント情報や医療従事者に対する研修会の案内などを掲載し普及啓発を行う。

普及啓発活動実施結果

令和7年1月に摂食障害治療についてオンライン市民公開講座を開催し、摂食障害の理解について啓蒙した。摂食障害の回復者による講演であることから反響は大きく、多くの事前申込みがあり、摂食障害への高い関心がうかがえた。これまでの市民公開講座のアンケートに寄せられていた、「家族や周りからの対応や接し方について聞きたい」等のご意見が多かったこともあり、今回は、回復者の声として、摂食障害当事者に回復までの過程について講演いただいた。事前に募集した聴講者からの「周りからのこういった言葉や対応が嬉しかったか、してほしいこと、してほしくなかったこと」等の現実的な課題や対応について回答いただいた。

そして、引き続き患者をサポートする家族支援の一つとして継続している家族教室を令和7年3月に摂食障害治療の専門家を招き開催する。現在、家族が関わり方で困っていること、悩んでいることに、参加家族、講師が話し合い、アドバイスしあった。また、拠点病院ホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連する情報の案内などを掲載し普及啓発を行った。

講演会

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R7/1/25	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	55	第11回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座「摂食障害-回復者の声-」 講師：摂食障害回復者の皆様（一般社団法人日本摂食障害協会サポーター）	Web
R7/3/13	摂食障害患者の家族	13	摂食障害の家族教室 「摂食障害のこと 最新版」 講師：東北大学病院心療内科 講師 佐藤 康弘 「家族にできるサポート」 講師：帝京大学文学部心理学科 准教授 小原千郷	Web

メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
R7/7/12	河北新報朝刊	「気になる症状すっきり診断 東北大病院専門ドクターに聞く」にて、「回避・制限性食物摂取症」記事掲載
R7/1/9 発刊日	河北ウィークリー せんだい	第11回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載
R7/ 1/10 発行日	河北新報朝刊	第11回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載

河北新報「気になる症状すっきり診断 東北大病院専門ドクターに聞く」「回避・制限性食物摂取症」



R7/1/9 発刊河北ウィークリーせんだい

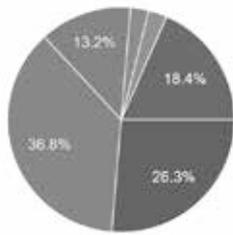
第 11 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座チラシ (宮城県内医療・行政・教育関連機関等へ配布)

R7/ 1/10 発刊 河北新報朝刊

第 11 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座アンケート

3.あなたは次のどれにあたるでしょうか。

38 件の回答

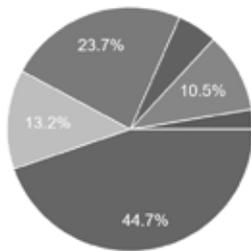


- 患者さん本人
- 患者さんの家族
- 患者さんの友人・知人
- 医師
- 看護師
- 心理師
- 管理栄養士
- 保健師

▲ 1/2 ▼

4.お住まいの地域を教えてください。

38 件の回答

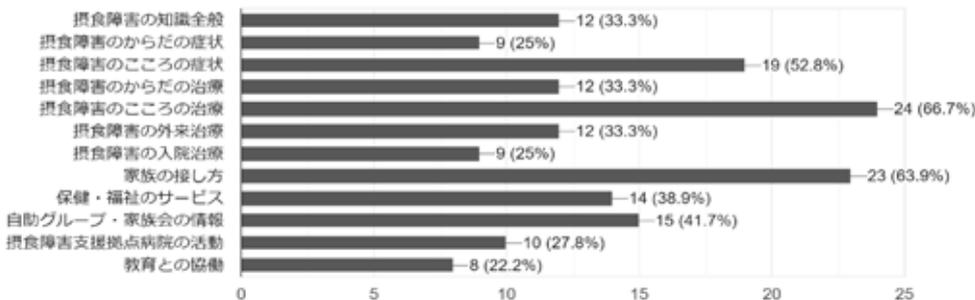


- 宮城県
- 北海道
- 宮城県以外の東北
- 関東・甲信越
- 中部
- 近畿
- 中国
- 四国

▲ 1/2 ▼

8.今後の市民公開講座で聞いてみたい内容を選んでください。(複数回答可)

36 件の回答



9.感想抜粋

・今回新聞を通して知った摂食障害支援での活動。私の周りでは誰もいないため、摂食障害の方がどのようにして克服されたのか気になって参加しました。この症状を多くの方にも知ってほしいと思いました。思い切って参加してみて良かったです。少しでも多くのかたに摂食障害で苦しんでいることや支援もあることを知ってもらいたいと感じました。

・4名の当事者の方の当時の気持ち、そして周りに求めたいことをお伝えいただき、感謝でいっぱいです。そして、何よりも説得ではなく、時間がかかることを知りました。また、いつ再発するかわからない病気と闘っていくには当事者だけで乗り越えるには、ハードルが高い。周りに誰か頼れる人、相談できる場所・人がいることを知ってほしいと思いました。

・回復者のお話しはこの先の希望になりました。zoomでの開催により講座に参加することができました。貴重なお話しが聞け、心が明るくなりました。ありがとうございました。

・当事者の気持ちや、治療されている先生方のお話しが聞けてとてもよい講座でした。完璧に治ることを目標にしなくても良いのだと、なんとなくはそうだと思っていましたがあらためてそれでよいのだとたくさんの方の話から理解することができ良かったです。家族でコミュニケーションをとりながら、子供を認めて信じてまると受け入れてあげることを大切にしていきたいと思いました。

2024 年度 宮城県摂食障害支援拠点病院家族教室アンケート

3.あなたは次のどれにあたるでしょうか。

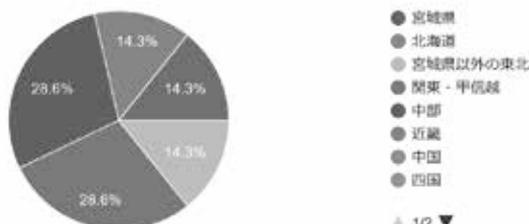
7件の回答



- 父親
- 母親
- 配偶者
- 兄弟姉妹
- 祖父母
- 子ども
- 親戚
- その他

4.お住まいの地域を教えてください。

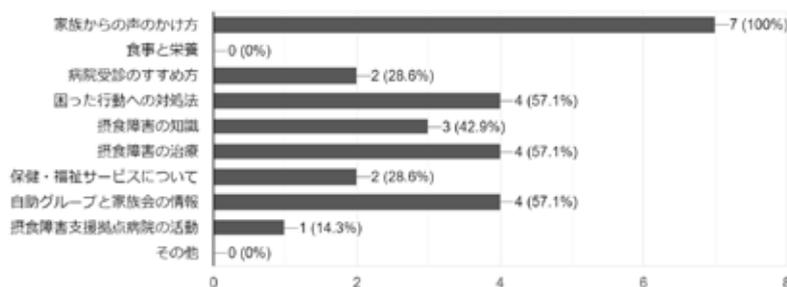
7件の回答



- 宮城県
- 北海道
- 宮城県以外の東北
- 関東・甲信越
- 中部
- 近畿
- 中国
- 四国

8.今後の家族教室で聞いてみたい内容を選んでください。

7件の回答



9.感想抜粋

- ・先生のお話も、他の方のご家族の体験等も、とても参考になりました、今後また機会があれば参加したいと思います、ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。大変参考になりました。〇〇に住んでおり、拠点病院も近くにはなく、自助グループ・家族会につながることも難しい状況です。こうしたお話を伺える貴重な機会に感謝です。ありがとうございました。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年度毎に2回、宮城県摂食障害対策推進協議会をおこなう。

研修実施結果

令和6年5月に、令和6年度第1回の協議会を開催し、令和5年度の事業報告および令和6年度の摂食障害に関する治療支援また連携について討議する。令和7年1月に第2回を開催する。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R6/5/27	協議会委員	13	令和5年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告、令和6年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について確認	Webミーティング

R7/1/27	協議会委員	14	令和 6 年度摂食障害支援拠点病院 設置運営事業の活動報告	Webミーティング
---------	-------	----	----------------------------------	-----------

9. その他の活動

実施体制・計画

ホームページを更新する。また、フェイスブックにて、摂食障害についての情報を随時発信する。

実施結果

随時、ホームページおよびフェイスブック、[Twitter](#)にて、摂食障害に関する情報を発信している。

- ・Facebook いいね！ 342 件 (令和 7 年 3 月 31 日現在)
- ・宮城県摂食障害支援拠点病院ホームページ アクセスカウンター66960 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

宮城県摂食障害支援拠点病院ホームページ Google 検索パフォーマンス (2024/4/1-2025/3/31)



上位のクエリ	クリック数	表示回数
摂食障害 仙台	32	418
拒食症 一日の食事量	22	822
摂食障害 病院	22	210
拒食症 どこから	17	5,506
拒食症 食事メニュー	15	951
摂食障害 どこから	14	877
摂食障害支援拠点病院	13	298
拒食症 食事 1 日	10	606
拒食症 食事量	8	784
拒食症 食事内容	6	471

10. 考察

- ・相談、治療支援において、低年齢層 15 歳以下の患者の割合は今年度も一定数みられ、入院治療とまでならなくとも、外来治療にて継続支援しているケースも多い。
- ・低年齢層の患者にあった治療環境調整など小児科との連携を含め、引き続き、拠点病院内での診療の協力体制、県内医療機関との連携・治療協力が不可欠である。

4. 栃木県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

栃木県摂食障害支援拠点病院

Tochigi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	栃木県摂食障害支援拠点病院
設置施設	獨協医科大学病院 精神神経科
郵便番号	321-0293
所在地	栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880
電話番号	0282-86-1111(代表) 0282-87-2281(直通)

栃木県摂食障害支援拠点病院 <https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/edsupport/>



栃木県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	職名
古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座	主任教授・診療部長
白石 秀明	獨協医科大学医 小児科学講座	主任教授
加納 優治	獨協医科大学医 小児科学講座	講師
佐藤 由英	獨協医科大学精神神経医学講座	助教・外来医長
赤井 昌子	獨協医科大学病院 看護部	精神科病棟師長
小鷲 明美	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
竹澤 恵美子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
田崎 香澄	獨協医科大学精神神経医学講座	摂食障害治療支援コーディネーター/看護師

2. 要旨

令和6年4月1日より、獨協医科大学病院が栃木県摂食障害支援拠点病院として運営を開始しました。令和7年3月には協議会を開催し、多職種の見解を反映して県内の摂食障害治療の現状を把握し、効果的な治療支援を計画、連携します。また、協議会では治療支援や連携について討議し、事業計画を策定しています。

相談支援では 摂食障害患者とその家族に対し、適切な相談窓口を設置し、初期対応や専門機関への案内を行えるよう準備を進めています。地域の医療機関との連携を強化し、支援体制の整備を進めていますが、栃木県内の紹介可能な医療機関が限られており、医療機関の拡大と柔軟な対応が課題です。今後も、これらの課題に対応し、支援体制の強化を進めていきます。

治療支援では 多職種連携を基盤とした体制を整備し、患者に合わせた支援を提供しています。医師の教育や行政・学校との連携を進め、質の高い治療を目指していますが、治療可能な医療機関の不足により患者の集中が課題となっています。今後は医療体制の拡充と支援の質向上に取り組んでいきます。

研修において 医療従事者、教育関係者、行政機関を対象に、摂食障害の基礎知識や対応方法を提供しました。

教育機関向け研修では拠点病院の紹介や事前質問への回答を実施し、83名が参加しました。アンケートでは生徒支援に関する相談や事前資料配布の要望があり、今後の改善点としています。次年度は継続実施や児童精神科医師の講演を計画し、地域全体の支援体制強化を目指します。

啓発普及活動では ホームページとリーフレットを通じて、摂食障害に関する情報や支援体制を広く発信することを目指しています。今年度は作成が遅れたものの、研修アンケートからホームページ活用への期待が示されました。今後は内容を充実させ、定期的な更新を行い、地域のニーズに応じた有益な情報提供を進めていきます。

行政とは、摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

その他の活動 栃木県こどもこころの研究会にて栃木県摂食障害拠点病院について周知、摂食障害に関する情報交換・情報共有を行いました。

考察 摂食障害支援拠点病院として、多職種連携や普及啓発活動を通じ、地域全体での支援体制強化を目指しています。研修や情報発信を通じて、医療・教育・行政機関との連携を深め、患者支援の質向上に取り組んでいます。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

栃木県摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授／診療部長	摂食障害治療を行っている 医師(大学病院)
委員	柳橋 達彦	自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 子どもの心の診療科 教授	・精神科 ・児童精神科
同上	加納 優治	獨協医科大学医学部 小児科学講師	・小児科
同上	石川 うた	医療法人大香会 みやの杜つむぎクリニック院長	医師(地域精神科)
同上			当事者
同上			患者家族
同上	角田 正史	栃木県教育委員会事務局健康体育課	栃木県教育委員会
同上	島田 達洋	栃木県精神保健福祉センター所長	栃木県保健福祉部
同上	大原 智子	栃木県県東健康福祉センター所長	
同上	上野 治久	栃木県保健福祉部障害福祉課 課長	
同上	田崎 香澄	獨協医科大学精神神経医学講座	摂食障害治療支援コーディネーター

栃木県摂食障害対策推進協議会

令和6年度栃木県摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について	
開催日	令和7年3月6日
開催場所	栃木県県庁会議室
議題	栃木県摂食障害支援拠点病院設置事業について 令和6年度 摂食障害支援拠点病院事業報告について 令和7年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について

4. 相談支援

相談体制

今年度は、相談支援を行えるよう下準備を進めてまいりました。

● 相談窓口の整備

専用の相談窓口回線を設置し、院内での問い合わせ対応および行政経由での問い合わせにも応じる体制を構築していきます。

● 県内精神科へのアンケート実施

摂食障害の相談後に受診先の選択肢を増やす目的で、県内の精神科を標榜する 260 施設にアンケートを実施しました。

- 入院受け入れ可能施設: 17 施設
- 外来受け入れ可能施設: 41 施設
- BMI 条件別の受け入れ状況

◇BMI 18.5 以上: 12 施設. ◇BMI 12 以下: 4 施設

◇BMI 12-15: 10 施設 ◇BMI 15-18.5: 35 施設

この結果を受け、さらなる受診可能施設の拡充が必要であると認識しています。

● 連携体制の強化

行政機関、地域団体、医療機関との連携を強化し、相談内容に応じた適切な支援が提供できる仕組みを整備しています。

● 家族支援の実施

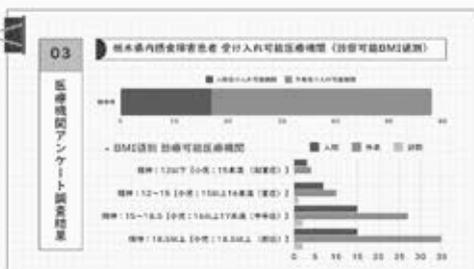
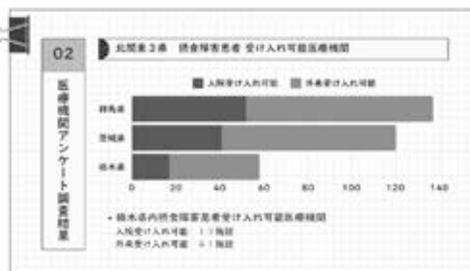
小児科では、家族全体を支える方針のもとで家族支援を実施しています。

● 院内連携の構築

相談窓口での問い合わせに適切に対応するため、院内での連携方法を策定しました。

● 広域・地域保健所との情報交換会の実施

広域・地域保健所との情報交換会を開催し、地域支援体制の現状や課題について意見交換を行いました。また、相談内容や事例を共有する仕組みを整備しつつあります。



相談支援結果

今年度は、行政から紹介されたケースや医療機関からの問い合わせに対応するとともに、家族会を院内で開催しました。これらの活動を通じて、相談内容に応じた支援を行い、地域の摂食障害患者やその家族への支援体制の充実を図りました。

今後の課題と対応

- 受診先不足の解消
受診先不足が引き続き課題となっているため、他県の取り組みを参考に、小児科や内科を対象としたアンケートを実施し、受診可能な医療機関の選択肢を増やす取り組みを進めます。
- 家族支援の強化
家族会を継続的に開催し、参加者のニーズに応じた内容の充実を図ることで、患者とその家族を包括的に支える体制を強化します。
- 地域全体での相談支援体制の拡充
医療機関や行政との連携をさらに推進し、相談内容に応じた迅速かつ適切な支援を提供できるよう、地域全体での支援体制を整備していきます。

栃木県摂食障害支援拠点病院 相談支援

相談件数：新規相談件数 8件、延べ相談件数 10件

相談手段：電話 10件

対象者の居住地域：県内 7名、県外 1名

相談者の関係：家族（1件）、医療機関（2件）行政機関（2件）、教育関係者（2件）

対象者の年齢：平均年齢 14.5 歳（10～19 歳：6 名、20 代：1 名）

対象者の性別：女性 8名

相談対象者の属性：小学生（2 名）、中学生（3 名）、その他（2 名）、不明 1 件

患者の摂食障害での受診状態：受診中（3 件）、入院中（1 件）、未受診（2 件）、中断中（2 件）

相談経路：「支援拠点病院を知ったきっかけ」は紹介（2 件）、「その他」（6 件）

相談内容（複数回答）：疾患相談 6 件、受診相談（8 件）、その他（1 件）

対応内容：助言（7 件）、支援拠点病院業務に関する案内（7 件）、情報提供（5 件）など

対象集計期間: R6.4-R7.3
 支援拠点病院名: 栃木県摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
8	10

居住地域（新規件数） n= 8

管轄都道府 県内	管轄都道府 県外	不明	ほっとライン	計
7	1	0	0	8

相談者の患者との関係（新規件数） n= 8

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
0	0	0	0	1	2	3	2	0	0	8

相談対象患者の年齢（新規件数） n= 8 平均年齢: 14.5 SD = 3.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8

相談対象患者の性別（新規件数） n= 8

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
8	0	0	0	0	8

相談対象患者状態（新規件数） n= 8

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
8	5	0	1	0	0	4	0	4	8	2	2	0	0

相談対象患者属性（新規件数） n= 8

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
2	4	0	0	0	0	0	1	1	0	8

摂食障害での受診状況（新規件数） 8

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
3	1	2	2	0	0	0	8

相談経路（延べ件数） n= 10

電話	メール	面談	その他	計
10	0	0	0	10

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 8

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	医療	機関 行政	教育	その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	8

相談内容（延べ件数） n= 10

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	又支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
6	0	4	1	5	8	0	1	0

対応内容（延べ件数） n= 10

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
0	7	1	2	0	0	1	4	0	0	7	1	0

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
0	0	0	0	0	0	0

5.治療支援

治療体制・計画

- 医師の教育・育成
精神神経科では、精神神経科全体の医師が摂食障害の診療を担当することで、知識の底上げや経験値を高める取り組みを行っています。これにより、摂食障害の患者を診ることができ、医師の教育・育成・支援を進めています。
- 多職種連携による治療体制
治療体制は、医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、地域医療連携室が連携する多職種体制で対応しています。また、他の医療機関からの受診相談にも応じ、包括的な支援を提供していただける体制を整えていきます。
- 行政機関との連携
相談対象患者やその状況・状態に応じて、行政機関との連携を構築しています。必要に応じて個別事例に関して学校に直接連絡を行うなど、患者を取り巻く環境全体を支援する体制を整えていきます。
- リエゾンコンサルテーションの体制整備
精神神経科内でのリエゾンコンサルテーションに対応できるよう、体制の構築を進めています。これにより、院内の他科や部署との連携が強化され、よりスムーズな診療支援が可能となります。

治療支援実施結果

令和6年度、獨協医科大学病院の摂食障害外来患者数は150名でした。
精神神経科・小児科・総合診療科での摂食障害入院患者は30名で、内訳は神経性やせ症制限型(AN-R)19名、過食排出型(AN-BP)4名、回避制限性食物摂取症(ARFID)6名でした。
治療は多職種連携を基盤に、教育や行政・学校との連携強化が必要で、支援体制の質向上に向けて引き続き取り組んでいきます。

栃木県摂食障害支援拠点病院設置病院

- 精神神経科・小児科・総合診療科総入院患者数:30名(男性1名、女性27名、その他2名)
- 年齢分布:10~19歳が最多(17名)、次いで20~29歳(6名)
- 発症年齢:10~19歳(最多:19名)、0~9歳(2名)など
- 診断別:神経性やせ症制限型(ANR)19名、神経性やせ症過食・排出型(ANBP)4名、ARFID6名、OSFED1名
- 入院時の主な症状(複数回答):食事制限(25件)、過活動(7件)、過食(4件)、排出・嘔吐(5件)など
- 合併症(複数回答):不安症群(2件)、発達障害(4件)、精神遅滞(2件)など
- 入院理由(複数回答):身体的に重篤(25件)、家族の希望(15件)、心理教育目的(9件)など
- 入院時のBMI(全体):11未満(4名)、12~13未満(6名)、15~16未満(6名)など
- 入院への意欲:入院したくないと回答した者が多数(21名)
- 入院時目標達成:達成28名、未達成1名

小児科・精神科院内合同カンファレンス			
開催日	令和6年度（偶数月第一火曜日に開催）5/7・7/2・10/1・12/3・2/4		
参加者	精神神経科	主任教授 医局長 非常勤講師 摂食障害治療支援コーディネーター	古郡規雄 川俣安史 田中宏美 田崎香澄
	小児科	主任教授 学内准教授 病院准教授 講師 公認心理師	白石英明 今高城治 佐藤雄也 加納優治 植田静
	看護部	副部長 精神神経科病棟師長 小児科病棟師長 小児科病棟師長	吉田晃子 赤井昌子 小鷲明美 竹澤恵美子
	医療福祉相談部門	医療ソーシャルワーカー 主任	東野怜奈
開催場所	獨協医科大学病院内		

対象集計期間:

R6.4-R7.3

支援拠点病院

栃木県摂食障害支援拠点病院

入院件数

延べ入院件数
30

入院日数

1~30日	31~90日	91~180日	181~365日	366日以上	計
12	9	5	3	1	30

性別

男性	女性	その他	計
1	27	2	30

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	17	6	3	4	0	0	0	30

他施設からの紹介

はい(有り)								小計	いいえ(無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
8	2	1	2	9	1	2	25	5	30	

他施設への紹介

はい(有り)								小計	いいえ(無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
0	0	0	1	0	0	1	2	27	29	

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED	0	30
19	4	0	0	6	1	0	30

BMI (全体) 入院時

n= 30

11未満	11~12未満	12~13未満	13~14未満	14~15未満	15~16未満	16~17未満	17~18未満	18~19未満	19~20未満	20以上	不明	計
4	2	6	2	1	6	5	2	0	1	0	1	30

6.研修

研修体制・計画

摂食障害に関する研修では、医療従事者、教育関係者、行政機関を対象に、最新の知識と基礎的な対応方法を提供します。

- **医療従事者向け研修**
摂食障害の診療技術や治療法について、定期的に研修を開催し、医師や看護師の専門知識向上を目指します。
- **教育機関向け研修**
養護教諭や学校関係者を対象に、摂食障害の早期発見と対応方法を学び、ゲートキーパー的な役割を強化します。
- **行政機関向け研修**
行政関係者に対しては、地域支援体制や医療機関との連携方法に向けて意見交換会を行い支援の質向上を目指します。

研修を通じて、地域全体での摂食障害患者への対応力を高め、支援体制の強化を図る。

研修実施結果

研修内容

- テーマ：学校における摂食障害の児童支援について
- 内容：栃木県摂食障害拠点病院の紹介、摂食障害の基礎知識、事前質問への回答
- 講師：当院スタッフ、事前質問に対しては自治医科大学とちぎ子ども医療センター、子どもの心の診療科 柳橋教授からアドバイスをいただく
- 参加者数：83名
- 協力：県障害福祉課・県教育委員会がチラシ配布および事前アンケートの実施に協力

参加者アンケート結果

- 生徒に関する相談があったため、今後の支援に繋げるため連携を図る
- 事前資料の配布を希望する意見があり、次回は改善を検討

今後の展望

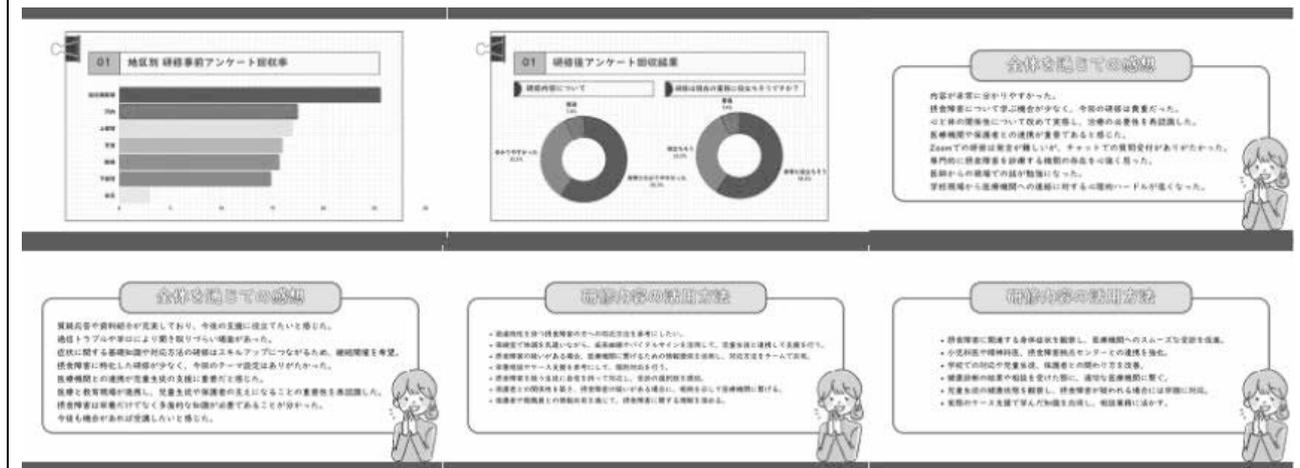
- 学校や行政向けの研修は次年度も継続実施予定
- 希望に応じ、平日の午後や夏休み期間に開催
- 院内からは「次年度は児童精神科医師にも講演をお願いしたい」という意見もあった。

チラシと、事前アンケートでの質問内容

The collage contains the following elements:

- チラシ (Flyer):** Announces the training on school support for eating disorders, held on December 27th at the Notohara Hospital. It includes contact information for the hospital and a QR code for the pre-survey.
- 事前アンケート結果 (15/100票) (Pre-survey Results):** Shows two donut charts. The first chart indicates that 100% of respondents are currently attending school, and 100% are currently receiving support. The second chart shows that 100% of respondents are currently receiving support from their school.
- 問合わせ先への案内 (Where to ask for help):** Lists the hospital and the Children's Mental Health Clinic as places to ask for help, with contact information.
- 児童支援への案内 (Support for children):** Lists various support services such as individual counseling, group therapy, and school support.
- 摂食障害の基礎知識 (Basic knowledge of eating disorders):** Explains that eating disorders are mental health conditions and can affect anyone, including children and adolescents.
- 治療法への案内 (Support for treatment):** Lists various treatment methods such as individual counseling, group therapy, and school support.
- 相談窓口 (Counseling window):** Lists the hospital and the Children's Mental Health Clinic as places to ask for help.

事前アンケート管轄別回収率、研修後アンケート結果



講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害の診かたー明日から始める摂食障害治療 エビデンスと臨床のコツー	
開催日	令和6年10月30日
対象者	医療従事者
講師	兵庫医科大学 精神神経科学 山田恒 講師
開催場所	会場参加・Web
参加人数	50名

学校における摂食障害の児童支援について	
開催日	令和6年12月21日
対象者	小中学校関係者(県教通知)、行政機関
講師	獨協医科大学 精神神経科 古郡 規雄 獨協医科大学 小児科学 加納 優治
開催場所	Web
参加人数	83名

摂食障害の基礎知識(精神神経科・小児科)	
開催日	令和7年1月～
対象者	院内職員
講師	獨協医科大学病院 小児科学 講師 加納優治 獨協医科大学病院 精神神経科 外来医長 佐藤由英
開催場所	Web公開

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

ホームページとリーフレットの作成

- ホームページとリーフレットを作成し、摂食障害に関する情報や支援体制、相談窓口などを広く提供します。
- ホームページは、最新の情報を随時更新し、地域住民や医療機関、教育機関への情報発信を強化します。

継続的な情報発信

- ホームページやリーフレットで提供する情報は、定期的に更新し、地域のニーズに応じた内容を提供します。
- 研修や普及啓発活動を通じて得られたフィードバックをもとに、普及活動の内容を改善し、より効果的な支援ができる体制を整えていきます。

普及啓発活動実施結果

今年度、ホームページとリーフレットの作成が予定通り進まず、年内には完了しませんでした。研修アンケートでも、ホームページを活用して情報を得たいという意見が多く寄せられました。このフィードバックを受け、今後は内容を充実させたホームページの作成を進めていきます。ホームページ完成後は、定期的にデータや情報の更新を行い、地域の皆様に有益な情報を提供できるように取り組んでいきます。

研修会

学校における摂食障害の児童支援について	
開催日	令和6年12月21日
対象者	小中学校関係者、行政機関
講師	獨協医科大学 精神神経科 主任教授 古郡 規雄 獨協医科大学 小児科学 講師 加納 優治
開催場所	Web

メディア関係

摂食障害の治療充実へ、 獨協医大病院にセンター 栃木県が開設、関係機関とのネットワーク強化	
リンク	https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/885331
メディア媒体	下野新聞朝刊(栃木)
公表日	令和6年4月23日

論説 摂食障害治療支援 理解と受診機会の拡大へ	
メディア媒体	下野新聞朝刊(栃木)
公表日	令和6年7月26日
取材対応	古郡 規雄

摂食障害 獨協医大が支援	
メディア媒体	読売新聞朝刊地域(栃木)
公表日	R6年7月10日 発刊日
取材対応	古郡 規雄

獨協医科大・古郡教授に聞く	
メディア媒体	下野新聞電子版
公表日	R6年7月10日 発刊日
取材対応	古郡 規雄

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

栃木県摂食障害対策推進協議会をおこなう。
 広域・地域保健所と広域・地域相談業務における、摂食障害の事例や課題を共有する「意見交換会」を計画。
 研修を行う際、栃木県教育委員会・栃木県庁障害福祉課に協力を得る。

研修実施結果

令和6年度第1回目の協議会を開催
 令和7年1月24日に摂食障害相談における意見交換会を行ないました。
 引き続き、支援の充実を図るため、研修活動を継続してまいります。

連携会議等

摂食障害相談における意見交換会	
開催日	令和7年1月24日
対象者	広域・地域保健所担当者
栃木県拠点病院	精神神経科 主任教授 古郡 規雄 小児科学 講師 加納 優治 精神神経科 摂食障害治療支援コーディネーター 田崎 香澄
開催場所	Web
参加人数	8名

令和6年度栃木県摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について	
開催日	令和7年3月6日
対象	事務局
開催場所	栃木県県庁会議室
議題	栃木県摂食障害支援拠点病院設置事業について 令和6年度 摂食障害支援拠点病院事業報告について 令和7年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について

9. その他の活動

実施体制・計画

栃木県こどものこころの会に出席
(2ヶ月に1回開催、栃木県のこどもたちの児童精神や心理ケアについて考える研究会)
県内の医師や医療従事者と情報交換を行い、知識の向上を図ります。

実施結果

県内の摂食障害診療体制作りのためのアンケート調査の結果についての情報共有を行なった

内容

栃木県こどものこころ研究会	
開催日	2024年10月7日 2024年12月2日 2025年 2月3日
対象者	栃木県こどものこころ研究会メンバー
内容	こどものこころに関するディスカッション等 摂食障害患者の入院や外来診療体制についての話し合い
開催場所	Web

全国摂食障害拠点病院活動内容

第27回 日本摂食障害学会学術集会	
開催日	2024年9月7日
対象者	栃木県摂食障害支援拠点病院
講師	獨協医科大学 精神神経科 主任教授 古郡 規雄
開催場所	明治学院大学 白金キャンパス

10. 考察

栃木県摂食障害支援拠点病院として、獨協医科大学病院は多職種連携や普及啓発、研修を通じて支援体制の強化に取り組んでいます。以下に主な成果と課題を考察します。

1. 多職種連携の現状

治療支援体制は進展しているものの、医療機関の不足や患者集中が課題です。行政や教育機関との連携を深め、早期発見と予防的支援を強化する必要があります。

2. 研修活動の成果

研修では基礎知識や実践的な対応方法を提供し、好意的な評価を得ました。一方で、事前資料の配布や講師の多様化など改善点が見られます。次年度は柔軟な開催形式でより参加者ニーズに応える研修を目指します。

3. 普及啓発の課題

ホームページやリーフレットの完成が遅れ、情報発信が不十分です。アンケートでの意見を反映し、地域ニーズに応じた有益な情報提供を早急に進める必要があります。

4. 地域連携の強化

研修や普及活動により学校、行政、医療機関の連携基盤が形成されつつあります。児童精神科医師など専門家を活用し、支援体制をさらに強化することが重要です。

5. 展望

次年度以降も活動を拡充し、地域全体で摂食障害支援の質を向上させる取り組みを継続することが求められます。

5. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

令和6年度(2024年4月～2025年3月)

精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置事業報告書

1. 基本情報

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

センター名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
千葉県摂食障害支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	272-8516	千葉県市川市国府台1-7-1	047-372-3501 (代)

URL: 千葉県摂食障害支援拠点病院

<http://www.ncgmkohndai.go.jp/sessyoku/index.html>

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
長谷川 遥奈	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
鈴木 菜由	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
西田 拓生	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
池田 萌里	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	レジデント
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	心理療法士
池田 知恵子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
前川 知香	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
池田 知寿子	看護師, 公認心理師
前川 知香	看護師, 公認心理師

2. 要旨

今年度は、コーディネーター2名(非常勤)、事務助手1名(非常勤:兼任)の体制で、週2回の相談業務を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、相談業務は対面式ではなくメールや電話で行った。千葉県摂食障害対策推進連絡協議会はWebで開催した。

今年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の相談件数は、新規280件、延べ358件(延べ件数において、電話相談185件、メール相談173件、面談0件)であり、月の平均相談数は29.3件であった。月の平均件数は、昨年度の36.4件より減少している。相談内容は受診先と対応相談が中心であった。

相談者の割合について、本人からの相談が124件(44.3%)と一番多く、次いで母(86件、30.7%)、父(19件、6.8%)であった。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が74件(34.7%)と最も多く、次いで20-29歳の54件(25.3%)、40-49歳の30件(14.1%)と続いている。(不明者除く割合。)相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は95件(33.9%)、中断中は29件(10.4%)、未受診は55件(19.6%)、摂食障害以外で受診中は27件(9.6%)、その他5件(1.8%)、受診状況不明は95件(24.6%)であった。相談者の基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度94%、2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%、2023年度は35%、2024年度は40.6%であった。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	河合 啓介	国府台病院心療内科診療科長、千葉県摂食障害支援拠点病院長	医療
副委員長	菊池 周一	袖ヶ浦さつき台病院長	医療
委員	安藤 咲穂	千葉県こども病院精神科部長	医療
同	中里 道子	千葉大学大学院医学研究院特任教授、国際医療福祉大学医学部精神医学主任教授	医療
同	鈴木 高男	摂食障害家族の会ポコ・ア・ポコ会長	家族
同	Aさん	患者本人	当事者
同	松浦 枝里	千葉県教育庁教育振興部保健体育課保健班 指導主事	教育
同	萬谷 良子	千葉県印旛健康福祉センター 地域保健課長	行政
同	石川 真紀	千葉県精神保健福祉センター 技監兼次長	行政

	氏名	所属・職名	区分
同	岡東 歩美	千葉県精神保健福祉センター 主幹兼臨床検査課長	行政
同	松浦 望	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課精神保健福祉推進班 班長	行政
同	酒井 裕美	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課長精神保健福祉推進班 主査	行政
同	田村 奈穂	国府台病院心療内科心療内科医師、千葉県摂食障害支援拠点病院	医療
同	山本 ゆりえ	国府台病院薬剤師、千葉県摂食障害支援拠点病院	医療
同	池田 知寿子	千葉県摂食障害支援拠点病院コーディネーター	医療

摂食障害対策推進協議会等会議

	開催日	議 題
第1回 千葉県摂食障害対策推進協議会	6月5日	令和6年度の千葉県摂食障害対策の実施計画について等
第2回 千葉県摂食障害対策推進協議会	12月15日	次年度の千葉県摂食障害研究会のあり方・内容について

4. 相談支援

相談体制

本年度は、保健師・看護師・公認心理師等の資格を持つコーディネーター2名で週2日の相談業務を行った。

相談支援結果

今年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の相談総数は、新規280件、延べ358件(延べ件数において、電話相談185件、メール相談173件、面談0件)であり、月の平均相談数29.8件であった。大部分は新規相談(280件、78.2%)であった。月の平均件数は、昨年度の36.4件より減少した。(以下、全て新規相談件数による。)

相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は95件(33.9%)、中断中は29件(10.4%)、未受診は55件(19.6%)、摂食障害以外で受診中は27件(9.6%)、その他5件(1.8%)、受診状況不明は69件(24.6%)であった。昨年度に比べて受診中患者の相談数の割合が少ない。相談内容は受診先の問い合わせ(受診相談)が229件と昨年同様に最も多く、対応相談が74件で二番目に多かった。相談者は本人からの相談が124件(44.3%)と一番多く、次いで母(86件、30.7%)、父(19件、6.8%)であった。本人と母親の両方で75%を占めていた。今年度は県内の相談者が158件(77.5%)、県外からの相談者は46件(22.5%)であった(居住地域不明を除く)。昨年は72%が千葉県内の相談であった。千葉県摂食障害支援拠点病院では首都圏からの相談が多数あるが、今後も60%以上は千葉県内の相談を目指して活動していきたい。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が74件(34.7%)と最も多く、次いで20-29歳の54件(25.3%)、40-49歳の30件(14.1%)と続いている。(不明者除く。)

病院紹介を行った相談において、基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度は94%であったのが2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%、2023年度は35%、2024年40.6%であった。

対象集計期間: R6.4-R7.3
 支援拠点病院名: 千葉県立食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
280	358

居住地域 (新規件数) n= 280

首都圏圏外 在住	首都圏圏内 在住	不明	Missing	計
158	46	76	0	280

相談者の患者との関係 (新規件数) n= 280

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
124	19	86	8	9	4	5	5	8	12	280

相談対象患者の年齢 (新規件数) n= 280 平均年齢: 28.5 SD= 15.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
4	74	54	24	30	14	5	4	67	0	4	280

相談対象患者の性別 (新規件数) n= 280

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
206	30	0	44	0	280

相談対象患者状態 (新規件数) n= 280

アセ	食事制限	過食	顕出・代償行動					精神・行動症状				
			嘔吐	下痢	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動
115	88	105	72	16	8	15	2	4	56	6	9	6

相談対象患者属性 (新規件数) n= 280

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	加職	主婦/主夫				
10	20	42	28	42	26	11	4	95	2	280

摂食障害での受診状況 (新規件数) n= 280

受診中	入院中	中新中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
85	10	29	55	27	5	69	280

相談経路 (延べ件数) n= 358

電話	メール	面談	その他	計
185	173	0	0	358

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ (新規件数) n= 280

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ チラシ	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
150	8	2	6	7	0	0	0	1	2	1	103	280

相談内容 (延べ件数) n= 358

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		差し方	生命危機	受診拒否				
48	74	43	12	22	229	10	51	7

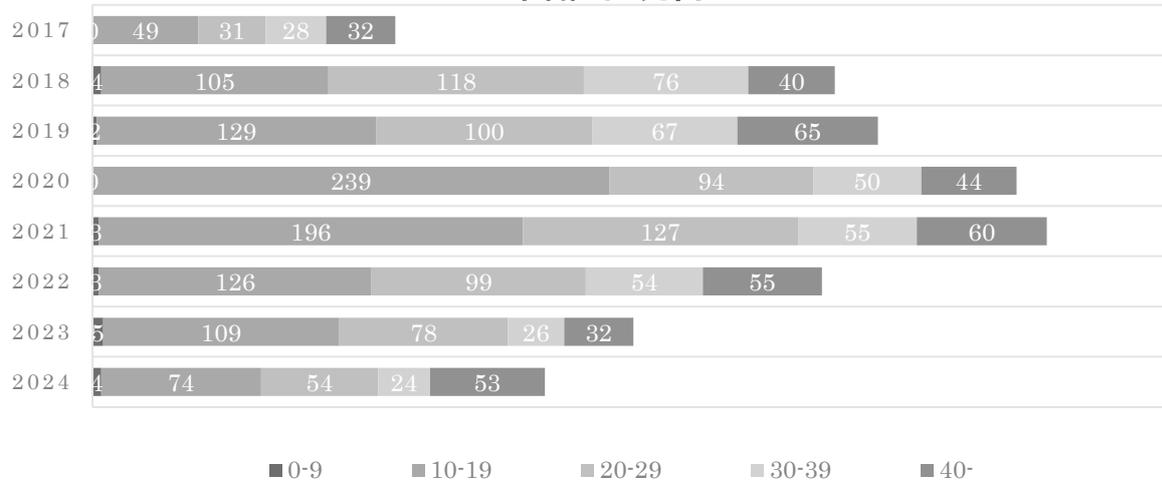
対応内容 (延べ件数) n= 358

有り	紹介先				情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関	有り	疾患 知識	治療 受診	資料				社会 資源
201	143	163	41	5	98	31	34	6	32	146	85	35

医療やシステムへの不満・課題 (複数回答)

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対応不足	嫌な体験	治療関係	システム
1	1	0	0	0	0	1

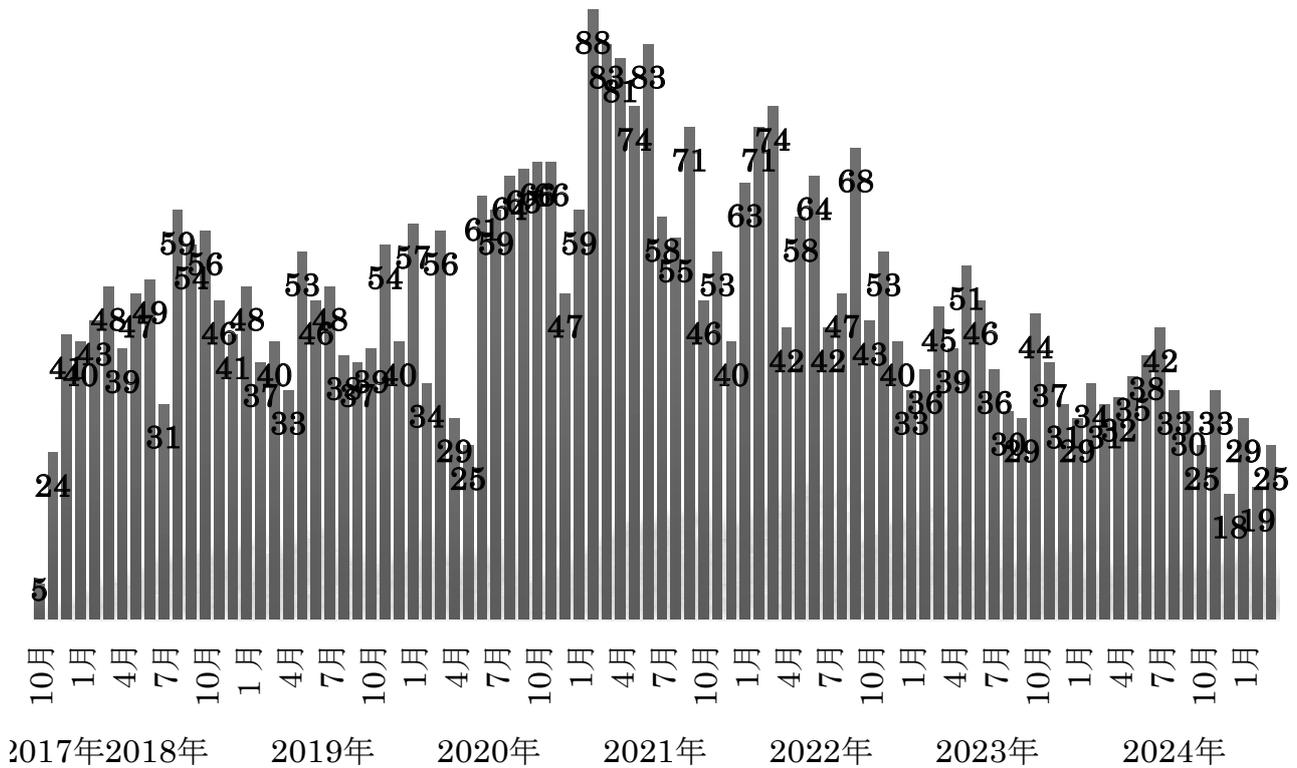
相談件数と年齢の内訳(経年推移) ※年齢不明除く



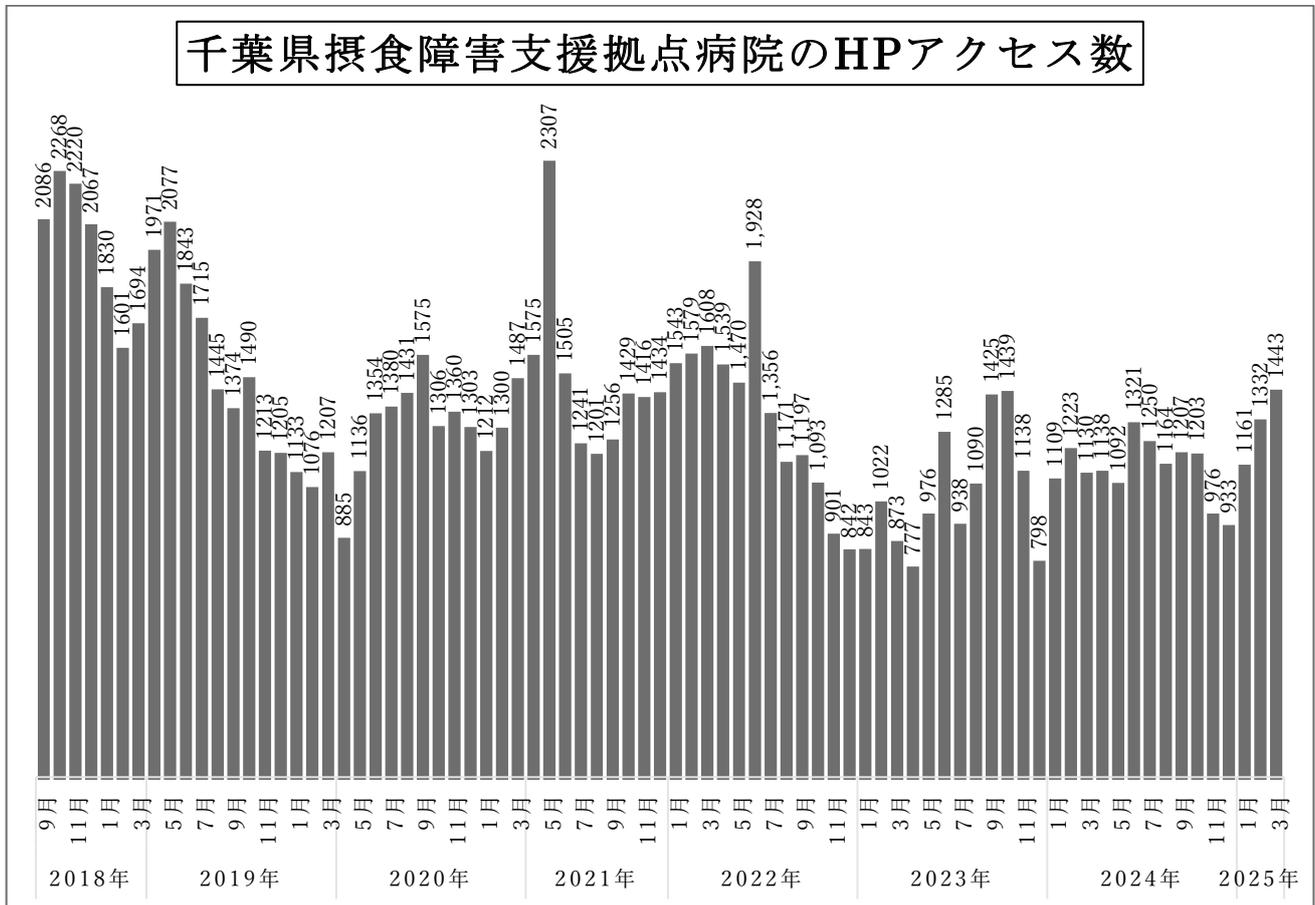
相談件数における年齢層の割合(年齢不明者除く)

	10代未満	10代	20代	30代	40代以上
2017年度	0%	36%	23%	22%	20%
2018年度	1%	31%	35%	22%	12%
2019年度	1%	36%	28%	18%	18%
2020年度	0%	56%	22%	12%	10%
2021年度	0%	44%	29%	12%	14%
2022年度	1%	60%	47%	26%	26%
2023年度	2%	43%	31%	10%	13%
2024年度	2%	35%	26%	12%	25%

センター開室からの月別相談件数の推移



千葉県摂食障害支援拠点病院のHPアクセス数



5.治療支援

治療体制・計画

基幹病院における2024年4月から2025年3月の新患摂食障害患者は173名であった。治療体制は心療内科医10名(常勤5名、非常勤5名)、非常勤心理療法士4名で治療を行っている。薬物療法の他に支持的面接を中心に各種心理療法(認知行動療法、芸術療法、箱庭療法、自律訓練法、マインドフルネスなど)を行っている。また個人療法に加えて、コラージュ、園芸療法、集団認知行動療法、集団マインドフルネス療法、集団ヨガ療法、心理教育プログラム「ひまわり」などを行っている。摂食障害に特化した治療として、Enhanced Cognitive behavioral Therapyを積極的に行っている。

治療支援実施結果

初診患者数は169人が女性、4人が男性であった。また、20代、10代の患者が多く、次いで、30代、40代の患者が多い傾向がみられ、支援拠点病院の相談ケースと類似した結果が得られた。国府台病院の摂食障害の外来患者数は、大きな変化を認めていない。

入院患者について、延入院件数は129症例であった。年度内に退院した症例内での入院日数は最も多かったのは30日未満であり、63例であった。続いて、31～90日が46例、91～180日が10例、181～365日が2例、366日以上症例はいなかった。129例のうち、126例が女性で、3例が男性であった。入院時年齢は最も多かったのは20代の41例で、続いて10代が39例、40代が20例、30代19例、50代5例、60代5例、70代は0、10歳未満も0であった。病型としては最も多かったのがANR57例、続いてANBP43例、BN12例、ARFID11例、OSFED6例であり、BEDやその他は0であった。

千葉県摂食障害治療支援拠点病院(国府台病院)

初診患者数(R6.4～R7.3) 173人

初診患者数	173人								
性別	女性	男性							
	169人	4人							
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	
	0人	53人	63人	23人	20人	10人	3人	1人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID			
	60人	57人	35人	5人	10人	6人			
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方						
	113人	8人	52人						
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤	不明
kg/m ²	9人	18人	41人	20人	19人	15人	43人	8人	0人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介					
	109人	37人	8人	19人					
治療期間	ヶ月	人	人	人					

入院患者数(R6.4~R7.3)

129人(年度内に退院しなかった方も含む)

対象集計期間:

R6.4-R7.3

支援拠点病院名:

千葉県摂食障害支援拠点病院

入院件数

延べ入院件数
129

入院日数

1~ 30日	31~ 90日	91~ 180日	181~ 365日	366日 以上	計
63	46	10	2	0	121

性別

男性	女性	その他	計
3	126	0	129

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	39	41	19	20	5	5	0	129

診断病型

神経性やせ症		神経性 過食症	むちゃ食い症	回避・制限性 食物 摂取症	その他 摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED		
57	43	12	0	11	6	0	129

6.研修

研修結果

これまで千葉県内を中心に、医療従事者、教師、養護教諭を対象として摂食障害に関する研修会を行ってきた。特に今年度は養護教諭を対象とした講演を依頼され、講演を行なった。

また、毎年千葉県精神保健福祉センターと共催という形で、千葉県の医療者を対象に、治療ネットワーク作りのための千葉県摂食障害研究会を年に1回、千葉県摂食障害小研究会を年に2~3回実施している。本研究会は現地開催とZOOMのハイブリット開催、小研究会はZOOMでの開催となっているが、世話人の医療者が徐々に増え、研究会を通して顔の見える・お互いの診療体制もわかる連携の場となっている。対象者を摂食障害治療初学者や他科(内科・救急科・小児科など)の医療者とするといった工夫を考慮している。

講習会,研修会,ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
2024/5/16	習志野市小中学校養護教諭	40人	摂食障害の病態と治療、関わり、予防について	習志野市
2024/5/28	千葉県の摂食障害治療に携わる者	10人	令和6年度第1回千葉県摂食障害小研究会（ポリヴェーガル理論について）	オンライン
2024/6/5	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	12名	令和6年度第1回千葉県摂食障害対策推進協議会	オンライン
2024/7/5	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	10人	令和6年度 第一回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン
2024/7/16	千葉県内養護教諭	不明	ちば県民保健予防財団サマーセミナー	オンライン (YouTube)
2024/7/22	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	15人	令和6年度 第1回全国摂食障害対策連絡協議会	オンライン
2024/7/25	都立松沢病院の摂食障害支援に携わる者	15人	国府台病院視察、摂食障害支援についてのミーティング	国府台病院
2024/8/3	摂食障害治療に携わる者	127名	摂食障害外来研修 症例提示	オンライン
2024/9/7	摂食障害治療に携わる者	-	神経性やせ症の Enhanced Cognitive Behaviour Therapy (CBT-E) 研修会	オンライン
2024/9/24	千葉県の摂食障害治療に携わる者	13名	令和6年度第2回千葉県摂食障害小研究会：初学者のための摂食障害治療について	オンライン
2024/11/24	摂食障害治療に携わる者	-	第11回 神経性過食症への認知行動療法 (CBT-E) 研修会	オンライン
2024/12/15	千葉県の摂食障害治療に携わる者	40人	千葉県摂食障害研究会	オンライン
2025/1/26	摂食障害治療に携わる者	120人	摂食障害外来研修 症例提示	オンライン
2025/3/4	千葉県の摂食障害治療に携わる者	15人	令和6年度第3回千葉県摂食障害小研究会	オンライン

ネットワーク作りのための千葉県摂食障害研究会・小研究会(2024年度)



7.普及啓発活動

普及啓発活動結果

千葉県摂食障害支援拠点病院では、千葉県障害者福祉課と連携をとり摂食障害患者とその家族、それに加えて一般県民にむけても普及啓発活動を行っている。2020年6月より、Facebook、Instagram、Xによる配信(下記)を開始している。

●当センターホームページとSNSに関するURL

ホームページ：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

閲覧回数(セッション数)：9068回(2023.4-2023.11)

Facebook @CPTSCED <https://www.facebook.com/CPTSCED/>

Instagram @chiba_sessyoku https://www.instagram.com/chiba_sessyoku/

X @edsupport_chiba https://twitter.com/edsupport_chiba

今年度も県民公開講座を開催し、およそ70人の県民が来場した。当事者・家族・教育・医療のそれぞれに携わる討論者での公開討論会を開催でき活発な議論がなされた。アンケートの結果でも概ね好評であった。

普及啓発活動実施結果

啓蒙活動として、今年度は、市川市からの依頼で食べ物を含む依存に関する講演を実施し、多くの参加者が得られた。

講演会

開催日	対象者	参加人数	講演内容	実施場所
2024/11/7	市川市民	—	市川市自治体会連合協議会 大会講演 2024 依存の裏に潜 む健康リスクーネットや食べ 物依存は私たちの心と体にど う作用するか	市川市
2025/2/23	千葉県民	70 人	県民公開講座 「摂食障害と不登校・引きこもりか らの回復」	千葉市

メディア関係

開催日(発行日,オンエア)	メディア	内容
2024/08/03	日本経済新聞	日本経済新聞「美を求めて、食べて吐いて・・・ 20 年 摂食障害の支援後手」

研究論文

1. Kawai K, Tachimori H, Yamamoto Y, Iwasaki S, Nakatani Y, Sekiguchi A, Kim Tamura N, Trends in the effect of COVID-19 on consultations for persons with clinical and subclinical eating disorders BioPsychoSocial Medicine (2023)17:29 <https://doi.org/10.1186/s13030-023-00285-2> DOI: 10.1186/s13030-023-00285-2
2. 山本ゆりえ, 田村奈穂, 立森久照, 岩崎心美, 河合啓介. 千葉県摂食障害支援拠点病院における相談内容の質的研究ー重症度解析からみえる患者や家族のニーズとはー, 心身医 vol 64 551-560, 2024
3. 小島夕佳,河合啓介. 摂食障害治療における心理職の役割 パネルディスカッション第 64 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会:心身関連の治療をチームで担う心理職を開拓する! 64: 539-544 2024
4. 河合啓介(訳) Hance-Christian Deter 第 63 回 日本心身医学会総会ならびに学術講演会 基調講演 心身症の新しい概念と医療システムにとってのその意義 New Concepts of Psychosomatic Disorders and Their Significance for Health Care System 心身医学 64(3): 207-224 2024
5. 河合啓介, リレー講演:心身医学のあり方に関するリレー講演会 心身医学の将来ードイツと米国の心身医学の発展から学ぶ, 心身医学 64(4): 327-333 2024
6. 河合啓介, 山本 ゆりえ. 身体合併症の治療と精神面の治療のバランスー摂食障害支援ネットワーク活動の目的とその内容ー 精神誌. 126 (3): 195-201, 2024 <https://doi.org/10.57369/pnj.24-032>

学会発表

1. K. Kawai, Symposium 14: Enhanced cognitive behavior therapy: current status and challenges, the 27th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine 2024, Germany, Sep 19th-21th
2. K. Kawai, Symposium 16: Oriental treatment methods used in Psychosomatic Medicine: Naikan Therapy for lifestyle-related diseases, the 27th World Congress of the International College of

Psychosomatic Medicine 2024, Germany, Sep 19th-21th

- 河合啓介, シンポジウム1「我が国における CBT-E の適用と実際」:CBT-E 実践上のポイントと課題, 第 65 回日本心身医学会総会並びに学術講演会, 東京, 2024, June 29th-30th
- 山本ゆりえ, 廣方美沙, 田村奈穂, 井野敬子, 関口敦, 金吉晴, 河合啓介, 摂食障害全国支援センター相談ほっとラインに関する活動報告～web アンケート調査第 1 報～, 第 65 回日本心身医学会総会並びに学術講演会, 東京, 2024, June 29th-30th
- 河合啓介, こころの傷つきからの回復と内観療法, 第 46 回日本内観学会千葉大会, 東京, July 6th-7th
- 山本ゆりえ, 摂食障害全国支援センター相談ほっとラインにおける SNS 活動報告, 第 27 回日本摂食障害学会学術集会, 東京, 2024, Sep 7th-8th
- 河合啓介, 摂食障害治療の現状と課題, 第 28 回日本心療内科学会総会・学術大会, 東京, 2024, Dec 7th-8th
- 山本ゆりえ, 田村奈穂, 河合啓介, 千葉県摂食障害支援拠点病院における相談事業報告～下剤乱用群におけるコロナ禍前後の相談内容比較～, 第 28 回日本心療内科学会総会・学術大会, 東京, 2024, Dec 7th-8th
- 長谷川遥奈, 酒匂赤人, 田村奈穂, 柳内秀勝, 河合啓介, レセプト情報に基づく認知行動療法の地域差, 第 28 回日本心療内科学会総会・学術大会, 東京, 2024, Dec 7th-8th
- 西田拓生, 田村奈穂, 鈴木茉由, 長谷川遥奈, 藤本和輝, 辰島啓太, 河合啓介, 神経性やせ症に合併する骨粗鬆症の3症例に対するロモソズマブの効果, 第 28 回日本心療内科学会総会・学術大会, 東京, 2024, Dec 7th-8th
- 西田拓生, 田村奈穂, 鈴木茉由, 長谷川遥奈, 河合啓介, 慢性腎不全急性増悪により緊急入院となり、腎不全の治療と栄養管理にて腎不全の改善と体重増加が得られた神経性やせ症の1例, 第 135 回日本心身医学会関東甲信越地方会, 東京, 2025, Jan 11th-12th

8.行政機関との連携

連携結果

千葉県障害者福祉課の担当職員との会議を実施できた。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
2024/5/2	千葉県精神保健センター、千葉県障害者福祉課の方々	6人	今年度の支援拠点病院の活動内容、摂食障害研究会内容について会議	支援拠点病院
2024/9/12	厚労省の方との会議	6人	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップについて会議	支援拠点病院

9.その他の活動

実施結果

特になし。

10.考察

全国相談窓口の開設、コロナ禍の収束傾向、東京都支援拠点病院の開設によってか、本年度の月の平均相談数 29.8 件であり、昨年度の 36.4 件より減少した。支援拠点病院(当初は支援センター)開設当初の病院紹介先は 94%が基幹病院であったが、その割合の減少が継続していた。基幹病院への紹介割合減少は今年度にはストップし割合が軽度増加し 40.6%であった。一方協力病院への紹介は増えており、基幹病院以外の摂食障害医療機関での治療が増えていくことを期待する。

<展望> 千葉県摂食障害研究会は、大小合わせて年 3~4 回開催され、定着してきており、ネットワーク作りに寄与しているものと考え。気軽に参加し、相談できる会にしたいと考えている。また、今後内科・小児科・救急科にも裾野を広げてさらなる治療ネットワークを作り上げていきたい。

<課題> 相談件数の減少が問題として考えているが、若い相談者のニーズに対応する形で、フォームに選択入力するような簡便な入力方法を採用し実施していく計画を立てている。また、これまでと同様、医療連携を推進する。一部の施設に偏らない形で連携先を増加させるモデル作成が摂食障害の臨床には必要である。施設の特徴に合わせて、初期治療、急性期の治療、身体的重症な患者の治療を取り扱う施設を分けるなどの工夫を目指す。

6. 東京都摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

東京都摂食障害支援拠点病院

Tokyo Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
東京都摂食障害 支援拠点病院	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立松沢病院	156-0057	東京都世田谷区上北沢 2-1-1	050-5536-6200

URL 東京都摂食障害支援拠点病院：<https://www.tmhp.jp/matsuzawa/sesshoku.html>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
鈴木 一恵	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 内科	医長
稲熊 徳也	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
久和 俊介	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
濱中 恵子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	係長
大場 直樹	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	師長
田伏 美穂	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	主事
加藤 陽子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院患者・地域サポートセンター	職員

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
濱中 恵子	公認心理師
田伏 美穂	看護師
大場 直樹	看護師
加藤 陽子	精神保健福祉士

2. 要旨

摂食障害対策推進協議会

摂食障害対策推進協議会を設置し、開催した。摂食障害支援拠点病院における事業計画の策定、事業の効果検証、課題の抽出、支援拠点病院への提言等を実施する。

相談支援

専用電話回線にて週3日相談窓口を開設し、コーディネーターが支援を実施している。令和6年7月～7年3月の月平均の相談件数は33件程度。20代以下の相談が約6割を占めている。

治療支援

令和6年7月～7年3月の患者は外来が82名、入院が214名であった。うち、20代が約4割、10代が約2割を占めている。

※外来：初診時に摂食障害の病名がつく患者、入院：主傷病に関わらず摂食障害の病名がある患者

研修

院内外の医療従事者・関係機関職員向けに摂食障害ミーティング（症例検討、講演会等）を毎月開催した。

普及啓発活動

摂食障害の病態や症状、摂食障害支援拠点病院の業務についてまとめたリーフレットを作成し、関係機関や病院等へ配付した。

加えて、摂食障害支援拠点病院事業の専用ホームページを作成して情報発信した。

行政

東京都、精神保健福祉センター・保健所の職員が摂食障害対策推進協議会の委員の役割を担った。

考察

- ・子育て世代は、子供もいるため、入院や外来の受診が難しく治療がなかなか進まない。
- ・摂食障害支援拠点事業に協力いただける医療機関は圧倒的に不足しており、一部の協力医療機関に負担が集中することが懸念される。
- ・緊急受診、緊急入院が必要な患者を受入可能な病院が非常に少ない。このため、居住地近くの医療機関を紹介できないことが多い。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
座長	西園 マーハ 文	明治学院大学心理学部 教授	学識経験者
委員	平川 博之	公益社団法人東京都医師会 副会長	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	森野 百合子	成増厚生病院なります子どものこころケアセンターセンター長	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	竹内 香織	代田クリニック 院長	摂食障害治療を専門的に行っている医師

同上	海老澤 佐知江	アルバ・メンタルクリニック 院長	摂食障害治療を専門的にしている医師
同上	菊地 章人	東京都福祉局 障害者施策推進部 障害者医療担当部長	東京都
同上	橋本 康昭	東京都福祉局 障害者施策推進部 精神保健医療課長	東京都
同上	平賀 正司	東京都立中部総合精神保健福祉センター 所長	精神保健福祉センター、 保健所
同上	向山 晴子	世田谷区保健所 所長	精神保健福祉センター、 保健所
同上	河野 瑞夏	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	須賀 浩美	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和6年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> 東京都摂食障害支援拠点病院活動報告 摂食障害に関する指標の設定について 意見交換
第2回	令和7年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告 令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定 意見交換

4. 相談支援

相談体制

月・火・金曜日の9時30分～11時30分及び13時00分～15時30分に専用電話回線にて相談窓口を開設し、摂食障害支援コーディネーターが電話相談にて対応している（看護師・精神保健福祉士・公認心理師による当番制）。

対応相談

対応の際は、「摂食障害に悩むあなたとサポートする方々への受診案内」「摂食障害学会ホームページ：摂食障害に関する指針・マニュアル」「摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き」を参考にしている。

受診相談

「東京都福祉局 摂食障害治療支援体制整備事業 摂食障害の診療施設リスト 東京都版 関係機関向け 冊子」や「厚生労働省 医療情報ネット（ナビィ）」で、摂食障害（拒食症・過食症）を明記している施設等や独自に収集した情報を元に医療機関を紹介している。

相談支援結果

- ・令和 6 年 7 月開設から 9 ヶ月間で延べ相談件数は 297 件（月平均 33 件）、うち新規相談は 274 件（月平均 30 件）であった。
- ・都内在住者からの相談が 8 割以上となっており、相談者は本人から及び母からの相談が 7 割以上を占めている。
- ・相談対象患者の年齢は 10 代から 20 代が 6 割以上を占め、性別は女性が 9 割近くを占めている。
- ・相談者のうち、半数以上が摂食障害治療のために医療機関に繋がった経験を有している（受診中・入院中・中断中）。他疾患にて医療機関に通院している相談者を含めると、7 割近くとなっている。
- ・相談内容は受診に関する相談が最も多く、対応内容も受診先に関する情報提供が多い。「他の精神疾患にて精神科・心療内科受診中であるが、摂食障害は対応できないと言われている。対応できる医療機関を紹介して欲しい」「改善しないので摂食障害の専門的な治療を受けられる医療機関を紹介して欲しい」というニーズが聞かれている。

対象集計期間: R6.7-R7.3
 支援拠点病院名: 東京都摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
274	297

居住地域（新規件数）n= 274

管轄都道府 県内	管轄都道府 県外	不明	ほっとライン	計
221	38	15	0	274

相談者の患者との関係（新規件数）n= 274

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
97	21	98	10	13	12	8	5	8	2	274

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 274 平均年齢: 27.9 SD= 15.1 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
2	92	80	39	21	15	7	7	0	0	11	274

相談対象患者の性別（新規件数）n= 274

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
240	31	0	3	0	274

相談対象患者状態（新規件数）n= 274

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
151	91	128	80	17	14	38	7	16	35	4	5	12	200

相談対象患者属性（新規件数）n= 274

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
16	17	45	30	87	34	15	3	26	1	274

摂食障害での受診状況（新規件数） 274

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
106	7	30	72	42	7	10	274

相談経路（延べ件数）n= 297

電話	メール	面談	その他	計
297	0	0	0	297

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
297	0

0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 274

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
95	17	5	3	0	17	4	0	3	0	9	121	274

相談内容（延べ件数）n= 297

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
116	78	43	6	10	229	3	2	3

対応内容（延べ件数）n= 297

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
195	42	153	13	0	79	26	26	1	10	113	3	9

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
53	19	31	5	11	17	7

5.治療支援

治療体制・計画

内科医師、精神科医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、精神保健福祉士等の多職種連携による対応。

治療支援実施結果

支援拠点病院設置病院

初診患者数 (R6.7- R7.3) 82 人

初診患者数	82 人							
性別	女性	男性						
	79 人	3 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
	0 人	30 人	27 人	8 人	11 人	4 人	1 人	1 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	その他	
	30 人	24 人	12 人	2 人	1 人	5 人	8 人	
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	56 人	5 人	21 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≧
	4 人	3 人	11 人	10 人	5 人	11 人	14 人	2 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	50 人	9 人	3 人	20 人				

入院患者数 (R6.7- R7.3) 214 人

対象集計期間: R6.7-R7.3

支援拠点病院 東京都摂食障害支援拠点病院

入院件数

延べ入院件数
214

入院日数

1~30日	31~90日	91~180日	181~365日	366日以上	計	入院中 10
143	45	15	1	0	204	

性別

男性	女性	その他	計
14	200	0	214

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	40	81	21	20	27	21	4	214

他施設からの紹介

はい (有り)								小計	いいえ (無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
2	3	20	30	10	1	1	67	147	214	

他施設への紹介

はい (有り)								小計	いいえ (無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
0	1	6	19	2	0	5	33	181	214	

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED	0	214
50	41	17	3	3	100	0	214

BMI (全体) 入院時

n= 214

11未満	11~12未満	12~13未満	13~14未満	14~15未満	15~16未満	16~17未満	17~18未満	18~19未満	19~20未満	20以上	不明	計
30	9	14	16	20	16	17	25	19	3	0	45	214

6.研修

研修体制・計画

摂食障害の知識を深めるために講師に招いて、院内職員及び地域医療機関職員を対象にした摂食障害ミーティング（症例検討会や講演会等）を実施した。

研修実施結果

令和6年7月から7年3月まで延べ266名が参加した。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法（場所）
R6/7/23	院内職員 地域医療機関職員	33	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R6/8/29	院内職員 地域医療機関職員	37	◇見学報告 浜松医科大学病院（静岡県摂食障害支援拠点病院）	対面
R6/9/26	院内職員 地域医療機関職員	57	◇医療従事者向け研修 摂食障害の入院治療における看護の役割～退院後の生活を具体的にイメージし再発防止に役立てる～	対面 Web
R6/10/24	院内職員 地域医療機関職員	19	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R6/11/28	院内職員 地域医療機関職員	28	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R6/12/26	院内職員 地域医療機関職員	21	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/1/23	院内職員 地域医療機関職員	19	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/2/27	院内職員 地域医療機関職員	31	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/3/27	院内職員 地域医療機関職員	21	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食障害やその治療、東京都摂食障害支援拠点病院に関するリーフレットを作成、配布
- ・東京都摂食障害支援拠点病院のホームページを新設

普及啓発活動実施結果

- ・摂食障害の病態や症状、摂食障害支援拠点病院の業務についてまとめたリーフレットを作成し、関係機関や病院等へ配付した。
- ・摂食障害支援拠点病院事業の専用ホームページを作成して情報発信した。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年2回、東京都摂食障害対策推進協議会を開催する。

研修実施結果

令和6年12月に第1回協議会、令和7年3月に第2回協議会を開催し、活動状況等について討議した。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R6/12/24	東京都摂食障害対策推進協議会、東京都	12	令和6年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告及び摂食障害対策に関する効果指標の設定	対面 Web
R7/3/10	東京都摂食障害対策推進協議会、東京都	12	令和6年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告及び令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定	対面 Web

9. その他の活動

実施体制・計画

摂食障害は緊急受診や入院対応が可能な医療機関に限られており、相談内容に適した医療機関を紹介するため、東京都内で摂食障害患者への対応が可能とされている医療機関を対象に、対応可能な年齢・BMI、入院対応の可否等について個別に病院の状況を確認する。また、摂食障害支援拠点病院との連携の可否についても確認を行う。

実施結果

連携を許諾した医療機関は 90 施設。そのうち、入院が可能な医療機関は 20 施設件。BMI 11 の入院対応が可能な医療機関は 10 施設。

10. 考察

- ・相談対象となる患者の年齢は 10 代～90 代までと幅広いが、20 代以下の相談が 60% を占めている。また、子育て世代は、子供もいるため、入院や外来の受診が難しく治療がなかなか進まない。
- ・摂食障害支援拠点病院と連携した病院は圧倒的に不足しており、一部の連携病院に負担が集中することが懸念される。
- ・緊急受診、緊急入院が必要な患者を受入可能な病院が非常に少ない。このため、居住地近くの医療機関を紹介できないことが多い。

7. 石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

石川県摂食障害支援拠点病院

Ishikawa Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
石川県摂食障害支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827

URL

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	講師
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 集中治療部	特任助教

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
国木 智佳穂	公認心理師 臨床心理士
宮島 文恵	看護師

2. 要旨

石川県摂食障害支援拠点病院（以下、拠点病院）は金沢大学附属病院神経科精神科に設置されて令和4年10月3日より活動を開始し、今年度で2周年を迎えた。令和6年1月1日に能登半島地震が発災し影響が懸念されたが、5月頃からは概ね通常の体制で活動することができており、治療支援や相談支援においても実感される影響は小さい。以下、項目別に要旨を述べる。

相談支援：相談体制は前年度と同様、電話およびインターネットでの相談を行なっている。年度の前半は相談数が前年度比でやや増加していたが、11月・12月は減少した。

治療支援：拠点病院の治療体制は概ね前年度と同様で、対応している患者数も昨年度と同等である。外来患者の予約待機の解消が課題となっている。

研修活動：下記の普及啓発活動の結果、教育関係者への研修を数多く実施できた。また、産婦人科領域

に普及啓発や研修のニーズがある可能性が感じられた。

普及啓発活動：児童・思春期の患者を早期発見するため県内の教育委員会を訪問し協力を呼びかけた。
昨年と同様、周年活動としての大規模・一般向け講演会を実施した。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	内藤 暢茂	ときわ病院 副院長	摂食障害治療を専門的に 行なっている医師
委員	佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科 講師	
同上	水上 喜美子	金沢大学附属病院 集中治療部 特任助教	心理の専門職
同上	沼田 直子	石川県南加賀保健福祉センター 所長	保健所
同上	角田 雅彦	石川県こころの健康センター 所長	精神保健福祉センター
同上	瀬戸 博邦	石川県教育委員会事務局保健体育課	教育関係者
同上	小泉 敏浩	石川県健康福祉部障害保健福祉課	県
同上	前川 浩子	金沢学院大学文学部 教授	摂食障害に関する有識者
同上	—	—	摂食障害患者
同上	—	—	摂食障害家族

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 6 年 9 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について ・令和 6 年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について ・現状における問題点の抽出 当事者および家族からの要望等について
第 2 回	令和 7 年 3 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について ・令和 7 年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について (書面審議)

4. 相談支援

相談体制

- コーディネーター（公認心理師、看護師）3名が電話、インターネットでの相談を実施している。
- 電話相談窓口開設時間：9時～15時（月・水・金曜日）
- インターネットでの相談は常時受付し、原則的に1週間以内で返信している。
- 受診相談に対しては、患者の身体的な重症度（BMIを指標とする）や行動面の特徴を聴取した上で適切な受診先や入院の要否などをお伝えし、要望があれば受診予約の手順を案内している。
- 県内にある摂食障害患者の自助グループと連携し、相談者にこれを紹介している。
- 精神保健福祉センター、保健福祉事務所、学校等との連携を強化していく。

相談支援結果

以下、昨年度と比較して特徴的な点について述べる。

- 月平均の新規相談件数はやや減少している。これは、昨年10月にメール相談を開始した際に一時的に相談数が急増し、今年度は特に急増する要因が無かったためと考えられる。10-12月以外の相談数は年度前半はやや増加、後半は昨年度と同等であった。
- 県外からの相談が増加している。必ずしも近隣県からの相談だけではなく、他地方からの相談も散見される。拠点病院設置から時間が経過して周知が進んだこと、メール相談によるアクセスのしやすさ、本州の中程という地理的要因など複数の原因が考えられる。
- 相談対象者の年齢層について、20歳未満の割合が増加している（約20%→約30%）。今年度は教育委員会や学校に対する普及啓発活動を重点的に行っており、その影響と考えられる。

対象集計期間:

R6.4-R7.3

支援拠点病院名:

石川県摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
142	167

居住地域（新規件数）n= 0

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
98	39	5	0	142

相談者の患者との関係（新規件数）n= 0

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
69	6	33	1	1	5	5	13	2	7	142

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 0 平均年齢: 25.3 SD= 11.7 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
3	43	39	12	12	5	0	0	15	13	0	142

相談対象患者の性別（新規件数）n= 0

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
118	6	0	18	0	142

相談対象患者状態（新規件数）n= 0

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
50	29	60	33	6	1	10	0	3	8	1	0	7	5

相談対象患者属性（新規件数）n= 0

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
10	13	15	26	35	10	2	2	29	0	142

摂食障害での受診状況（新規件数）n= 0

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
27	2	16	54	19	1	23	142

相談経路（延べ件数）n= 0

電話	メール	面談	その他	計
97	70	0	0	167

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
4	9

#REF!

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 0

インターネット	紹介				その他・不明	メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			医療		テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	行政	教育	その他										
72	6	2	2	1	0	0	0	1	16	4	38	142	

相談内容（延べ件数）n= 0

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
98	38	33	1	7	78	32	10	0

対応内容（延べ件数）n= 0

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
71	35	41	31	3	105	69	62	3	3	66	52	2

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
19	0	2	8	6	6	1

5. 治療支援

治療体制・計画

- 大学病院精神科として、医師、看護師、心理士、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種が協働して治療にあっている。
- 摂食障害の専門外来を設置し、医師2名が CBT-E や MANTRA、ガイドドセルフヘルプ等の専門的治療を実施している。
- 入院治療では指導医1名と後期研修医1名を1つの主治医チームとして、4チームによる輪番主治医制をとっている。すべての後期研修医を4チームのいずれかに配置し、満遍なく摂食障害治療を経験できるよう配慮している。

治療支援実施結果

- 初診患者数は昨年度と同等で、入院を要した患者の割合も同等である。
- 年齢別では10歳代、診断別ではARFIDの割合が大幅に増加した。ARFIDは10歳台で診断されやすいため、両者は連動して増加したと考えられる。
- 外来診療は連携病院とある程度分担できているが、連携病院ではなく当院の受診を希望する患者も多くあり、受診待機の解消が課題となっている。
- 入院連携は未だに実施例がないが、それでも拠点病院の入院治療が逼迫することはない。入院については、目標とする連携体制の見直しも考える。
- 入院患者を退院後に他院へ紹介できる例が僅かで、当院の外来患者が徐々に増加している。これにより外来初診の受け入れ数が制限されている面もあり、外来連携の構築は今後の重要な課題である。
- 外来診療連携について、県内の精神科医療機関に対し一斉アンケートを実施した。安定した患者を外来紹介可能な精神科医療機関が確認できた。一方で、摂食障害の診療を充実させることに積極的な医療機関は数施設のみであった。

対象集計期間：R6.4-R7.3

初診患者数：	43人							
性別	女性	男性						
	41人	2人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	1人	23人	11人	2人	4人	2人	0人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	16人	11人	4人	1人	0人	11人	0人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	25人	1人	17人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	2人	11人	10人	7人	3人	3人	6人	1人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	32人	4人	3人	4人				

対象集計期間:

R6.4-R7.3

支援拠点病院

石川県摂食障害支援拠点病院

入院件数

延べ入院件数
42

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上	計
12	26	4	0	0	42

性別

男性	女性	その他	計
0	42	0	42

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	18	14	1	5	4	0	0	42

他施設からの紹介

はい（有り）								いいえ（無し）	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他	小計		
3	0	0	10	2	1	1	17	25	42

他施設への紹介

はい（有り）								いいえ（無し）	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他	小計		
0	0	0	3	0	0	0	3	39	42

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED	0	42
22	12	4	0	4	0	0	42

BMI（全体）入院時

n= 42

11未満	11～12未満	12～13未満	13～14未満	14～15未満	15～16未満	16～17未満	17～18未満	18～19未満	19～20未満	20以上	不明	計
2	4	7	9	8	6	1	1	0	0	4	0	42

6. 研修

研修体制・計画

- 児童・思春期の摂食障害の早期発見と対応のため、県内の教育関係者に積極的に働きかけ、研修の場を設けていただくよう依頼した。詳細は7.普及啓発活動の項を参照されたい。
- 連携病院に対し、入院・外来治療の研修の準備があることを伝え、ニーズを確認した。

研修実施結果

- 教育関係者への働きかけの結果として、学校教員を対象とする研修会を多数実施できた。
- 医療関係者を対象とした研修会は例年通りの回数に留まっている。
- 産婦人科関係者に対して研修を実施する機会に恵まれ、産婦人科領域における摂食障害への関心の強さや普及啓発のニーズを実感することができた。
- 連携病院（医王病院）のスタッフを対象に、入院治療の研修を実施した。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	内容	実施場所	参加人数
令和6年6月22日	医療関係	石川県摂食障害支援拠点病院 1年の歩みと課題（日本精神神経学会 学術総会）	札幌コンベンションセンター	40名程度
令和6年6月30日	助産師、看護師、医師など	摂食障害の基礎知識と母子保健	十全講堂（金沢大学）	70名程度
令和6年7月24日	養護教諭（小中学校）	摂食障害の基礎知識と、学校での対応について	小松市立中海中学校	30名程度
令和6年7月26日	中学校教員	学校における摂食障害への対応について	松任中学校	30名程度
令和6年8月4日	医師	かかりつけ医における摂食障害への対応について	金沢市医師会	70名程度
令和6年8月5日	医療関係	思春期患者の摂食障害治療 講師：兵庫医科大学 山田恒先生	TKP ガーデンシティ PREMIUM	50名程度
令和6年9月7日	医療関係	石川県摂食障害支援拠点病院 2年間の活動の結果と課題 （日本摂食障害学会 学術集会）	明治学院大学白金キャンパス	40名程度
令和6年11月21日	教員	令和6年度 子どもの健康フォーラム 摂食障害についての理解と対応について	教育プラザ 富樫	100名程度

令和6年10月24日	病院職員	医王病院（連携病院：小児科）の職員に対し摂食障害の入院治療について研修を実施した	医王病院（金沢市）	50名程度
令和6年12月26日	養護教諭（高校）	座学＋事例検討会	石川県こころの健康センター	15名程度

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- 拠点病院主催の一般向け講演会を企画し、摂食障害の知識や拠点病院の活動内容を伝えていく。
- 県内の教育委員会に拠点病院スタッフが直接訪問し、摂食障害や拠点病院の活動への理解を深めていただく。
- 若年者にも親しみやすい啓発ポスターを作成する。ポスターの画像データを本稿に添付する。
- インターネット（関連機関のWebサイトとの連携）を利用した情報発信を促進する。
- リーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、専門学校、高校、中学校、小学校に配布する。県内の精神科、小児科、婦人科にも配布する。

普及啓発活動実施結果

- 令和6年10月20日に石川県摂食障害支援拠点病院 開設2周年記念講演会を開催した。講師に水原祐起先生をお招きし、一般の方・専門職の双方を対象とした講演会を実施した。
- 石川県内の4市の教育委員会を訪問した。後日、研修会実施の依頼をいただくことができた。
- 親しみやすい啓発ポスター（通称：ユルい啓発ポスター）を作成し、県内の学校等に配布した。
- 拠点病院のリーフレットを、昨年度配布した先に、再度送付した。リーフレットを送付して欲しいという個別の依頼にも対応した。

【親しみやすい啓発ポスター】

太っている
自分なんて
許せない

すごく痩せて心配だけど
声をかけてもいいのかな

たくさん
食べることを
やめられない

食べたくても
食べられない

誰かに相談すると きっと軽くなる

摂食障害は、自分では気づきにくく、相談することで解決方法を探すことができます。
誰からでも、匿名でも、相談だけでも可能なので、気軽にお電話ください。

あなた自身が、あなたの身近な人が、「摂食障害かも?」と思ったら、相談できる場所があります

石川県摂食障害支援拠点病院 （金沢大学附属病院 神経科精神科内） 問合せ 076-265-2827 （月・水・金 / 9:00~15:00）
インターネットでの相談も受け付けております（随時） ➡

講演会

開催日	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
令和6年 10月20日	一般・専門	石川県摂食障害支援拠点病院 2周年記念講演会 ともにあり、ともに歩む～摂食障	金沢港クルーズターミナル	70名程度

		害の地域支援活動のビジョン～ 講師：認定NPO法人SEEDきょうと 水原祐起先生		
--	--	--	--	--

外部機関への訪問

実施日	訪問場所	内容
令和6年5月1日	金沢市教育委員会	拠点病院の活動内容を周知した
令和6年5月10日	白山市教育委員会	拠点病院の活動内容を周知した
令和6年5月23日	野々市市教育委員会	拠点病院の活動内容を周知した
令和6年6月11日	北星中学（野々市市）	野々市市の生徒指導連絡協議会にて、拠点病院の活動内容を周知した
令和6年6月28日	小松市教育委員会	拠点病院の活動内容を周知した
令和6年8月19日	御園小学校（野々市市）	野々市市の養護教諭部会にて、拠点病院の活動内容を周知した

リーフレット

「石川県摂食障害支援拠点病院」リーフレットを下記の配布先に、5部ずつ配布した。

配布日	配布先
2024/8	県内の各保健福祉センター 4施設
	大学・短期大学 21校
	専修学校・各種学校 13校
	小児科を有する医療機関 126施設
	婦人科を有する医療機関 75施設
	精神科を有する医療機関 32施設
	県管轄の学校 58校（高校・特別支援学校など）
	市町村管轄の学校 287校（小学校・中学校など）
	国立・私立学校 12校
	市町村教育委員会・教育事務所 24ヶ所
	市町村福祉課・健康課 19ヶ所
	各種相談機関 48ヶ所
	県警察署、弁護士会 13ヶ所

8. 行政機関との連携

体制・計画

- 石川県障害保健福祉課の担当者と連携し、拠点病院のリーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担者、大学、高校、中学校、小学校に配布する。
- リーフレットを県管轄の施設や県内の婦人科、小児科に配布する。

実施結果

- 県の担当者が今年度から交代となっており、拠点病院の活動の意義について説明し理解を求めた。
- 県管轄の施設にリーフレットを配布予定で、県の担当者に協力を依頼した。

連携会議等

開催日	内容	実施場所
令和6年6月3日	石川県障害保健福祉課 担当者2名とミーティング ・顔合わせ ・拠点病院の活動の意義について説明 ・今年度の活動計画について共有 ・リーフレットの送付を依頼	ビデオ通話にて実施

9. その他の活動

実施体制・計画

- 上記 3.から 9.に記載したもの以外の活動は、現時点では実施していない。
- 今年度中に家族心理教育を開始する計画だったが、準備が間に合わず来年度に持ち越しとなった。
- 今後、以下のような活動を計画している。
家族心理教育、家族教室の開催
患者家族への支援体制構築
相談支援の結果に対する、相談者からのフィードバック（感想を聞き、改善点を探る）
外部機関と連携した事例検討会の実施
外部医療機関を対象とした、治療困難事例に対してのスーパーヴィジョン

10. 考察

昨年度は拠点病院の治療体制の整備や相談支援におけるメール相談の導入など拠点病院内の業務を

主体に活動していたが、今年度は病院内については大きな変更をせず、病院外へのアプローチを強化することに主眼を置いた。その中で特に児童・思春期患者の早期発見と、他院との連携体制構築を今年度の課題として活動した。以下にその内容と結果についての考察を述べる。

児童・思春期患者の早期発見については、7. 普及啓発活動の項でも記載した通り教育委員会への訪問を行い、かつ若年者向けの啓発ポスターを作成することで学校職員や若年患者の摂食障害や拠点病院に対する理解を深め、相談を励起し、早期発見・早期受診に繋げることを目指した。この活動の結果として、教員に対する研修会を数多く実施することができた。相談数もある程度は増加したが年度後半になると例年と同等で、増加は一時的なものにとどまったという印象もある。この結果にから、若年の当事者や教員への啓発だけでは実際の相談に繋げる効果が限定的だったのだろうと考えられる。結局のところ、一般成人（＝児童・思春期患者においては当事者家族）に向けたアプローチを行うことが、児童・思春期患者の早期発見・早期受診のためにも必要なのだろうと感じさせられた。

連携体制構築については、活動はしてみたものの、あまり良い結果は得られていない。5. 治療支援の項に記載した通り外来連携体制の構築について県内精神科医療機関に一斉アンケートを行い、回答率は70%前後で良好であったが、その上で摂食障害診療連携に積極的な医療機関は非常に少なかった。石川県精神科の歴史的背景や、現時点で摂食障害診療に診療報酬上のメリットが小さいことを鑑みると十分に理解できる結果ではあるが、外来連携の構築に時間がかかることを予感させられた。入院連携についても、昨年引き続き実効的な連携が行われず、また連携医療機関も増やせていない。ただしこれについては入院連携のニーズが小さく、そのために連携構築が進まないという面も大きい。石川県のどの地域からでも拠点病院に入院可能であるという地理的条件や、拠点病院の入院診療が比較的スムーズに進められ入院待機期間が殆ど無いことから、拠点病院のみで県内全域の患者について十分な体重回復までの入院治療に対応できてしまっているのである。これまで他県の成功例を参考に入院連携体制の目標を掲げてきたが、石川県なりの目標設定を別に設けてもよいのかもしれないとも考えられた。

最後に、来年度の目標について完結に述べる。来年度も引き続き院外へのアプローチを主体とし、今年度よりも一般的な、広範囲の対象に働きかけることをめざしていきたい。具体的には、まず治療連携において、精神科以外の医療機関の現状やニーズを調査し、知識の普及や連携体制の構築を目指していく。その一方で、一般成人に対する知識普及や相談需要の喚起も、県や保健所などと相談して方法を探りつつ行っていきたい。

8. 福井県摂食障がい支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

福井県摂食障がい支援拠点病院

Fukui Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福井県摂食障がい支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3	0776-61-3111

URL

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

摂食障がい支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
大森 一郎	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	准教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教

摂食障がい治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士
中道 秀尚	公認心理師 臨床心理士

2. 要旨

福井県摂食障がい支援拠点病院として、福井大学医学部附属病院 神経科精神科が令和5年10月2日より指定・運営を開始し、令和6年度は体制整備と地域連携・啓発活動の両面で大きな前進が見られた一年であった。

[協議会]

福井県内の関係機関と連携し、摂食障害対策推進協議会を令和6年8月29日（WEB）および令和7年3月13日（対面）に開催。摂食障害治療の現状、課題、支援の方向性について意見交換を行い、地域ごとのニーズに即した支援体制の構築に取り組んだ。

[相談支援]

コーディネーター（公認心理師）による電話相談を週3日（月・水・金）実施。本人・家族・関係者からの相談に対応し、医療機関との橋渡しを行った。相談件数は増加傾向にあり、特に20～30代の若年層とその家族からの相談が多かった。

[治療支援]

多職種チーム（医師、心理師、看護師、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士）による包括的治療を実施。さらに、精神科専攻医を対象にスーパービジョンや症例検討の機会を提供し、若手人材の育成にも力を入れ始めている。連携医療機関への知見共有を通じ、地域全体の治療水準の向上も目指している。

[研修]

令和7年2月21日には福井県養護教諭研究会の冬季研修会にて、拠点病院の役割、相談の活用法、学校現場で利用可能な支援資源、摂食障害の基礎知識等について発信。医療だけでなく教育分野との連携を強化する機会となった。

[普及啓発活動]

Webサイト上での「困ったコラム」連載、県民公開講座、1周年記念講演会、ラジオ出演（FM福井「Morning Tune」）等を通じて、県民、当事者、家族に向けた親しみやすく分かりやすい情報発信を行った。

[行政・地域連携]

福井県精神保健福祉センター、保健所、教育委員会等と連携を図るとともに、県内の摂食障がい家族会や自助会との意見交換も開始。今後、座談会などの開催を通じて、当事者・家族の声を反映した支援体制の整備とネットワークの強化を目指している。

令和6年度は、支援拠点病院としての体制を固めると同時に、関係機関・住民との信頼関係を築き、今後の支援の発展に向けた足場を築いた一年であった。

3. 摂食障がい対策推進協議会の設置

摂食障がい対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 教授	摂食障がい治療を専門的に行なっている医師
委員	眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教	
委員	幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教	
同上	村田 哲人	福井県立病院こころの医療センター センター長	
同上	杉坂 夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター センター長	
同上	松浦 智恵	福井県総合福祉相談所 所長	精神保健福祉センター
同上	奥島 華純	福井健康福祉センター・医幹	保健所
同上	—	—	摂食障がい患者
同上	—	—	摂食障がい患者家族
同上	前川 昭彦	福井県健康福祉部 障がい福祉課 課長	県
同上	中嶋 美佳	福井地区保健管理担当職会議・看護師	摂食障がい対策に資するもの
同上	松枝 範恭	福井県教育委員会・保健体育課 課長	

摂食障がい対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	R6/8/28 (WEB 開催)	1. 令和 6 年度摂食障がい支援拠点病院の支援状況について 2. 事前にいただいたご意見・ご要望について意見交換 3. 摂食障がい支援の今後について
第 2 回	R7/3/13 (対面開催)	1. 令和 6 年度事業実績報告 2. 令和 7 年度以降の取り組みについて

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（公認心理師）による電話での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～16時30分（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。

相談支援結果

令和6年度の相談件数は、新規48件、延べ65件であった。相談者の属性としては、本人からの相談が全体の36%を占め、家族（父母・祖父母・兄弟姉妹など）からの相談が49%とおおよそ半数を占めた。これは、家族による支援ニーズの高さを示しており、相談体制の家族支援機能としての役割が強く求められていることがうかがえる。

年齢層としては10代・20代の相談が多く、若年層の支援が今後の重要な課題であることが再確認された。初期対応の段階で不安を抱える当事者や家族にとって、安心して相談できる窓口の存在は重要であり、今後も安定した相談体制の維持・充実が必要であると考えます。

中には命の危険を感じるような深刻な状態についての緊急相談も含まれており、迅速かつ丁寧な対応が求められた。

期間：R6.4 - R7.3

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
48	65

居住地域（新規件数）n= 48

管轄都道府 県内	管轄都道府 県外	不明	ほほライン	計
32	10	6	0	48

相談者の患者との関係（新規件数）n= 48

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
17	4	17	0	3	0	2	5	0	0	48

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 48 平均年齢： 22.7 SD= 8.5 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
0	11	15	3	3	1	0	0	15	0	0	48

相談対象患者の性別（新規件数）n= 48

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
41	4	0	3	0	48

相談対象患者状態（新規件数）n= 48

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状						
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他	
20	13	20	19	3	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1

相談対象患者属性（新規件数）n= 48

学生			社会人				その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
4	4	6	6	6	3	1	0	18	0	48

摂食障害での受診状況（新規件数） 48

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
19	0	5	11	5	3	5	48

相談経路（延べ件数）n= 65

電話	メール	面談	その他	計
65	0	0	0	65

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	3

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 48

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	25	44

相談内容（延べ件数）n= 65

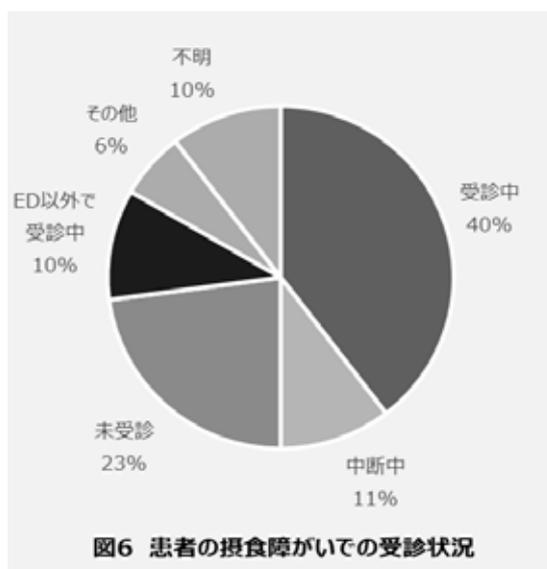
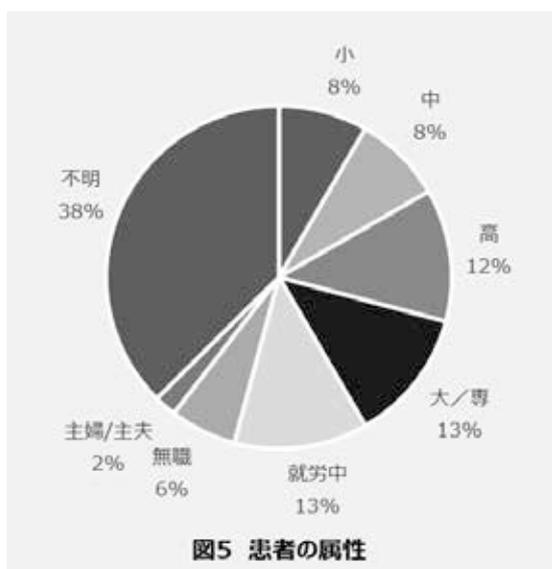
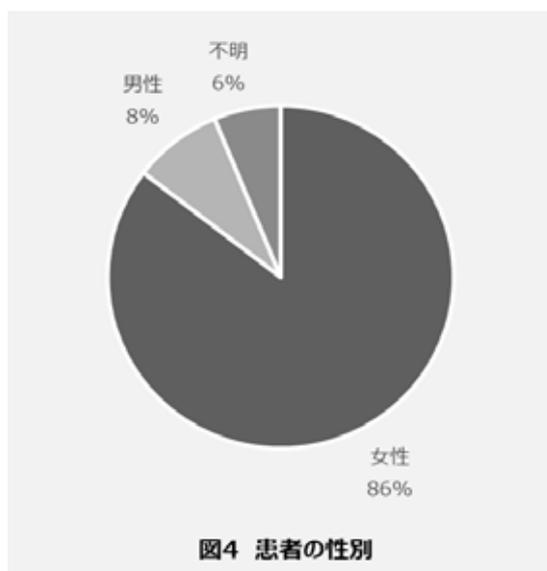
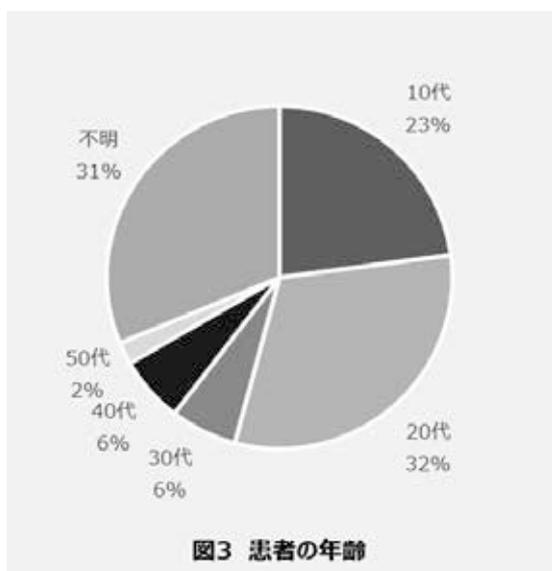
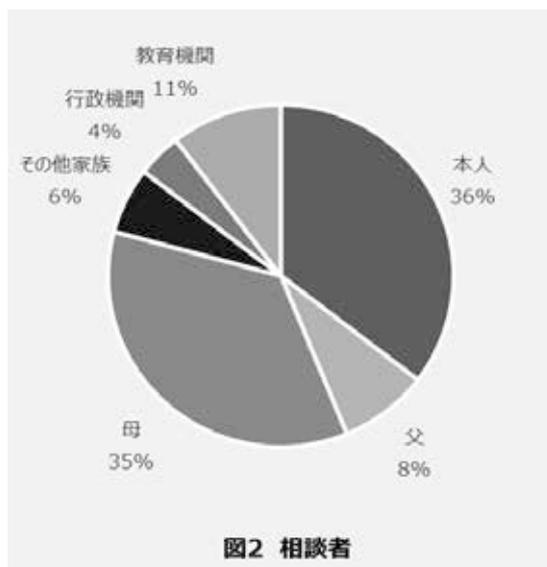
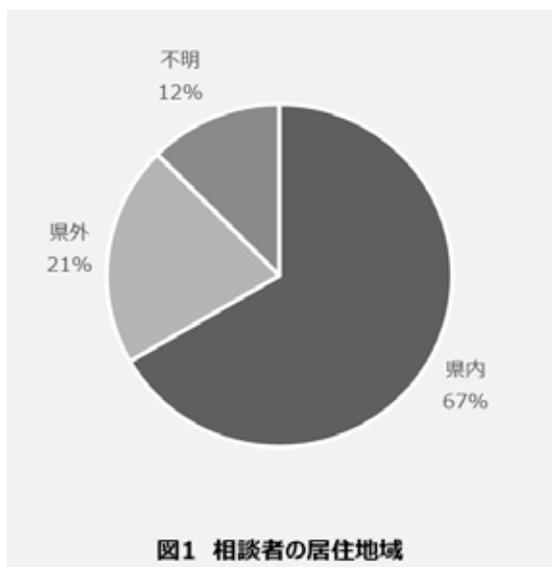
疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
33	18	10	3	6	37	6	3	0

対応内容（延べ件数）n= 65

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
25	18	6	5	0	20	7	13	1	2	32	5	5

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
8	0	2	3	4	0	1



5. 治療支援

治療体制・計画

- ・支援拠点病院は、大学医学部附属病院神経科精神科として、医師、心理師、看護師、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種で連携しながら治療支援を行っている。
- ・外来初診後、多くの方が入院治療となり、退院後は入院主治医が継続して外来通院治療に継続している。
- ・コーディネーターの受診相談時に、身体的な重症度（BMI や標準体重と比較した現状を指標とする）のほか、食行動などの行動面を確認し、適切な受診先や入院の可否などをお伝えしている。
- ・福井県下の連携医療機関 2 か所に支援拠点病院で治療支援の手法を伝え、支援機関を増やしている。

治療支援実施結果

- ・支援拠点病院では Family based treatment やモーズレイ式 神経性やせ症治療などを中核とした治療を展開しており、それらを学んだ医師たちが連携病院で活動をしている。
- ・支援拠点病院において摂食障害を専門とする精神科専門医・子どものこころ専門医によるオンラインカンファレンスにて症例相談、陪席による外来 SV 体制 専攻医へのフォロー体制を整えた。
- ・連携病院 1 施設にて支援拠点病院に在籍する医師による症例相談の体制を整えた。

初診患者数（R6.4-R7.3）

初診患者数 14 人

性別	女性	男性								
	13	1								
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-				
	0	9	1	0	1	3				
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	その他				
	2	1	0	0	10	1				
BMI	<8	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦	不明
	0	0	2	6	1	0	1	2	2	0
外来/入院	外来のみ	入院のみ	外来・入院							
	8	1	5							
治療経過	治療中	治療中断	治療終了	紹介						
	12	1	1	0						

入院患者数 (R6.4 - R7.3)

入院件数

延べ入院件数
17

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上	計
4	11	2	0	0	17

性別

男性	女性	その他	計
2	15	0	17

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	11	3	1	0	0	2	0	17

他施設からの紹介

はい (有り)								小計	いいえ (無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
1	0	0	2	1	0	0	4	12	16	

他施設への紹介

はい (有り)								小計	いいえ (無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
0	0	0	2	0	0	0	2	15	17	

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED	0	17
9	3	1	1	3	0	0	17

BMI (全体) 入院時

n= 17

11未満	11～12未満	12～13未満	13～14未満	14～15未満	15～16未満	16～17未満	17～18未満	18～19未満	19～20未満	20以上	不明	計
1	1	0	0	2	7	1	3	0	1	0	1	17

6. 研修

研修体制・計画

研修は、連携病院である福井県立病院と厚生病院において実施を予定していたが、県立病院での研修は悪天候の影響により延期となり、令和7年6月4日に開催を予定している。また、福井県公認心理師・臨床心理士協会向けの研修については諸事情により来年度へ変更となった。今年度は福井県養護教諭研究会の冬季研修会にて研修を実施し、支援拠点病院の役割や取り組み、学校で活用できる資源、そして摂食障害の基礎知識について発表を行った。

研修実施結果

- ・治療研修会は令和7年1月27日に開催した。
- ・連携病院である福井厚生病院に対する研修では医師、看護師、心理師、栄養士の他職種で開催した。
- ・今年度から症例検討会も研修内容に含めた。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	人数
R7/1/27	研修	医療従事者	疫学	福井厚生病院	25名
R7/2/21	研修	福井県養護教諭	基礎知識	福井県産業情報センター	250名
R7/6/4(予定) ※R6年度の研修が延期	研修	医療従事者	未定	福井県立病院	-

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

令和6年度は「困ったコラム」の連載を開始し、一般の方にもわかりやすく、親しみやすい形で情報発信を行った。また、摂食障がいに関する理解を広めるため、講演会や公開講座を継続している。県民公開講座は、昨年度に引き続き実施し、一般の方や関係者が摂食障がいについて理解を深める機会を提供する。さらに、学校との連携を強化し、希望のある小中高に対して出前研修を実施し、教育現場での支援体制づくりに貢献する予定である。また、メディアを活用した普及啓発活動の一環として、FM福井の情報番組「MorningTune」内の「ケアモア」に出演し、摂食障がいの概要や支援拠点病院の役割について発信した。

普及啓発活動実施結果

- ・Webサイト上で「困ったコラム」の連載を開始。アクセス解析では、摂食障がいに関連する検索から本コラムにたどり着くケースが多く、一般の方の目に触れやすい情報発信として機能していることがうかがえた。

- ・県民公開講座および講演会を計画通り実施。当事者・家族・関係者に向けて疾患理解を深める機会となった。
- ・FM福井の情報番組「MorningTune」内「ケアモア」に出演し、摂食障がい概要や支援拠点病院の役割について広く紹介した。
- ・Web サイトにて、イベント告知や開催報告も随時掲載し、地域住民への情報発信を継続した。

講演会

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
R6/6/2	発表	一般市民	世界摂食障害アクションデイ2024「福井県摂食障がい支援拠点病院の取り組み」	跡見学園女子大学 /アーカイブ	不明
R6/10/12	開設1周年記念講演会	当事者 家族 一般県民 医療関係者	「摂食障害を正しく理解していますか？」日本摂食障害協会理事長 鈴木真理先生	AOSSA 研修室 601ABC	83名
R7/3/13	第2回県民公開講座	当事者 家族 一般県民	「摂食障がいを知る—さまざまタイプをご存じですか?—」	ユーアイふくい 3階 映像ホール	63名

メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
R6/6/28	一般社団法人日本摂食障害協会Youtube	世界摂食障害アクションデイ2024 摂食障害とメディアの良い関係を目指して 第2弾 ~SNS動画を見て自信なくしていませんか?~
R7/2/24	FM福井「Morning Tune」内「ケアモア」	摂食障がいの概要、発症のきっかけ、支援拠点病院の役割とサポート内容

困ったコラム

公開日	回	タイトル
R6/5/29	第1話	困ったコって、何者?
R6/8/9	第2話	痩せているのに太って見える?
R7/1/21	第3話	こうなったのは誰のせい



開設1周年記念講演会



県民公開講座



困ッタコラム 第1話



第2話



第3話

8. 行政機関との連携

計画

- ・ 支援拠点病院協議会を開催。
- ・ 連携病院への治療支援の助言会。
- ・ 県民公開講座を開催。
- ・ 支援拠点病院 Web サイトやリーフレットの周知。

実施結果

- ・ 1周年記念講演において、行政機関との連携を図った。
- ・ 令和6年8月および令和7年3月に地域協議会を開催し、行政のニーズ把握に努めた。
- ・ 地域協議会において、家族会や自助グループ等からの要望を聴取する機会が得られた。
- ・ その要望を受け、令和7年度には当事者・家族を対象とした座談会の開催に向けて準備を進めている。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R6/8/29	事務局	1. 福井県摂食障がい支援拠点病院の支援状況について 2. ご意見・ご要望について意見交換 3. 摂食障がい支援の今後について	WEB 開催
R7/3/13	事務局	1. 令和6年度事業実績報告 2. 令和7年度以降の取り組みについて	ユーアイふくい

9. その他の活動

実施体制・計画

<ul style="list-style-type: none"> ・他の支援拠点病院開催の研修会に積極的に参加し、スキルアップに心がけた。 ・緊急時や身体科との連携の難しさが摂食障害治療の受け入れにくさに繋がっており、連携強化を意識した。

実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・6回の学会発表を行った（以下参照）。 ・臨床において小児科との連携症例があり、その中でスムーズな連携が行われた。
--

学会

開催日	学会	開催場所	種別	内容	発表者
R6/6/20	第120回日本精神神経学会学術総会	札幌	シンポジウム	福井県における摂食障がい支援拠点病院の設立に至るまでの取り組み	幅田
R6/6/23-27	Organization for Human Brain Mapping 2024	Seoul, Korea	Poster	Association between body image disturbance and amygdala in healthy Japanese adolescent females.	幅田
R6/9/8	第27回日本摂食障害学会学術集会	東京	フォーラム	福井県摂食障がい支援拠点病院の取り組み -摂食障がい治療支援コーディネーターの視点から-	水野
R6/10/17	第65回日本児童青年精神医学会総会	松山	セミナー	神経性やせ症の疫学と症状、検査所見、診断	眞田
R6/11/29	第37回日本総合病院精神医学会総会	熊本	シンポジウム	摂食障害支援拠点病院における心理職の役割	牧野
R7/3/14	第43回日本社会精神医学会	東京	シンポジウム	福井県における治療支援拠点病院の活動について	幅田

10. 考察

令和6年度は、福井県摂食障がい支援拠点病院としての役割が各方面において広がりを見せ、支援体制の基盤強化と連携の深化が進んだ一年であった。

相談事業では、本人や家族からの相談が継続的に寄せられ、若年層の支援ニーズの高さや、家族による初期支援の重要性が改めて認識された。電話相談窓口は安定した運用が確立しつつあり、今後も継続可能な体制として機能していくと考えられる。

治療支援においては、拠点病院での多職種による治療体制を基盤に、連携医療機関への技術・知見の共有を進めた。また、精神科専攻医に対するスーパービジョンや症例検討の機会を設け、地域における人材育成のための仕組みづくりが始動した。

研修活動では、医療機関のみならず教育現場に対する啓発を行い、福井県養護教諭研究会における講演では、学校現場との連携を深める大きな契機となった。

普及啓発活動においては、「困ったコラム」の継続的な発信や県民公開講座、ラジオ番組出演を通じて、一般市民への理解促進を図ることができた。特にコラムは、摂食障害に関連するインターネット検索を契機として閲覧される傾向があり、情報へのアクセシビリティ向上に寄与している。

また、地域協議会では、家族会や自助グループから直接要望を聴取する機会が得られ、当事者・家族の視点に立った支援の必要性が再確認された。現在、これを受けて令和7年度には座談会の開催を予定しており、関係機関・地域住民との対話を通じた支援体制の構築が進められている。

今後も、増大するニーズに的確に対応するため、人的・時間的資源の拡充とともに、地域全体の治療支援能力の底上げを目指し、事業の着実な推進を図っていく必要がある。

9. 静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

静岡県摂食障害支援拠点病院

Shizuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
静岡県摂食障害支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科 神経科	431-3192	静岡県浜松市中央区半田山 1-20-1	053-435-2635

URL

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

2. 要旨

『相談支援』：事業開始から 10 年間を通して、コロナの流行期を除けば、児童思春期の相談件数は持続的に増加し、相談件数全体としては、令和 3 年度をピークとして直近 3 年間は減少傾向である。事業開始前に相談できなかつた患者の掘り起しが終わり、新規および初発の患者の相談が増えていると考えられる。県外からの相談が減り、県内および近接する地域からの相談が約 9 割を占めるようになり、地域に根差した相談支援が中心となっている。

『治療支援』：支援拠点病院において初診、入院ともに ARFID の症例が増えている。

『研修』：ゲートキーパーである養護教諭・産業医、また、「治療支援」と関連して、小児科・精神科共同の講演会に加え、症例検討会を昨年度に引き続き開催した。

『普及啓発活動』：『摂食障害フォーラム』を開催した。フォーラムの前半は、摂食障害についての普及啓発を目的とした講演会、後半は、家族・支援者に対する疾病対応について対話形式の相談会、当事者に対する回復者との交流会を行った。

『行政機関との連携』：昨年度同様に静岡市こころの健康センター（精神保健福祉センター）との共同で家族教室を行った。浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に支援拠点病院が参加し、浜松市の摂食障害治療の連携・支援について検討した。浜松市内及び周辺地域の総合病院において、小児科・精神科共同の院内研修会の開催を進めることとした。

『その他の活動』：昨年度に引き続きピア・サポーターの参加する当事者グループの交流会を開催し、ピア・サポーターが、家族支援や摂食障害患者のためのグループセラピーに参加するなどして、当事者や家族に向けて体験談やコメントを発信した。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	竹林 淳和	浜松医科大学・講師	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	横島 孝至	沼津中央病院・医師	
同上	高木 啓	鷹岡病院・院長 静岡県精神科病院協会	
同上	五條 智久	県立こころの医療センター・医師	
同上	大石 聡	県立こども病院こころの診療部・部長	
同上	田中 賢司	藤枝駿府病院・院長	
同上	田中 徹	好生会三方原病院・副院長	
同上	西村 克彦	聖隷三方原病院・精神科部長	
同上	大城 将也	菊川市立総合病院・医師	
同上	三田 智子	パルモこども診療所・院長 静岡県小児科医会・会長	
同上	櫻井 新一郎	桜心メンタルクリニック・院長 静岡県精神神経科診療所協会	
同上	桐野 衛二	順天堂大学医学部附属静岡病院・教授	
			摂食障害患者
			摂食障害患者家族
同上	下窪 匡章	県熱海保健所・所長	摂食障害対策に資するもの
同上	内田 勝久	静岡県精神保健福祉センター・所長	
同上	二宮 貴至	浜松市精神保健福祉センター・所長	
同上	大久保 聡子	静岡市こころの健康センター・所長	
同上	夏目 伸二	静岡県教育委員会事務局健康体育課長	教育関係者
同上	石田 雄一	静岡県健康福祉部障害者支援局長	県
同上	影山 洋子	静岡県健康福祉部障害者支援局 障害福祉課精神保健福祉室長	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和6年8月16日	1. 令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和6年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. その他
第2回	令和7年1月30日	1. 令和6年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和7年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. 病院・診療所における摂食障害の診療状況・意見について 4. 学校における摂食障害の取り扱いについて

4. 相談支援

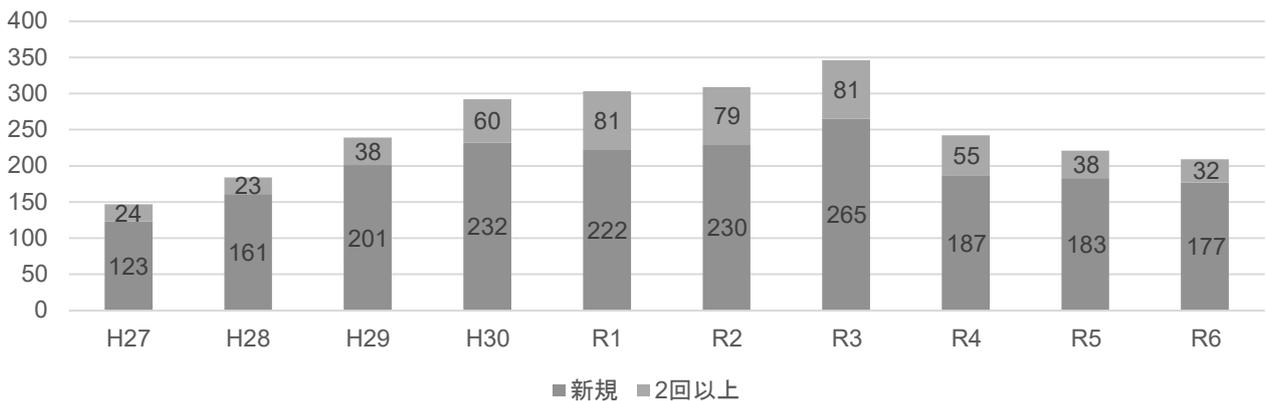
相談体制

1. コーディネーターが週3日、電話にて摂食障害患者及びその家族への専門的な相談支援を行う。

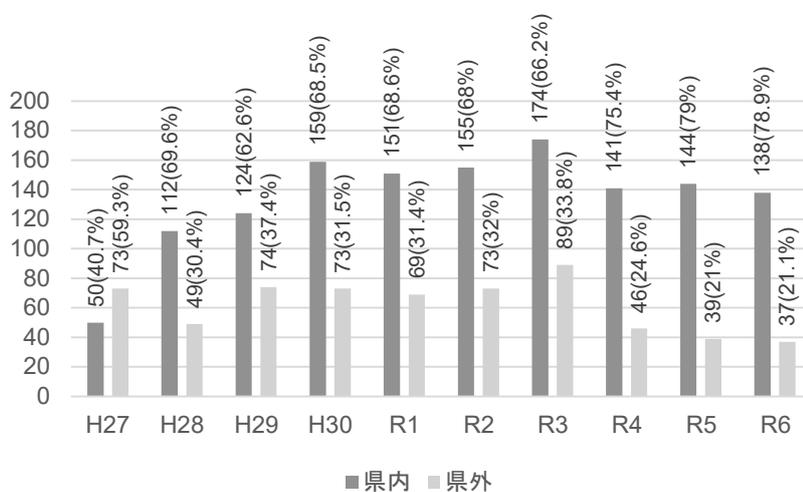
相談支援結果

- 相談件数は延べ209件であり、令和5年度(221件)と同程度で推移している。
- 管轄都道府県外の相談37件中21件は拠点病院に隣接する愛知県からの相談である。相談の静岡県内および隣接する医療圏からの相談が約9割を占めている。
- 相談者の年齢は10歳代以下が48%、20歳代が30%となっている。COVID-19の流行時に若年者の相談件数の割合が一時的に増えたことを除けば、好発年齢の児童思春期の相談が事業開始当初より持続的に増加している。
- 受診内容は受診相談が事業開始より年々増えて本年度は79.9%となった。一方、疾患や対応に関する相談は実数・割合ともに事業開始3年目をピークに年々減少している。
- 家族支援はピア・サポーターの協力を得ながら、行政と協同して継続的に行っている。

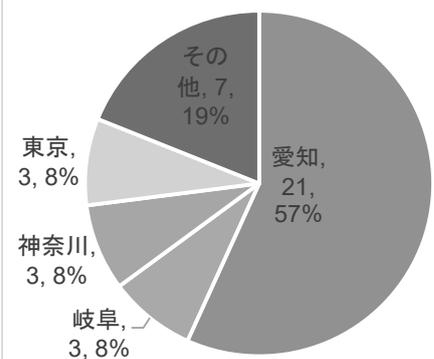
相談件数



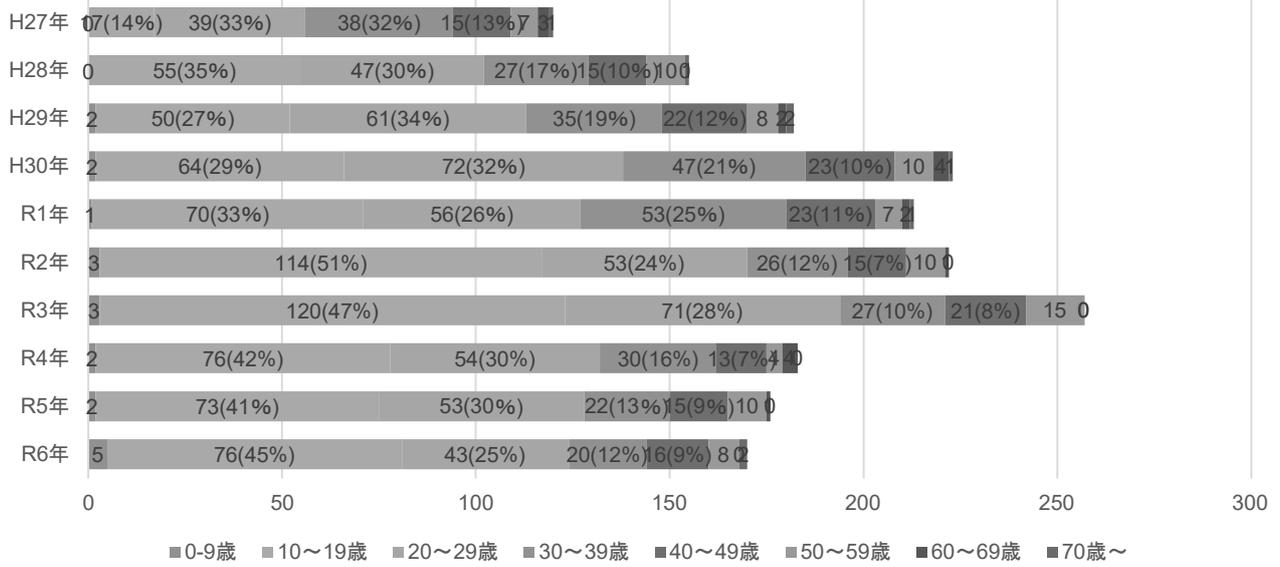
相談者居住地(新規)



県外内訳



本人年齢(新規)



対象集計期間: R6.4-R7.3
 支援拠点病院名: 静岡県摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
177	209

居住地域（新規件数）n= 177

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
138	37	2	0	177

相談者の患者との関係（新規件数）n= 177

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
41	6	59	1	8	53	3	4	1	1	177

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 177 平均年齢: 25.4 SD = 13.5 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
5	76	43	20	16	8	0	2	4	3	0	177

相談対象患者の性別（新規件数）n= 177

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
156	15	0	3	3	177

相談対象患者状態（新規件数）n= 177

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
123	120	69	44	12	7	15	3	7	22	1	4	8	12

相談対象患者属性（新規件数）n= 177

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
15	16	37	21	28	8	1	1	47	3	177

摂食障害での受診状況（新規件数） 177

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
55	6	14	56	39	4	3	177

相談経路（延べ件数）n= 209

電話	メール	面談	その他	計
209	0	0	0	209

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	3

0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 177

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
92	59	6	6	1	0	0	0	0	0	4	9	177

相談内容（延べ件数）n= 209

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
37	17	6	1	12	182	0	2	2

対応内容（延べ件数）n= 209

有り	紹介先				情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関	有り	疾患知識	治療受診	資料				社会資源
127	67	40	11	11	82	28	51	13	1	127	1	2

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
2	1	0	2	0	0	0

〈家族支援〉

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	実施場所
令和6年6月22日、 7月13日、8月3日	家族	8	摂食障害家族教室	オンライン
令和6年12月 21日、令和7年 1月18日、2月 15日	家族	7	摂食障害家族教室	静岡市こころの健康セン ター
令和6年5月17 日、6月14日、7 月19日	家族	9(延べ)	摂食障害家族教室	浜松市精神保健福祉セン ター
令和6年10月 18日、11月15 日、 12月20日	家族	5(延べ)	摂食障害家族教室	浜松市精神保健福祉セン ター
令和6年5月25 日	家族	8	家族交流会	オンライン
令和6年9月21日	家族	6	家族交流会	オンライン
令和7年3月29日	家族	13	家族交流会	オンライン
令和6年5月25 日、7月27日、 9月28日、11月 30日、令和6年 1月25日、3月2 2日	家族	38	家族サロンひまわり (家族交流会)	浜松市精神保健福祉セン ター

5. 治療支援

治療体制・計画

1 精神科領域専門医研修プログラムとの連携
1.1 専攻医の摂食障害の診療状況の把握
1.2 研修の在り方についての検討
2 子どものこころ専門医機構研修施設群との連携
2.1 研修における摂食障害診療の状況把握
2.2 研修の在り方についての検討
3 摂食障害の入院治療を担当する病院との連携（静岡県摂食障害対策推進協議会）
4 県東部の治療連携に関する連携会議の開催

治療支援実施結果

● 支援拠点病院においては初診、入院ともに ARFID の症例が増えている。
● 相談支援と同様に初診、入院ともに 10 歳代以下の患者が半数

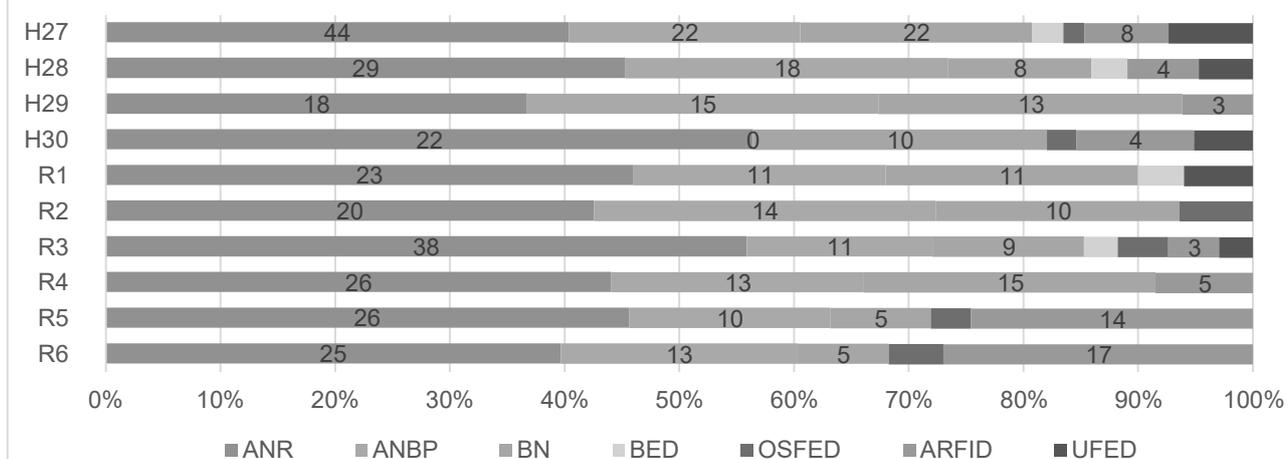
	開催日	参加者	会議名	実施場所
第1回	令和6年7月6日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	オークラアクティホテル浜松
第2回	令和6年7月8日	基幹・連携施設責任者	第3回子どものこころ専門医研修管理委員会	オンライン
第3回	令和6年12月21日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	オークラアクティホテル浜松
第4回	令和6年12月16日	基幹・連携施設責任者	第2回子どものこころ専門医研修管理委員会	オンライン

支援拠点病院

初診患者数 (R6.4・R7.3) 63人

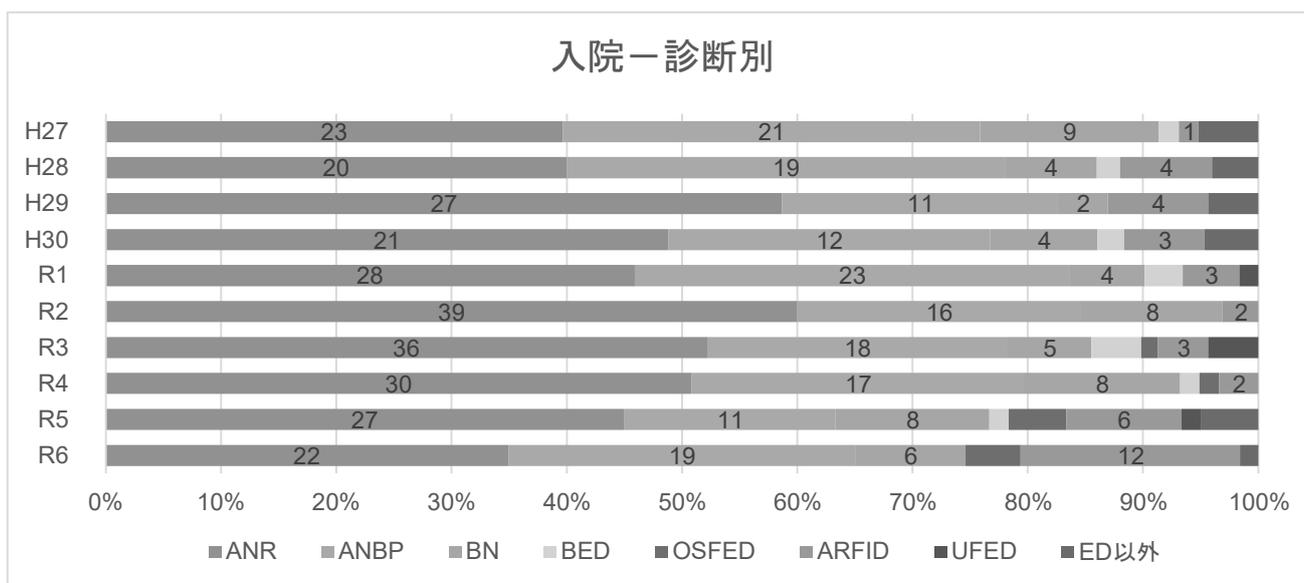
初診患者数	63人							
性別	女性	男性						
	56人	7人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	6人	34人	9人	5人	5人	4人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	
	25人	13人	5人	0人	3人	17人	0人	
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	41人	9人	13人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	1人	15人	24人	7人	2人	5人	9人	0人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	47人	0人	4人	12人				

初診一診断別



入院患者数 (R6.4 -R.6.11) 63 人

入院患者数	63 人							
性別	女性	男性						
	56 人	7 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	3 人	28 人	16 人	7 人	6 人	3 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	22 人	19 人	6 人	0 人	3 人	12 人	0 人	1 人
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	5 人	12 人	22 人	7 人	3 人	6 人	7 人	1 人



協力病院：初診患者数／入院患者数(令和6年4月～令和7年3月)

静岡県立こども病院：24名／11名(30名／15名)

菊川市立総合病院：5名／4名(14名／6名)

聖隷三方原病院：6名／3名(16名／15名)

沼津中央病院：11名／19名(10名／17名)

鷹岡病院：11名／5名(6名／3名)

静岡県立こころの医療センター：20名／28名(24名／13名)

藤枝駿府病院：9名／46名(8名／8名)

好生会三方原病院：2名／1名(2名／3名)

* () 内は昨年度

6. 研修

研修体制・計画

1. ゲートキーパーへの研修（産業医、職場のメンタルヘルス担当者）
2. 児童思春期の摂食障害診療者（精神科医・小児科医およびコメディカル）への研修
3. 摂食障害診療のためマテリアルの作成
4. 摂食障害入院・外来治療連携病院、精神科領域専門医研修プログラム連携病院、子どものころ専門医機構研修施設群へのマテリアルの配布

研修実施結果

講習会、研修会、ミーティング等

	開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
第1回	R6/5/17	医療従事者（全国）	87名	摂食障害入院治療研修－入院治療の留意点とコツ－（第3回）	オンライン
第2回	R6/9/9 9/30, 11/11	医師、心理士、その他	約30名	マンデークラブ小講義	浜松医科大学医学部附属病院・オンライン
第3回	R6/10/21 12/23	院内多職種スタッフ	約40名	愛知医科大学精神科医局勉強会『摂食障害の診療と治療連携』	愛知医科大学 オンライン
第4回	R6/10/31	拠点病院コーディネーター（全国）	8拠点病院	摂食障害治療支援コーディネーター研修会	オンライン
第5回	R6/11/1 R6/11/22 R6/12/20	産業医	23名 16名 54名	産業医研修会	あざれあ（静岡市） 三島商工会議所（三島市） アクトシティ浜松研修交流センター（浜松市）
第6回	R6/11/01	高知県内医師	62名	令和6年度高知県医師会 かかりつけ医等精神疾患対応力向上研修会	総合あんしんセンターハイブリット（高知県）
第7回	R6/12/09	精神科医・小児科医・コメディカル	42アクセス（小児13精神14その他15）	第4回摂食障害治療研究会	オンライン
第8回	R6/12/15	千葉県内精神科・小児科医師	不明	第8回千葉県摂食障害研究会	オンライン
第9回	R7/01/22	精神科医・小児科医	29アクセス（小児16精神6その他7）	第2回静岡県摂食障害治療小研究会	オンライン
第10回	R7/01/31	職場のメンタルヘルス担当者		産業保健セミナー	あざれあ（静岡市）
第11回	R7/02/03	学校医		浜松市医師会学校医研修会「学校保健における摂食障害」	グランドホテル浜松

静岡摂食障害治療研究会

日時：2024年12月9日(月)18:45~20:00
会場：ZOOMウェビナー

Opening Remarks バルモこども診療所/静岡県小児科医会会長 三田 智子 先生

18:45-19:00 情報提供 ◆イノラス配合経腸用液 について (株)大塚製薬工場 東海支店 岩本 佳那子

19:00-20:00 講演

座長 浜松医科大学医学部 精神医学講座 教授 山本 英典 先生

演者 獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター 教授 作田 亮一 先生

「児童思春期摂食障害のプライマリー診療 ～小児科と精神科の橋渡し～」

Closing Remarks 静岡県立こころの医療センター院長 大橋 裕 先生

二次元コードまたは下記URLよりアクセスしお申込みください



LINK

<https://otsuka-jp.zoom.us/join/791225009474>

主催 株式会社大塚製薬工場

第2回静岡県摂食障害治療小研究会

日時：2025年1月22日(水)17:50~18:45
会場：ZOOMウェビナー

17:50-18:00 情報提供 ◆イノラス配合経腸用液 について (株)大塚製薬工場 東海支店 橋本 博明

Opening Remarks 順天堂大学医学部附属静岡病院 小児科 准教授 馬場 洋介 先生

18:00~18:45 ケース発表 15分×2題+ディスカッション15分

司会 県立こども病院 こころの診療科 科長 大石 聡 先生
浜松医科大学医学部 精神医学講座 竹林 淳和 先生

演題① 「小児科における回避・制限性食物摂取症の外来治療について」
富士宮市立病院 小児科 赤山 耕平 先生

演題② 「自閉スペクトラム症を伴う回避・制限性食物摂取症のアセスメントと治療」
吉原林間学園診療所 所長 櫻井 類 先生

Closing Remarks 順天堂大学医学部附属静岡病院 メンタルクリニック 教授 桐野 衛二 先生

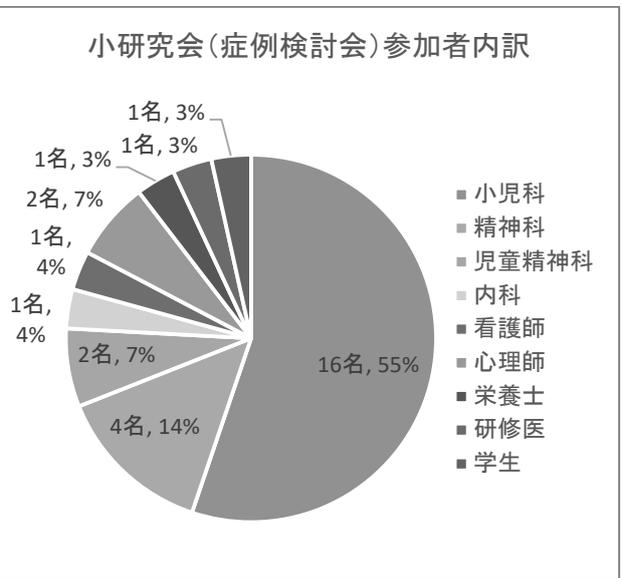
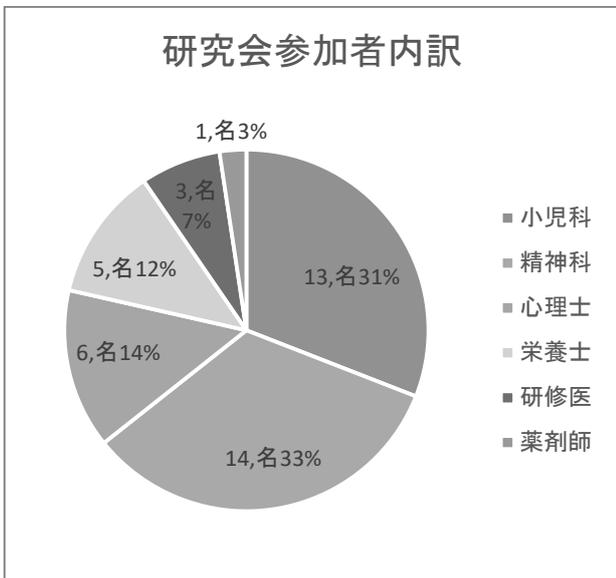
二次元コードまたは下記URLよりアクセスしお申込みください



LINK

<https://otsuka-jp.zoom.us/join/791225009474>

共催 静岡県立こども病院/浜松医科大学医学部附属静岡病院/株式会社大塚製薬工場



- 小研究会（症例検討会）は、2症例とも回避制限性食物摂取症（ARFID）の症例であった。総合病院小児科と児童精神科施設からの発表であったが、両施設とも ARFID に比べて AN の受診は多くないとのことであった。
- 患者および治療者のニーズに合った研究会および症例検討会を検討する必要がある。
- 研究会に比べると、症例検討会は精神科医の参加の割合が少なかった。

普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

1. 一般市民、摂食障害当事者、家族、支援者を対象とした摂食障害に関する普及啓発活動を行う。

普及啓発活動実施結果

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
R6/11/23	一般市民、当事者、家族、支援者	70名	静岡県摂食障害フォーラム2024	プラサヴェルデ（沼津市）
<p>〈プログラム〉</p> <p>第1部</p> <p>◆「よく分かる！ 摂食障害のお話」「こんな時どうする？～摂食障害当事者への声掛け」 講師：竹林淳和</p> <p>第2部 15:00～15:50</p> <p>◆「こんな時どうする？～摂食障害当事者への声掛け」 ◆当事者の体験談と交流</p>				

- 第1部は摂食障害（AN/BN）の一般的な知識
- 第2部の「こんな時どうする？～摂食障害当事者への声掛け」は参加者からの質問を受ける形式で開催した。

参加費 無料

静岡県 摂食障害フォーラム 2024

11/23 土

14:00～16:00

プラサヴェルデ 4F 402会議室

定員 90名 (先着順)

プログラム

第1部 14:00～14:50
「よく分かる！ 摂食障害のお話」
講師：竹林淳和 (浜松医科大学)
対象：どなたでも 摂食障害に関心のある系民、当事者、家族、支援者など

第2部 15:00～15:50
①「こんな時どうする？～摂食障害当事者への声掛け～」
対象：支援者、家族 会場：402会議室
②「当事者の体験談と交流」
対象：どなたでも 会場：403会議室 (同会場内にある当事者「ピアサポーター」も参加します！)

お申し込みはQRコードよりどうぞ！

お問い合わせ 053-435-2635
静岡県摂食障害支援拠点病院
浜松医科大学医学部附属病院精神科林田内科 (平日9時～17時)
<https://www.shizuoka-ed.jp/general/event/>

- 全参加者数 70名
 - 第2部こんな時どうする？ 39名
 - 第2部当事者の体験談と交流 29名

■事前アンケートより(抜粋)

(こんなときどうする？への参加者)

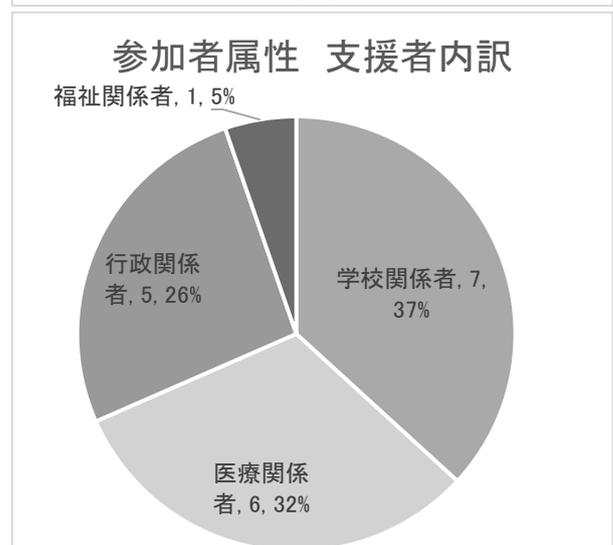
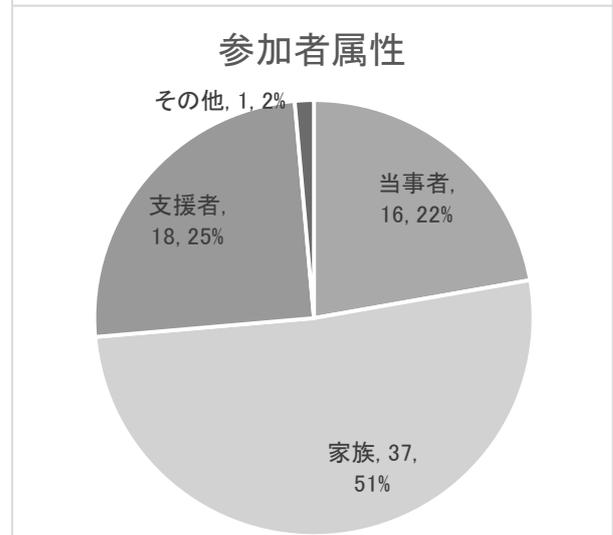
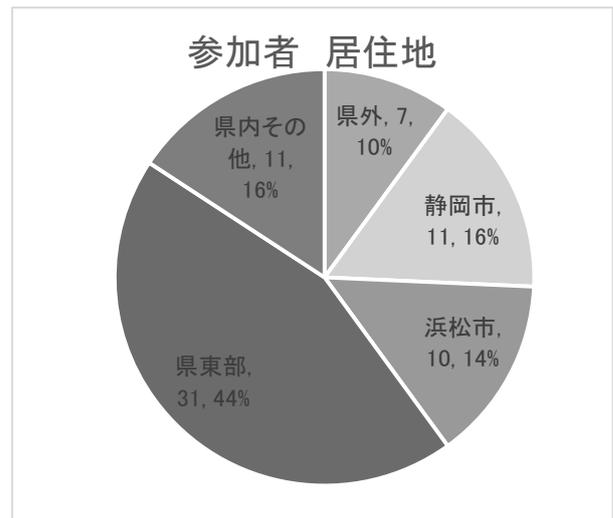
- 県東部は、専門病院が少なく、かなり病院を転々とした。(家族)
- 東部にはカウンセリングも良いところに恵まれず、本人も不調な時に遠方に出向く事もできないので困っています。(家族)
- 認知行動療法等、どの病院がやっているのか、知りたい。摂食障害に詳しい先生がおらず、病院に通院しても回復に向かわないのほども、残念です。(家族、複数回答あり)
- 同じ悩みで苦しんでいる家族がいるかと思うと頑張らなければと思う事ができました。(家族)
- カウンセリングや認知行動療法など、専門職向けの研修も受けたい。(行政関係者)
- 質問会形式にしてくれたことで、聞きたい質問ができてありがたかった。(家族)
- 愛知県でもこのようなイベントが開催されることを願っています。(家族、県外)
- 学校で摂食症の生徒を見つけたとき、どのように働きかけたらよいか知りたいと考え参加した。参加者は重度の患者に接する方が多く、この病気の難しさを感じた。素人が下手に関わるのでなく(安易に声をかけないで)、まずは専門医へ受診することを促すしかないと思った。(学校関係者)

(当事者の体験談と交流への参加者)

- 当事者の皆さんが回復されて生活されていることに一番希望をいただいた。(複数回答あり)
- サポーターの方の話を聞いて頑張ってたしと改めて感じた。(複数回答あり)
- 自分はひとりじゃないと感ずることができた。
- 早く治療できていたら… と羨ましかった。

■インターネット

静岡県摂食障害支援拠点病院 ホームページ <http://www.shizuoka-ed.jp/>



7. 行政機関との連携

計画

1. 行政が運営する家族支援と医療との連携

実施結果

1. 静岡市こころの健康センターとの共同で家族教室を行った。浜松市精神保健センター主催の家族サロンにピア・サポーターを派遣した
2. 浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院が参加し、浜松市の摂食障害の連携、支援について検討した。
3. 総合病院における小児科・精神科共同の勉強会・研修会の開催についての検討を行った。

静岡市こころの健康センター主催：【家族向け教室】摂食障害 家族教室

日程：令和6年12月21日、令和7年1月18日、2月15日 土曜日（全3回）

浜松市精神保健福祉センター主催：家族交流サロン、家族教室

令和6年7月19日（金）、12月20日（金）「摂食障害家族教室～ピアサポーターの体験談」

令和6年11月30日（土）「摂食障害家族サロンひまわり～ピアサポーターのお話を聞いてみよう」

場所：浜松市精神保健福祉センター、浜松市市民協働センター



連携会議等

開催日	参加者	参加人数	内容	実施場所
R6/7/29	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医	10名	摂食障害支援検討会	はまこら（浜松市市民協働センター）
R7/1/29	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医・精神科医	9名	摂食障害支援検討会	はまこら（浜松市市民協働センター）

8. その他の活動

実施体制・計画

1.	ピア・サポーターを養成と治療・支援への継続的な参加。
1.1	摂食障害フォーラムへの参加（参照：『7. 普及啓発活動』）
1.2	摂食障害患者のためのグループセラピーの開催
1.3	行政との協同による家族支援（参照：『8. 行政機関との連携』）
2	支援拠点病院の活動の普及・啓発、支援

実施結果

	開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
第1回	R6/4/27	当事者	9	当事者グループ（交流会）	オンライン
第2回	R6/8/24	当事者	7	当事者グループ（交流会）	オンライン
第3回	R6/12/21	当事者	4	当事者グループ（交流会）	オンライン
第4回	R6/6/20	学術総会参加者	不明	第120回日本精神神経学会学術総会 一般シンポジウム19 摂食障害支援拠点病院の拡がり と課題『静岡県摂食障害支援拠点病院－これまでの取り組みと今後の課題－』	札幌コンベンションセンター
第5回	R6/8/9	都立松沢病院 多職種スタッフ	16名	病院見学	浜松医科大学 医学部附属病院

■論文

Mochizuki Y, Isobe T, Endo Y, Iio A, Takebayashi K, Yamasue H. A preliminary study of collaborative group intervention with recovered peer supporters for eating disorders: Analyses including comparisons between in-person and online sessions, *PCN Rep*, 3, e200, 2024

9. 考察

(1) 摂食障害治療の地域格差について

静岡県は医療圏が東西に広がっている。県東部で開催した摂食障害フォーラムの参加者の意見から、県東部での治療のリソースが少ないことが挙げられる。静岡県内では本事業による治療連携体制の構築により早急な入院治療に対応できる状況ではあるが、外来診療については、引き続き地域格差の是正や、治療リソースの少ない地域における治療の質の向上など、治療の均てん化が必要である。本年度は県東部の小児科・精神科の治療者が参加する連携ミーティングを開催できなかったが、県東部の治療連携に関する検討会は令和7年度に開催する。

(2) 小児科と精神科の連携について

昨年度に引き続き、精神科・小児科が合同で参加する講演会および小研究会（症例検討会）を開催したが、症例検討会は精神科医の参加者が少なかった。児童思春期の症例への精神科医の関心の乏しさ、あるいは、回避制限性食物摂取症（ARFID）に精神科医が関わる機会の少なさを反映しているかもしれない。一方で拠点病院に置いて初診、入院ともにARFIDの症例が増えていることを踏まえ、ARFIDの診療についても研修会等を開催していく。ARFIDは治療方法が確立していないため、既存の治療方法や最新のエビデンスを踏まえた情報提供をしていく必要がある。

浜松市では行政主導での支援検討会に小児科医が参加し、診療上の課題について検討した。総合病院の小児科と精神科が共同で主催する摂食障害の院内勉強会を開催するなど、総合病院における両科の治療連携を図っていく。

(3) 予防・早期介入について

本事業で令和5年度に県内の小・中・高等学校・特別支援学校の全養護教諭を対象に研修会で摂食障害の研修を行ったが、フォーラムに参加する学校関係者からは、摂食症への対応の難しさが挙げられた。また、高校では保健体育の学習指導要領でうつ病、統合失調症、不安症とともに摂食障害を扱うとされているが、教育委員会のレベルでは、現場でどのような指導・教育がなされているか把握できていない状況であった（静岡県の摂食障害対策推進協議会にて）。予防・早期介入のために、学校での継続的な普及・啓発が必要であると考えられる。

10. 福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 6 年度

福岡県摂食障害支援拠点病院

Fukuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和6年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院 心療内科	812-8582	福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

2. 要旨

福岡県摂食障害支援拠点病院（旧：福岡県摂食障害治療支援センター）は2015年12月より、摂食障害患者や関係者への相談支援、摂食障害に診療経験の少ない医療機関への助言指導、県民に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、福岡県における摂食障害医療体制の構築を目指し活動している。

本年度も有識者により構成される福岡県摂食障害対策推進協議会を設置し、計画の策定、検証を行った。

相談支援における相談者数は、例年通りのペースで推移している。またメールでの相談は3割を超え、ホームページに相談フォームを作成したことで利用者が気軽にアクセスしやすくなったことが要因として考えられる。10代患者は2020年をピークに、例年並みの数に減少する傾向がある一方、20代の相談者が増加する傾向にある。

助言指導では、出張講習会を年間引き続き行っている。一昨年度より、県内の精神科・心療内科、小児科、内科系医療機関に対する連携調査を開始し、約3000の医療機関にアンケートを送付した。その結果300件以上の医療機関が連携可能であることが報告された。また、摂食障害診療で困っている医療機関などとの合同カンファレンスを行い、対応・治療に関する助言指導を行った。

普及啓発活動においては、学校関係者への研修会はハイブリッド形式で開催し、例年通り多数の参加者を得ることができた。啓発リーフレットは県内190件以上のドラッグストアに送付した。また、本年度初めて、当事者団体（摂食障害ともの会）との連携を行い、シンポジウムを開催することが出来た。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	楯林 英晴	福岡県精神保健福祉センター所長	福岡県
委員	内田 郁美	福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課	
同上	大村 重成	福岡保養院院長・福岡県精神科病院協会副会長	摂食障害治療を専門的に行なっている医師
同上	原 祐一	原土井病院副理事長・福岡県医師会常任理事	
同上	永光 信一郎	福岡大学医学部小児科学講座主任教授	
同上	小松 未央	北九州市立精神保健福祉センター所長	精神保健福祉センター 保健所
同上	川口 貴子	福岡市精神保健福祉センター所長	
同上	高田 淳子	福岡県北筑後保健福祉環境事務所保健監	
同上	今村 浩司	西南女学院大学教授 福岡県精神保健福祉士協会会長	摂食障害対策に資するもの
同上	-	-	摂食障害患者
同上	-	-	摂食障害家族
事務局	松田 京子	福岡県保健医療介護部健康増進課 こころの健康づくり推進室	/
	重松 貴博		
	増本 啓介		
	須藤 信行	九州大学病院 心療内科	
	高倉 修		
	波多 伴和		
	権藤 元治		
	戸田 健太		
	末松 孝文		
	北島 智子		

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 6 年 8 月 5 日 (Web 開催)	1. 令和 5 年度事業実績報告 2. 令和 6 年度事業実施計画 3. その他
第 2 回	令和 7 年 3 月 14 日 (書面開催)	令和 6 年度事業実績報告、令和 7 年度以降の取り組みについて

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（保健師）1名による電話・メール・面談での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～16時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・相談件数は昨年よりは減少したものの、依然として多いペースで経過した。
- ・メールでの相談が3割を占めた。ホームページに相談フォームを作成したことで、利用者が気軽にアクセスしやすくなったことが要因として考えられる。
- ・10代の若年患者に関する相談は2020年をピークに例年並みに戻ったが、20代の相談が増加傾向にある。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
304	376

居住地域（新規件数）n= 304

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほつとライン	計
238	46	20	0	304

相談者の患者との関係（新規件数）n= 304

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
121	18	74	4	13	20	6	26	12	10	304

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 304 平均年齢: 25.2 SD= 12.8 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
9	69	64	26	19	7	1	4	55	50	0	304

相談対象患者の性別（新規件数）n= 304

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
219	23	0	12	50	304

相談対象患者状態（新規件数）n= 304

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
123	120	121	92	28	7	41	15	34	46	5	1	7	37

相談対象患者属性（新規件数）n= 304

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
19	25	15	34	67	20	13	8	53	50	304

摂食障害での受診状況（新規件数） 304

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
77	9	37	61	21	3	46	254

相談経路（延べ件数）n= 376

電話	メール	面談	その他	計
259	113	4	0	376

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
44	13

0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 304

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
181	23	4	21	16	1	1	0	1	4	11	41	304

相談内容（延べ件数）n= 376

疾患相談	対応相談				受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
100	39	22	9	22	228	116	8	4

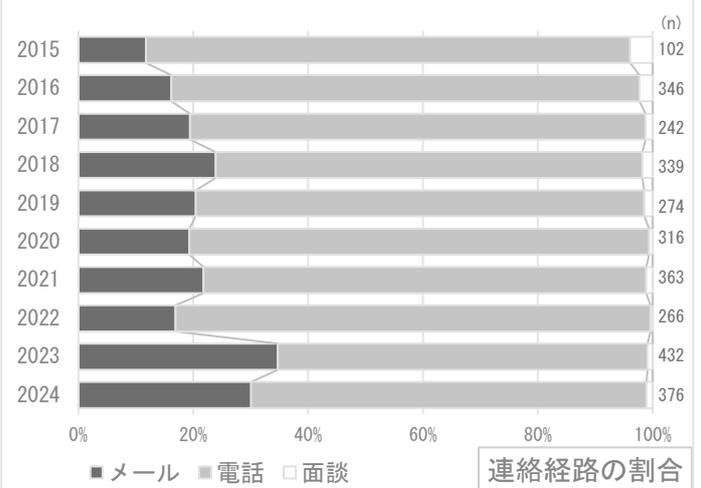
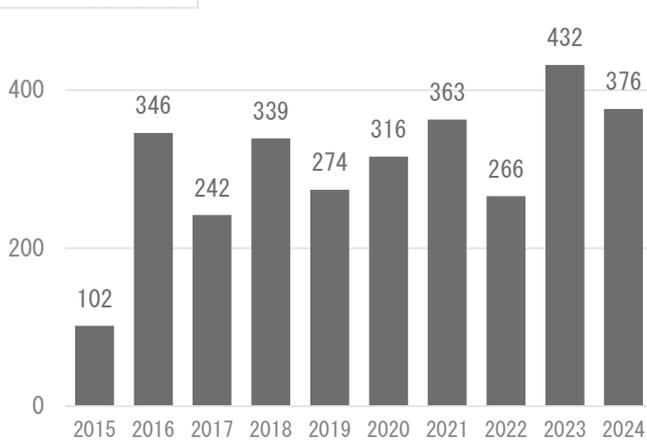
対応内容（延べ件数）n= 376

有り	紹介先				情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関	有り	疾患知識	治療受診	資料				社会資源
147	61	88	38	32	169	92	116	20	7	141	214	10

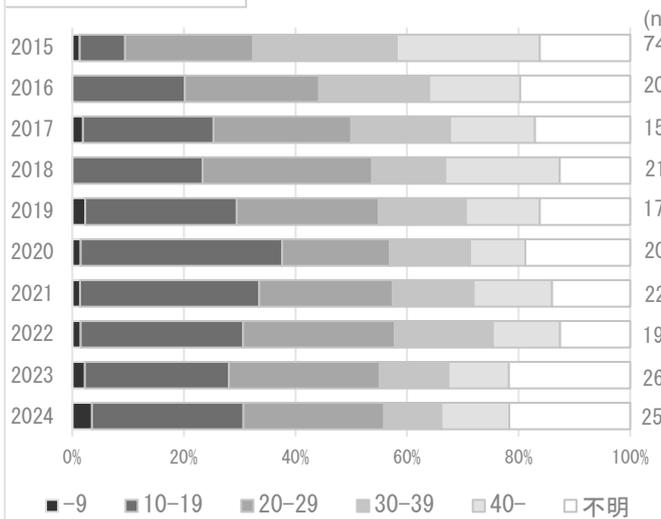
医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
20	5	6	1	4	1	4

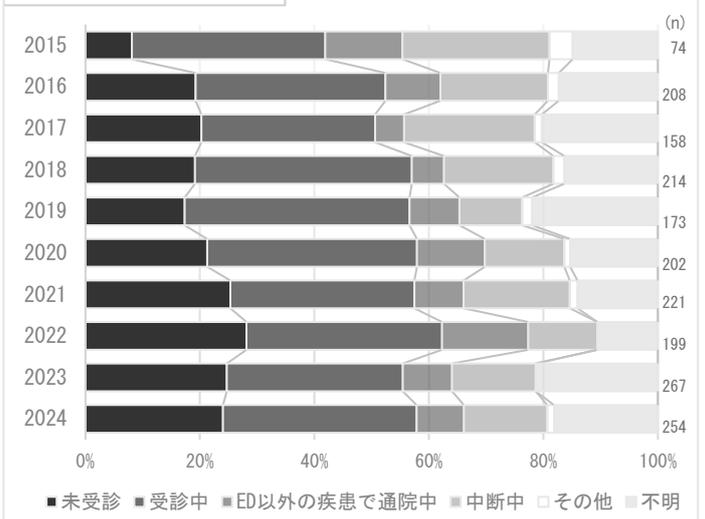
延べ相談件数



対象者年齢の割合



受診状況と経年変化





5. 治療支援

治療体制・計画

- ・心療内科医師 5 名。
- ・身体的に重篤な患者に関して (BMI < 12kg/m²) は九州大学病院心療内科などの内科系の医療機関の受診を促し、衝動性の強いパーソナリティ障害が疑われるような症例は、精神科系の医療機関への受診を促す。
- ・病状に応じて患者を診療できるような医療機関の連携体制を構築するために、医療機関向けに研修や適宜連携カンファレンス、連携会議などを行い、患者を診療できる医療機関をさらに増やす。
- ・九州大学病院子どものこころの診療部と引き続き連携していく。
- ・昨年度までに実施した医療連携に関する調査の解析を行う。

治療支援実施結果

- ・聖ルチア病院職員を招き、合同カンファレンスを行った。
- ・福岡中央病院に出向き、摂食障害診療の地域連携に関する会議を実施した。
- ・九州大学病院子どものこころの診療部と連携、今年度も「コロナ禍の子どもの心の実態調査」の依頼があり、データを提出した。また別途「回避・制限性食物摂取症の診療に関する我が国の実態把握と早期発見システムの構築」の調査依頼もあり、回答に協力した。
- ・医療連携に関する調査では、県内の精神科、心療内科、小児科、内科を有する医療機関 3071 施設に送付、1088 の施設から回答を得た (有効回収率 35.4%)。

支援拠点設置病院

初診患者数 (R6.4-R7.3) 89 人

初診患者数	89 人							
性別	女性	男性						
	82 人	7 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	0 人	39 人	27 人	13 人	4 人	4 人	2 人	0 人

診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	29人	23人	22人	5人	2人	7人	1人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	67人	0人	22人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	6人	6人	18人	7人	9人	11人	23人	7人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介			BMI不詳 2名	
	63人	16人	2人	8人				
治療期間平均	4.8ヶ月							

入院患者数 (R6.4-R7.3) 79人

入院件数

延べ入院件数
79

入院日数

1~30日	31~90日	91~180日	181~365日	366日以上	計
33	24	20	2	0	79

性別

男性	女性	その他	計
0	79	0	79

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	31	12	11	18	5	2	0	79

他施設からの紹介

はい(有り)								小計	いいえ(無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
2	0	3	0	2	0	0	7	72	79	

他施設への紹介

はい(有り)								小計	いいえ(無し)	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他				
0	0	0	0	0	0	0	0	79	79	

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED		79
37	24	15	1	0	1	1	79

BMI (全体) 入院時

n= 79

11未満	11~12未満	12~13未満	13~14未満	14~15未満	15~16未満	16~17未満	17~18未満	18~19未満	19~20未満	20以上	不明	計
9	5	7	10	10	10	3	5	3	3	0	14	79

合同カンファレンス

- ・日時：R6年6月26日（木）17時半～19時
- ・場所：九州大学病院 心療内科カンファレンスルーム
- ・内容：病棟見学、ケース相談

摂食障害診療の地域連携に関する会議

- ・日時：R6年9月5日（木）15時～16時
- ・場所：福岡中央病院 東館3階会議室
- ・内容：拠点病院事業紹介、摂食障害について、対応・治療など現状報告など

医療連携に関するアンケート調査

【目的】 県内の摂食障害診療の状況や医療連携について把握する

【対象】 福岡県内の精神科、心療内科、小児科、内科を有する医療機関 3071施設

【方法】 メール、郵送により送付、郵送・FAX回収、オンライン回答

対象	送付方法	調査期間	送付数
精神科	メール	令和4年11月21日～令和4年12月16日	117
精神科・心療内科	郵送	令和5年2月1日～令和5年2月17日	254
小児科	郵送	令和5年2月1日～令和5年2月17日	726
内科	郵送	令和5年12月6日～令和6年2月16日	1974

【回収状況】

対象	送付方法	送付数	有効回収数	回収方法			有効回収率
				WEB	FAX	郵送	
精神科	メール	117	39	39	-	-	33.3%
精神科・心療内科	郵送	254	107	17	17	73	42.1%
小児科	郵送	726	249	70	36	143	34.3%
内科	郵送	1974	693	145	119	429	35.1%
計	-	3071	1088	271	172	645	35.4%

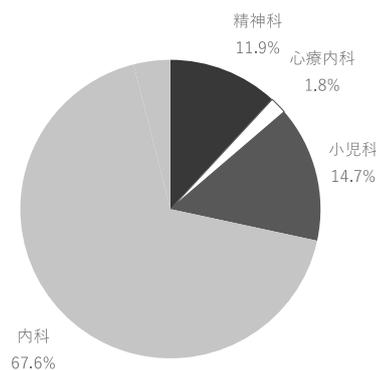
【調査項目】

- ・主たる診療科
- ・摂食障害患者の診察人数
- ・県内の医療連携が進めば、摂食障害の診療を行うことは可能か

【調査結果】

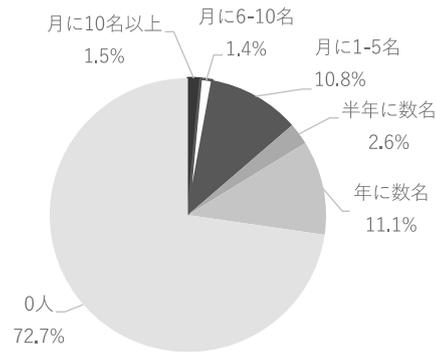
1) 主たる診療科

診療科	n
精神科	129
精神科・心療内科	20
小児科	160
内科	779
計	1088



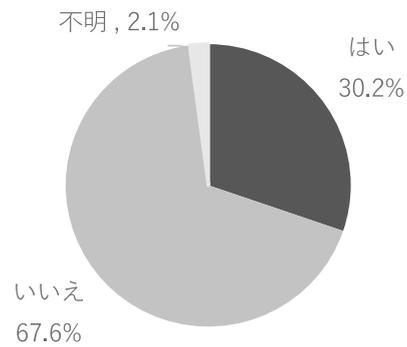
2) 摂食障害患者の診察人数

診察人数	n
月に10名以上	16
月に6-10名	15
月に1-5名	117
半年に数名	28
年に数名	121
0人	791
計	1088

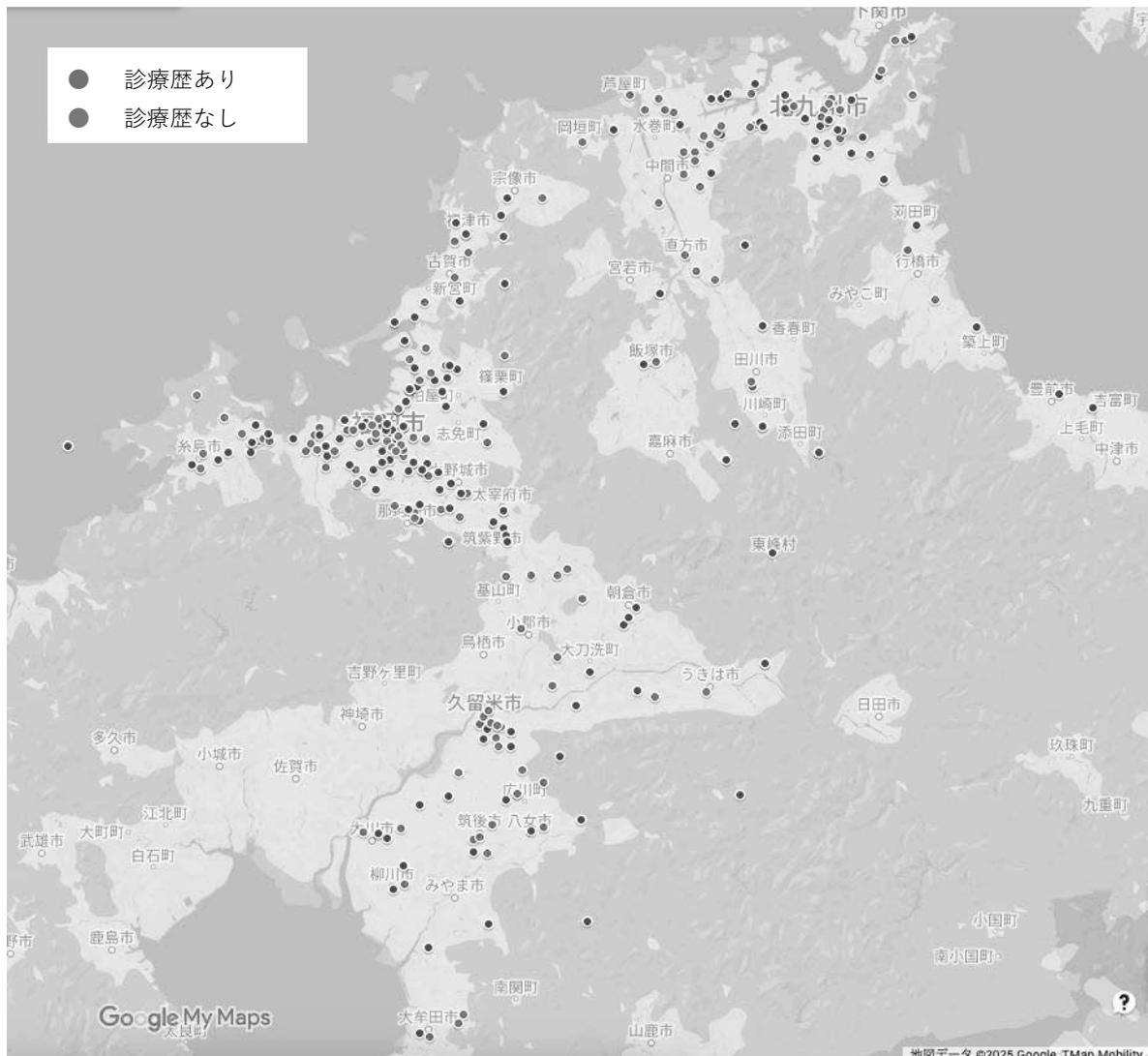


3) 県内の医療連携が進めば、摂食障害の診療を行うことは可能か

診療可能	n
はい	329
いいえ	736
不明	23
計	1088



4) 医療連携可能と回答した医療機関地図



6. 研修

研修体制・計画

- ・ 県内の精神科病院等に対し、出張講習を実施する。
- ・ 医療関係者を対象とした摂食障害に関する研修会を開催する。
- ・ 摂食障害の理解促進を図るため、学校関係者向け研修会を実施する。

研修実施結果

- ・ 外部からの研修会の申し込みが増えた。
- ・ 研修会を実施したところから、次年度の開催の要望があった。
- ・ 出張講習では、今年度もクリニックからの申し込みがあり実施予定である。
- ・ 出張講習では、研修先の機関が関連施設や近隣の医療機関に声かけがあり、参加者増につながっている。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
R6.6.7	研修会	京築ブロック保健師	京築ブロック保健師研究協議会 「摂食障害とその治療」	苅田町パンジープラザ	16
R6.7.24	研修会	九州大学キャンパス ライフ・健康支援センター	摂食障害を疑うときには	オンライン	40
R6.10.9	研修会	養護教諭	令和6年度専門研修（短期研修）	福岡県立スポーツ科学情報センター	40
R6.10.28	研修会	医療関係者	小児生活習慣病検診実施登録医療研修会	福岡市医師会館	/
R6.11.1	研修会	医療関係者	高知県医師会かかりつけ医 精神疾患向上研修会	オンライン	
R6.12.23	研修会	学校関係者	学校関係者向け摂食障害研修会 「摂食障害の治療 ～実際の症例を通して～」	九州大学病院 第2薬局棟2階 会議室 /オンライン	145 現地 32 Web 113
R7.2.6	出張講習	かしい心療クリニック	摂食障害 概論/症例編	かしい心療クリニック	24
R7.2.21	出張講習	原土井病院	摂食障害 概論/症例編	原土井病院	40



学校関係者向け研修会アンケート結果

【回答】109（回収率 75.2%）

【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・ 治療の実際を知ることができてよかった。
- ・ 摂食障害がどうして起こってしまうのか、そしてどのように病院が関わっているか知ることができた。
- ・ 学校側との連携が大事で、受診のきっかけに繋がると思った。
- ・ もっと積極的に医療に繋げるべき疾患だと改めて感じた。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、県民向け公開講座を実施する。
- ・リーフレットなどの要望があった場合には適宜送付する。
- ・ホームページを随時更新する。
- ・ホームページに情報配信のページを新設、希望者に対してセミナーの案内などを送信する。
- ・インターネット（関連機関 HP との連携や SNS）を利用した情報発信を促進する。
- ・県内ドラッグストアに対し、利用案内、疾患啓発リーフレット、相談案内カードを配布し、周知を図り、相談に繋げる。
- ・患者、家族会と連携を進めていく。

普及啓発活動実施結果

- ・ホームページに情報配信のページを作り、登録者に向けセミナーの案内を行った。
- ・県内ドラッグストアに各種リーフレットを送付した。
- ・当事者団体と連携し、シンポジウムを開催した。治療者より治療の最前線を報告し、当事者が体験談を述べ、それぞれの立場からディスカッションを行った。
- ・インターネットのアクセス数は昨年比増加した。

講演会

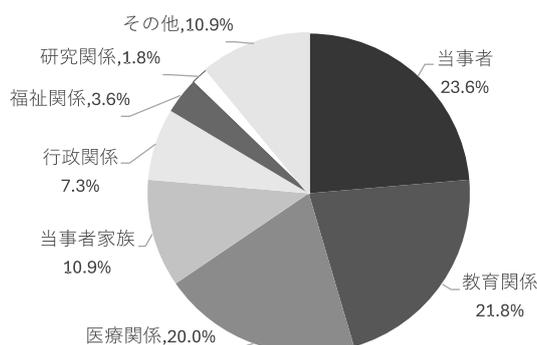
開催日	種別	対象者	参加数	内容	実施場所
R6.10.27	シンポジウム	一般	161 オンライン：121 会場：40	当事者団体とのコラボ企画 「ともに向き合う 摂食障害シンポジウム」	オンライン / 福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん
R7.3.29	公開講座	一般	100 オンライン：95 会場：5	「摂食障害からの回復のために ：こころと身体の状態を知る」 講師：九州大学病院心療内科 波彦伴和	九州大学病院 第2薬局棟2階会議室



「ともに向き合う摂食障害シンポジウム」参加者アンケート

【回答】55

【結果】参加者の内訳



【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・当事者の話を聞くことで、どんなことを感じているのかを知ることができた。
- ・摂食障害は治る病気だと分かった。
- ・各先生、当事者が関わりながらシンポジウムに至ったことが素晴らしいと思った。点が線になり、仲間になることは心強いと思った。
- ・拠点病院によるシステムづくり、予防や早期発見の学校との連携など初期対応の大切さを学んだ。
- ・改めて思ったがこんなにも治療施設が少ない事、探してもすぐに受診できない事、早期受診できる体制は重要だと思う。

メディア関係

開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R6.12.9 取材 R7/2/11,25,28 オンエア	RKB 毎日放送 「ニュース タダイマ！」	摂食障害について、近年の動向
R6.12.12 取材	NHK 福岡放送局	・摂食障害について ・福岡県摂食障害支援拠点病院の取り組み

出版物

■ 雑誌

- ・高倉修. 摂食症（摂食障害）診療における臨床倫理—心療内科の立場から—. 心身医学 64(3) : 247-52, 2024
- ・高倉修. 福岡県摂食障害支援拠点病院の九州大学病院—西日本唯一の摂食障害支援拠点病院として—. 九大病院ニュース 47号 : 2-3, 2025

ホームページ

- ・（R6.4-R7.3）
訪問数：66,829
訪問者数：21,542
- ・情報配信ページ新設



リーフレット

- ・配布

配布日	配布先	配布物
R6.5.24	ドラッグストア 4社 198店舗	・利用案内リーフレット ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット 各1部 ・相談案内カード 10枚

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、学校関係者向け研修会、県民向け公開講座を実施する。
- ・研修案内は県の関連部署に依頼し、案内周知に協力を得る。
- ・出張講習先の選定や事業内容について、協力を得る。

研修実施結果

- ・学校関係者向けの研修会、摂食障害シンポジウムについて、県担当者から福岡県、北九州市、福岡市、私学・国立の教育担当部署に依頼して案内を行なった。
- ・出張講習の案内においては、今年度も福岡県精神神経科診療所協会へも依頼し、案内を見たクリニックから出張講習の希望があり実施した。
- ・案内通知に伴い、各窓口の担当部署が整理された。
- ・次年度に向けた事業計画を、適宜相談できている。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R6.5.13	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ ・協議会について ・今年度計画について (研修会、リーフレット送付、医療連携に関する調査、協議会など) ・ドラッグストアへのリーフレット配布、協力要請 	福岡県庁 こころの健康 づくり推進室
R6.6-7		協議会開催について	(メール)
R6.8		当事者団体とのコラボ企画シンポジウムについて	(電話)
R6.10		出張講習先選定について	(電話・メール)
R6.12		研修会案内について	(電話・メール)
R6.12	福岡教育大学附属 学校課	国立学校へのリーフレット配布について	(電話)
R6.12	事務局	次年度計画について	(電話・メール)
R7.2-3	事務局	次年度計画について	(電話・メール)

9. その他の活動

実施体制・計画

- 福岡県の指標
 - ① 支援拠点病院への相談件数（相談者の属性・相談内容・相談方法別）
 - ② 支援拠点病院における患者数：性・年齢別、疾病の属性別、外来・入院別
 - ③ 支援拠点病院における治療期間（治療終了、治療中、治療中断別）
 - 治療中の患者の 2024 年 3 月 31 日までの平均治療期間
 - 治療中断した患者の平均治療期間
 - 治療終了した患者の平均治療期間
 - ④ 支援拠点病院における受診後の患者の経過
 - 定期通院をしている患者の割合
 - 1 回の受診のみの患者の割合
 - 他院へ紹介した患者の割合
 - 中断した患者の割合
 - ⑤ 研修した医療機関受講者数
 - 医療機関における受講者数・理解度
- 全国支援センターより依頼の活動

実施結果

- ① 「4.相談支援」参照。
- ② ③ ④ 下表参照。
支援拠点病院から九大病院へ紹介し受診に至った患者の割合は 3 割程度であった。
- ⑤ 受講者数は「6.研修」参照。理解度は 74.6%であった。

相談窓口から九州大学病院を案内し、実際に受診した患者数 (R6.4-R7.3) 26 人								
性別	女性	男性						
	26 人	0 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	0 人	8 人	12 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	5 人	7 人	10 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	20 人	0 人	6 人				BMI 不詳	1 人
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	0 人	2 人	5 人	1 人	0 人	3 人	10 人	4 人

治療状態

治療状態	患者数	割合	平均治療期間	標準偏差	最小	最大
治療中	24人	92.3%	147.5日	110.8	5日	313日
治療中断	2人	7.7%	36.0日	14.0	21日	49日
他院へ紹介	0人	-%	-日	-	-日	-日
(1回のみ受診)	0人	-%	-	-	-	-
計	26人	-	138.8日	96.4	5日	313日

10.考察

相談支援：

相談者数は昨年同様の推移であり、メール相談が3割を占めるまでとなった。これは、ホームページ機能に、相談フォーム機能を追加し、アクセスしやすくなったことが影響していることが考えられる。10代の若年者の相談者の割合増加は2020年がピークで減少傾向にある一方で、20代を増加傾向にある。COVID-19パンデミック期間中に受診を控えた患者が、コロナ禍が明けたことから、相談をするようになってきているのかも知れない。

助言指導：

連携医療機関の増加により、九大病院以外の医療機関への患者案内が進んでいる。背景には、県内の医療連携の充実が考えられ、引き続きの助言指導の重要性が示唆された。連携医療機関に関するアンケートでは、300件以上の医療機関が、連携が進めば診療可能であることが判明した。今後、こうした医療機関への研修会などを開催し、県内医療機関における治療の普及の均てん化をはかり、県内の医療連携をさらに充実させることが望まれる。

普及啓発：

早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。本年度は多数の学校関係者の参加が得られ、その関心の高さが窺えた。ホームページのアクセス数の増加は、HPへのリーフレット掲載など、コンテンツの充実が寄与した可能性が考えられる。また、当事者団体とのコラボレーション企画では多数の当事者に治療の必要性や治療内容を啓発することができた。引き続き、普及啓発活動を行い、摂食障害患者の早期発見・早期治療を促し、県内・院内の医療連携を強化していく。

11. 令和 6 年度の活動成果と課題、提言

摂食障害全国支援センター長 関口敦

はじめに

我が国における、摂食障害の医療体制の問題点は患者の相談・治療・支援につながる窓口が明確でないこと、専門的治療に至る経路が確立していないこと、専門的治療や支援の受け皿が少ないことである。平成 26 年度から厚生労働省による摂食障害治療支援センター設置運営事業がスタートした。本事業は我が国の摂食障害患者およびその医療・支援の現状を改善する契機になることが期待される。

I. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の概要

摂食障害支援拠点病院は精神科、心療内科、小児科外来を有する救急医療体制が整備された総合病院に設置され、その役割は、①摂食障害に関する専門的な相談支援、②急性期における摂食障害患者への適切な対応、③医療機関等への助言・指導、④関係機関等との連携・調整、⑤摂食障害患者やその家族、地域住民等への普及啓発活動とされている。支援拠点病院を統括する全国拠点機関〔摂食障害全国支援センター（全国支援センター）〕の役割は、①全国摂食障害対策連絡協議会（協議会）開催、②支援拠点病院との連携、③情報ウェブサイトの運営、④相談事例の収集と解析、⑤研究や研修の実施である。

II. 令和 6 年度までの事業の経過

平成 27 年 2 月 5 日に摂食障害全国基幹センターが国立精神・神経医療研究センター（NCNP）に指定された。平成 27 年度は 10 月 1 日に宮城県（東北大学病院心療内科）に、10 月 21 日に静岡県（浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科）に、12 月 24 日に福岡県（九州大学病院心療内科）に摂食障害治療支援センターが指定され、全国基幹センターと 3 箇所の治療支援センターでの活動が開始された。平成 29 年 10 月 19 日には千葉県摂食障害治療支援センター（国立国際医療研究センター国府台病院心療内科）が開設され治療支援センターは 4 ヲ所になった。平成 29 年度末には、平成 26 年度から 29 年度までのモデル事業の取り組みをまとめて報告書を作成した。平成 30 年度からの第 7 次医療計画では、向こう 5 年以内に摂食障害の都道府県拠点機能を担う医療機関（拠点病院）を明記することが定められ、本事業の取り組みが参考にされることと記載された。モデル事業としては平成 29 年度で終了した。平成 30 年度からは、全国基幹センターは NCNP への継続的な指定が決まり、治療支援センターは、地方自治体向け事業として継続されることとなった。

令和 3 年に、てんかん地域診療連携体制整備事業と名称を合わせることとなり、「摂食障害全国基幹センター」は「摂食障害全国支援センター」へ、「摂食障害治療支援センター」は「摂食障害支援拠点病院」へ名称を変えた。また、初代センター長の安藤哲也の退官に伴い、2 代目のセンター長に関口敦が就任し、井野敬子を副センター長に指名した。本事業のミッションとして、新たな支援拠点病院の指定、摂食障害入院医療管理加算が算定できる病院の増加が課された。支援拠点病院新規指定を目指した設置準備研修会や、摂食障害治療・支援者のすそ野を広げるとともに摂食障害専門治療施設の支援を目指して、外来/入院治療者向けの研修会を開催した。これら事業を続ける中で、令和 4 年 10 月 1 日に金沢大学附属病院神経科精神科が石川県摂食障害支援拠点病院に、令和 5 年 10 月 1 日に福井大学医学部附属病院が福井県摂食障がい支援拠点病院に 2 年連続で北陸地方の支援拠点病院として指定された。福井県は指定前から

2年半にわたり支援を行っており、これら支援体制のノウハウを定式化した『支援拠点病院設置準備サポート』として、新規指定前後の全国支援センターの支援方略も明確できた。

その後、令和6年4月1日に獨協医科大学病院精神神経科が栃木県摂食障害支援拠点病院に、7月1日に東京都立松沢病院が東京都摂食障害支援拠点病院に指定された。大都市圏の東京都での支援拠点病院の運営は様々な困難が予想されたために、東京都の設置準備の際には東京都からの委託事業をNCNPで受託し、東京都内の医療資源調査を行い都内の診療連携の基盤構築を支援した。

普及啓発活動として、一般社団法人日本摂食障害協会とダブル主催で『世界摂食障害アクションデイ』を令和3年より例年企画として開催している。また、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して、全国を対象とした電話相談事業、摂食障害『相談ほっとライン』を運営している。開設当初より増枠し、全国の相談ニーズに込えている。令和6年7月より東京都摂食障害支援拠点病院が電話相談を開始したことにより、相談対応の負担の分散化も図れている。

Ⅲ. 事業の成果、課題、提言

1. 事業の成果

1-1. 新規摂食障害支援拠点病院の指定

- 令和6年4月に栃木県、7月に東京都に摂食障害支援拠点病院が新たに指定され、全国の支援拠点病院は8施設となった。
- 拠点病院未設置地域の医療機関や自治体に対し、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」を活用しながら支援を実施し、新規指定を促進した。
- 東京都の拠点病院開設により、相談支援の地域分担が進み、「相談ほっとライン」への東京都からの相談件数が減少した。

1-2. 診療連携体制の強化と研修会の実施

- 外来治療研修（2回）、入院治療研修（2回）、小児治療研修（1回）をオンラインで開催し、診療の質の向上を図った。
- 小児治療研修会には小児科医を中心に600名を超える小児科医両従事者が参加し、小児科領域の摂食障害支援の必要性が高まっていることを確認した。
- 厚生労働省の中里班で作成中の「小児摂食障害プライマリー診療手引き（仮）」および「精神科医もできる 拒食症身体治療マニュアル（第2版）」を活用し、日本摂食障害学会とも連携した研修体系の整備に向けた取り組みが進行中である。

1-3. 普及啓発活動の強化

- 情報ポータルサイトの更新を継続し、NCNPおよび日本摂食障害協会が作成した啓発動画の紹介コーナーを新設した。
- 世界摂食障害アクションデイ2024では「摂食障害とメディアの良い関係を目指して～SNS動画を見て自信なくしていませんか？～」をテーマに市民公開講座を開催し、90名が参加した。
- メディア対応に加えて、高校生からの取材や摂食障害に関する問い合わせ対応を行い、学校教育における摂食障害の理解促進にも寄与した。

2. 事業の課題

2-1. 新規支援拠点病院指定への支援

- 静岡の好事例の移植により、石川県に続き福井県にも摂食障がい支援拠点病院の指定が達成され、静岡方式は1県1医大体制の自治体に適していることが改めて実証された。一方で、大都市部での拠点病院（大阪、愛知、神奈川など）の新規指定の動きは限定的であったが、令和6年7月に東京都に支援拠点病院が新規設置され大都市圏での診療連携モデルの提案に寄与すると考えられる。令和5年には東京都の資料資源調査が行われており、患者への情報提供や診療連携にその情報が生かされている。東京都での支援拠点病院の指定および運営の好事例が生まれることにより、大都市圏での新規設置に向けた強力な後押しが期待できる。
- 『支援拠点病院設置準備サポート』の展開により、10県を超える医療機関や自治体関係者との打ち合わせやヒアリングを実施しているが、新規指定に向けた具体的な動きは限定的である。新規指定へのボトルネックは、①医療機関/自治体が摂食障害支援ニーズを把握していない、②摂食障害対策の優先度を上げられないために予算確保が難しい、③現状の摂食障害診療体制に問題を感じていない、④医療機関側に摂食障害診療を実施する余裕がない、ことに大別されている。支援拠点病院の設置による効果を明確にし、これら障壁に対して、地域性を加味した対策を提案し、より具体的な指定の動きを支援していく必要がある。
- 全国支援センターとして、支援拠点病院設置準備サポートの展開を加速させることができおり、厚生労働省、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会との連携も深め、オールジャパン体制を構築して、各々の立場で可能な限りのサポートをできる体制を整える必要がある。

2-2. 拠点病院/入院治療施設への負担の分散

- 拠点病院を含む摂食障害の入院治療を担当している医療機関において、退院後の外来治療を担える医療機関が不足しているために、外来患者数が蓄積している現状が報告されている。
- 全国支援センターで開発した外来治療研修は、初期診療から専門施設に紹介するまでの摂食障害診療に重きを置いた研修であったことから、外来のみでの継続診療、入院治療を終えた回復期の診療を担える施設の拡充には至っていなかった。
- 既存の外来治療研修に、外来のみでの継続診療や入院治療を終えたフェーズの外来診療を行うノウハウを伝える講義を追加することにより、拠点病院/入院治療施設に集中しがちな外来患者を紹介できる診療所を増やしていく必要がある。

2-3. 小児期治療体制の構築

- 15歳未満の摂食障害患者の診療は小児科と児童・思春期精神科が担っているが、児童・思春期精神科医の数的制約から現実的には小児科医が担う役割が大きい。
- 成人例を診療している精神科医が、児童・思春期精神科のトレーニングを受けることを促すことによる小児期の摂食障害診療の受け皿となることが期待されるが、児童・思春期精神科医は摂食障害以外にも発達障害や虐待被害児の対応などニーズが高まっている。
- 児童・思春期精神科の外来は、初診が数か月待ちの状況が全国的に続いており、低体重で身体的に重症度の高い神経性やせ症や会費・制限型食物回避症の患者を数か月待ついただくことはできず、必然的に小児科医が対応せざるを得ない状況が続いている。小児科における摂食障害の支援者支援のニーズが強いことが確認され小児治療研修会を新たに開催した。本研修を継続することで、

小児科医が摂食障害診療を担えるように働きかける必要がある。

3. 今後の提言

3-1. 大都市圏での診療連携モデルの提案

- 大都市圏は医療資源が量的には豊富であることから傍観者効果が生じてしまい、各医療施設が当事者意識をもって摂食障害診療に携わる動機が上がりにくい傾向が懸念される。このような大都市圏特有の課題を勘案して、医療資源の調査を通じて診療連携ネットワークの構築を提言する。
- 具体的には、東京都の委託事業として行った都内の医療資源調査の結果を踏まえて各医療施設の得意分野を生かした診療連携ネットワークの構築が望ましい。摂食障害支援拠点病院を基軸とし、大学医局の枠を超えた診療連携ネットワークが必須である。
- これら大都市圏内の医療機関間での診療連携ネットワークを構築し、患者のスムーズな紹介や情報共有を促進したい。

3-2. 拠点病院運営の効果検証

- 既存の拠点病院や新規拠点病院候補となる医療機関の運営実態の調査および、拠点病院指定による効果検証の実施を提言する。
- 静岡の好事例モデルの展開が進んでおり、静岡摂食障害支援拠点病院での有効性を示すデータ（初診時の罹病期間の短縮、初診時 BMI の上昇、入院期間の短縮、入院患者数の増加、退院時 BMI の増加など）は集まっている。更に、静岡モデルから推計される年間入院患者数（人口 100 万人に 50 例の入院治療ニーズ、うち 20 例の超低体重治療ニーズ）の推計が提示できるようになった。
- 静岡モデルの有効性が、新規拠点病院や好事例モデルを導入している拠点病院においても再現されているかの検証が必要である。

3-3. 小児期治療を担う精神科施設と小児科施設の支援

- 小児期の摂食障害患者に対する適切な治療提供を確保するため、精神科施設と小児科施設の支援の強化を提案する。
- 成人例を診療する精神科施設は多数存在するが、小児期の摂食障害診療を担う児童・思春期精神科医の育成は立ち遅れている。児童・思春期精神科医の育成は他の事業でも取り組んでいることから、本事業では小児科施設の医療者の支援と、小児科施設と精神科施設との連携体制を構築し、スムーズな患者紹介や情報共有を実現することを目指すことが先決であると考えられる。
- 具体的には、小児期の摂食障害治療に特化した治療研修プログラムを開発する。まずは、児童・思春期精神科に比して圧倒的に施設数が多い小児科の医療施設の医師/看護師を対象とした研修会を行う。これにより、小児科施設の専門知識と技術の向上を図る。

12. 令和6年度全国摂食障害対策連絡協議会委員

氏名		所属・役職
関口 敦	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 心身症研究室長
井野 敬子		国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 ストレス研究室長
井上 智子		国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 テクニカルフェロー
廣方 美沙	全国支援センター (相談ほっとライン)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン (委託)
金澤 素	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科/東北大学大学院医学系研究科心療内科学 特命教授・科長/准教授
佐藤 康弘		東北大学病院心療内科 副科長・講師
阿部 麻衣		東北大学病院心療内科 コーディネーター
古郡 規雄	栃木県支援拠点病院	獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授・診療部長
加納 優治		獨協医科大学 小児科学講座 講師
佐藤 由英		獨協医科大学精神神経医学講座 助教・外来医長
田崎 香澄		獨協医科大学精神神経医学講座 摂食障害治療支援コーディネータ・看護師
河合 啓介	千葉県支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 診療科長
田村 奈穂		国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 医師
鈴木 一恵	東京都支援拠点病院	東京都立松沢病院 内科
久和 俊介		東京都立松沢病院 精神科
稲熊 徳也		東京都立松沢病院 精神科
加藤 陽子		東京都立松沢病院 患者地域サポートセンター
濱中 恵子		東京都立松沢病院 心理室
逆瀬川 純子		東京都立松沢病院 看護部
山田 理江		東京都立松沢病院 看護部
大場 直樹		東京都立松沢病院 看護部
近藤 雄介		東京都立松沢病院 事務局
設楽 歩		東京都立松沢病院 事務局
菊知 充	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 教授
佐野 滋彦		金沢大学附属病院 神経科精神科 講師
水上 喜美子		金沢大学附属病院 神経科精神科 特任助教
堂本 彩未		金沢大学附属病院 神経科精神科
長江 巴那子		金沢大学附属病院 神経科精神科
多田 浩昌		金沢大学附属病院 神経科精神科
小坂 浩隆	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 教授
大森 一郎		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 准教授
上野 幹二		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 講師
眞田 陸		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
石橋 知明		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
幅田 加以瑛		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
牧野 拓也		公認心理師 臨床心理士
水野 有香		公認心理師 臨床心理士
竹林 淳和		浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 講師
磯部 智代	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 臨床心理士
村越 優		浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 看護師
高倉 修	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 講師
波彗 伴和		九州大学病院 心療内科 助教

氏名		所属・役職
権藤 元治		九州大学病院 心療内科 助教
北島 智子		九州大学病院 心療内科 保健師
田中 増郎	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
藤井 裕美子		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
山形 敬宏		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
松川 萌花		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
稗田 明恵		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
作田 亮一	専門治療医師	獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長
吉内 一浩	専門治療医師	東京大学医学部附属病院心療内科 病院教授
三井 信幸	専門治療医師	北海道大学病院精神科神経科 准教授
山内 常生	専門治療医師	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学 講師
安藤 哲也	専門治療医師	日本摂食障害学会 理事長 国際医療福祉大学医学部教授
鈴木 眞理	摂食障害対策に資するもの	日本摂食障害協会 常任理事、 跡見学園女子大学・大学院心理学部臨床心理学科 特任教授

13. 令和6年度摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員

摂食障害全国支援センター

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施担当者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施責任者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
井上 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	リサーチフェロー
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科(委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)	看護師・保健師

宮城県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
金澤 素	東北大学病院心療内科／東北大学大学院医学系研究科心療内科学	特命教授・科長／准教授
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	副科長・講師
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	医員
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

栃木県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座	主任教授・診療部長
白石 秀明	獨協医科大学医 小児科学講座	主任教授
加納 優治	獨協医科大学医 小児科学講座	講師
佐藤 由英	獨協医科大学精神神経医学講座	助教・外来医長
赤井 昌子	獨協医科大学病院 看護部	精神科病棟師長
小鷲 明美	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
竹澤 恵美子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
田崎 香澄	獨協医科大学精神神経医学講座	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
田崎 香澄	看護師

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
長谷川 遥奈	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	フェロー
鈴木 茉由	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
西田 拓生	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
池田 萌里	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	レジデント
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	心理療法士
池田 知恵子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
前川 知香	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
----	----------

池田 知寿子	看護師, 公認心理師
前川 知香	看護師, 公認心理師

東京都摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
鈴木 一恵	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 内科	医長
稲熊 徳也	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
久和 俊介	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
濱中 恵子	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	係長
大場 直樹	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	師長
田伏 美穂	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	主事
加藤 陽子	東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター	職員

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
濱中 恵子	公認心理師
田伏 美穂	看護師
大場 直樹	看護師
加藤 陽子	精神保健福祉士

石川県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	講師
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 神経科精神科	特任助教

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
国木 智佳穂	公認心理師 臨床心理士
宮島 文恵	看護師

福井県摂食障害がい支援拠点病院

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
大森 一郎	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	准教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教

石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教

摂食障がい治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士
中道 秀尚	公認心理師 臨床心理士

静岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

福岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

14. 摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧

拠点機関名	設置施設	郵便番号	住所	電話番号
摂食障害 全国支援センター	国立精神・神経医療研 究センター	187-8553	東京都小平市小川東 4-1-1	042-341-2711 (代)
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院 心療 内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1	022-717-7328
栃木県摂食障害 支援拠点病院	獨協医科大学病院 精神神経科	321-0293	栃木県下都賀郡壬生町 大字北小林 880	0282-86-1111 (代)

千葉県摂食障害 支援拠点病院	国立国際医療研究セ ンター 国府台病院心療内科	272-8516	千葉県市川市国府台 1-7-1	047-372-4792
東京都摂食障害支 援拠点病院	東京都立松沢病院	156-0057	東京都世田谷区上北沢 2-1-1	050-5536-6200
石川県摂食障害 支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827
福井県摂食障がい 支援拠点病院	福井大学医学部附属 病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺町 松岡下合月 23-3	0776-61-3111
静岡県摂食障害 支援拠点病院	浜松医科大学医学部 附属病院 精神科神 経科	431-3192	静岡県浜松市東区 半田山 1-20-1	053-435-2635
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院心療内 科	812-8582	福岡県福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

摂食障害全国支援センター

摂食障害全国支援センター：<https://edcenter.ncnp.go.jp/index.html>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)：https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)：https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/

相談ほっとライン：<https://sessyoku-hotline.jp/>

宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

栃木県摂食障害支援拠点病院：<https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/edsupport/>

千葉県摂食障害支援拠点病院：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

東京都摂食障害支援拠点病院：<https://www.tmhp.jp/matsuzawa/sesshoku.html>

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>